

講義コード (Course Code)	210013N0J
授業名 (Course Title)	応用言語学 English-medium instruction
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	沖原 勝昭
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

別紙参照

講義コード (Course Code)	210015N0E
授業名 (Course Title)	英語プレゼンテーション特論 Seminar on Presentations in English
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	York Weatherford
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『The Art of Public Speaking, 12th Edition』 Lucas, Stephen E. McGraw Hill 2014
参考文献 (References)	
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, how to use language effectively, etc.

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・ Attend classes regularly.
- ・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

#### ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. Read the assigned textbook chapters
  2. Complete critical reading assignments
  3. Prepare speeches/presentations
- ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Assignments (35%)  
Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)  
PowerPoint files (20% x 1 = 20%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction, Including Assessing Your Presentation Skills  
第2回 Presentation #1 on Self-Introduction & Chapter 1: Speaking in Public  
第3回 PowerPoint Workshop & Chapter 2: Ethics and Public Speaking  
第4回 Chapter 3: Listening  
第5回 Chapter 4: Giving Your First Speech  
第6回 Chapter 5: Selecting a Topic and a Purpose  
第7回 Chapter 6: Analyzing the Audience  
第8回 Chapter 7: Gathering Materials  
第9回 Presentation #2: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 8: Supporting Your Ideas  
第10回 Chapter 9: Organizing the Body of the Speech  
第11回 Chapter 10: Beginning and Ending the Speech  
第12回 Chapter 11: Outlining the Speech  
第13回 Chapter 12: Using Language  
第14回 Chapter 13: Delivery  
第15回 Presentation #3: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 14: Using Visual Aids

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210019N0E
授業名 (Course Title)	アカデミックリーディング & ライティング
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	Robert Kritzer
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)
テキスト (Textbook)	『MLA 英語論文作成ガイド』
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

Students will read, outline, and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts, they will also submit two 5-page papers on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two papers

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60 hrs

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Classroom performance, summaries, outlines 30% Papers 70%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introductory class
- 第2回 Outlining: outline of the first article
- 第3回 Summarizing: summary of the first article
- 第4回 Outlining: outline of the second article
- 第5回 Summarizing: summary of the second article
- 第6回 Outlining: outline of the third article
- 第7回 Summarizing: summary of the third article
- 第8回 Introduction to MLA style, Outline for Paper I
- 第9回 Revision of first draft of Paper I
- 第10回 Peer critique of second draft of Paper I
- 第11回 Teacher conferences on Paper I
- 第12回 Paper I due, Outline for Paper II
- 第13回 Revision of first draft of Paper II
- 第14回 Peer critique of second draft of Paper II
- 第15回 Teacher conferences on Paper II (Paper II due the following week)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

Class will be conducted in English. Students must attend regularly.

講義コード (Course Code)	210020N0J
授業名 (Course Title)	応用英語研究方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小林 順, 橋堂 弘文, 小山 哲春, 須川 いずみ, 杉村 美奈, 東郷 多津, 吉野 啓子, York Weatherford, Robert Kritzer
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	『研究法ハンドブック』 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一 編著 ナカニシヤ出版
参考文献 (References)	適宜指示
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本授業は、応用英語専攻修士1回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：

- (1) 大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
- (2) 大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
- (3) 大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
- (4) 各学問領域における特定の研究方法論を概観する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本授業は、主に以下のような構成となる：

第1～4週 講義

第5～12週 Reading assignmentに基づく講義、解説、討論

第13、14週 Guest lecturerによる研究発表および解説

第15週 全体のまとめ、および質疑応答

特に第5～12週の授業に際しては、受講者は、前もって課された Reading Assignment (各授業につき Journal article, Book chapter, etc. 1編) を熟読し、授業中の討論に参加する。また、第の授業では、各週に教員が指定するトピックでの Short Paper (250～500 words) が課され、翌週までに提出する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

適宜指示

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
4 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加 25% (出席、および討論への参加等)

Short Paper (10) 75% (ただし、各 paper は各教員が採点する)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 大学院における研究の質と意義、心構え/応用英語専攻で行う様々な研究のタイプ (小山)
- 第2回 認識論/科学哲学/批評理論 (小山)
- 第3回 Academic integrity (Kritzer)
- 第4回 研究の具体的な進め方/修士論文執筆の時間、作業管理 (小山)
- 第5回 英文学 (小林)
- 第6回 英文学 (吉野)
- 第7回 英文学 (須川)
- 第8回 文学と哲学 (Cheyne)
- 第9回 英語教育学 (橋堂)
- 第10回 英語教育学 (東郷)
- 第11回 英語教育学 (沖原)
- 第12回 英語教育学 (Weatherford)
- 第13回 コミュニケーション学 (小山)
- 第14回 言語学 (杉村)
- 第15回 応用言語学 (小山)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

特になし

講義コード (Course Code)	210022N0J
授 業 名 (Course Title)	英語圏文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	小林 順
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

英語を第一言語とする地域の文化を研究する。地域を特定して、その地域に特有の文化現象を研究課題とする。英語のふるさとイギリスにおける筆記用具の歴史を紐解きつつ、とくに、羽ペンの隆盛に注目したい。同時に、子供たちが学びの場でどのような筆記用具を用いていたのかを調査したい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

羽ペンの材料や構造についての調査。鉛筆の進化と子供たちの学び。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

研究の方法としてはオンラインを渉猟し課題を解くための手がかりとなる資料・データの読解をすすめる。オンラインという環境を整え、受講者がいずこにいても仮想的クラスにアクセスできる環境のもとクラス運営をすすめたい。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

適宜指示

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
4時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

オンライン上で研究できるかを問う。オンライン・クラスで成果をあげ得るかが課題。レポート (口頭、文書)、クラスへの積極的係わり。資料の整理が効率的であるか。これらを総合的に判断して数値化する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オンライン辞書など21世紀の文房具、PC、タブレット、スマートフォン等、を用いてオンライン情報・データへのアクセスしてこのクラスの課題を追跡できる状態を整える。(その一)
- 第2回 オンライン辞書など21世紀の文房具、PC、タブレット、スマートフォン等、を用いてオンライン情報・データへのアクセスしてこのクラスの課題を追跡できる状態を整える。(その一)
- 第3回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。“History of Writing Implements”をキーワードとして、Google検索する。検索結果一覧から一つ選び、内容を要約する。
- 第4回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第5回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第6回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第7回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第8回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第9回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第10回 指示したオンライン・テキストの読解と解釈。
- 第11回 成果の発表。
- 第12回 成果の発表。
- 第13回 成果の発表。
- 第14回 成果の発表。
- 第15回 成果の発表。

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

とくにないが、イギリスの特質を見極められるよう共に努力したい。

講義コード (Course Code)	210023N0J
授 業 名 (Course Title)	英語圏文学特論 イブリン・ウオーの作品を読む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	須川 いずみ
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	選択必修 隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本コースは英語圏文学を取り上げ、テキストをどのように読むかを実践学習する。英語のテキストの中でも文学作品は最も高度なものであり、中でもジョイスのような作家の作品を読むことは、高い英語運用能力とテキスト解析能力を養うことになると思う。

またその時代背景、文化背景を深く理解することでもある。はるか昔のアイルランドの本からあなた自身の人生のテキストを垣間見ることになるだろう。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 原作を読む英語運用能力の向上
- (2) テキスト読解能力の育成
- (3) 個別作品の読解法の習得
- (4) クリティシズムの理解
- (5) 作家の世界観の把握

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 文学テキストの精読
- (2) 文献紹介
- (3) 積極的授業の参加を求める
- (4) ビデオ鑑賞
- (5) テキスト

授業で配布する。その他の文献もクラスで配布または指示する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

0

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 出席は不可欠
- (2) 成績は平常点50%、提出物30%、発表20%である。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーションとしてテキスト配布、担当者の割り当てなどを決定する。
- 第2回 院生の研究報告と課題設定
- 第3回 イブリン・ウオーの"Mr.Loveday's Little Outing"精読
- 第4回 イブリン・ウオーの"Mr.Loveday's Little Outing"精読
- 第5回 イブリン・ウオーの"Mr.Loveday's Little Outing"精読
- 第6回 イブリン・ウオーの"Mr.Loveday's Little Outing"精読
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 A Handful of Dustを読む。
- 第9回 A Handful of Dustを読む。
- 第10回 A Handful of Dustを読む。
- 第11回 A Handful of Dustを読む。
- 第12回 ビデオ鑑賞
- 第13回 クリティシズム報告
- 第14回 研究発表
- 第15回 総括

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

対象の院生の研究テーマによって中身を変更する可能性がある。

講義コード (Course Code)	210031N0J
授 業 名 (Course Title)	英語カルチュラルスタディーズ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	90時間
担 当 者 (Instructor)	小林 順
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

応用英語の学問的な基盤の構築という観点から、イギリス文化の実践的理解を図りたい。課題に、「バブル」の語源となった18世紀初頭の「元祖バブル」、いわゆる「南海泡沫事件」(South Sea Bubble)を選び、近代信用制度の発生の歴史とメカニズムを研究するとともに、従来のアナログ資料(書物やマイクロ・フィルムなど)に加えネットワーク上のデジタル資料を利用し、ブロード・バンド時代における課題研究の実践としたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) イギリス17世紀後半における国家債務
- (2) イギリス17世紀後半における金融システム
- (3) イングランド銀行の設立
- (4) 土地制度と金融システムの関係
- (5) バブルの膨張と崩壊のプロセス
- (6) バブル清算のプロセス

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 授業方法: インターネットにアクセスした状態でおこなう。ウェブ上に上記「課題」を解明するマテリアルを検索し読み解く。あわせて検索方法や検索結果の蓄積法を体得できるように指導を行う。
- (2) 学習方法: 上記「授業方法」に述べた作業を、できる限り自宅においてもアクセス状態で、資料の検索と蓄積を継続できるように努めてもらいたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

適宜指示

- ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
4時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

オンライン上での発表。プロジェクトの実施。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ウェブ利用の意味
- 第2回 元祖「バブル」調査の意味
- 第3回 イギリス17世紀後半における国家債務 (1)
- 第4回 イギリス17世紀後半における国家債務 (2)
- 第5回 イギリス17世紀後半における金融システム (1)
- 第6回 イギリス17世紀後半における金融システム (2)
- 第7回 イングランド銀行の設立 (1)
- 第8回 イングランド銀行の設立 (2)
- 第9回 土地制度と金融システムの関係 (1)
- 第10回 土地制度と金融システムの関係 (2)
- 第11回 バブルの膨張と崩壊のプロセス (1)
- 第12回 バブルの膨張と崩壊のプロセス (2)
- 第13回 バブルの膨張と崩壊のプロセス (3)
- 第14回 バブルと文学者
- 第15回 バブル清算のプロセス

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

インターネットを積極的に利用してもらいたい。同時に、インターネットが万能であるかの誤解を退けてもらいたい。

講義コード (Course Code)	210032N0J
授 業 名 (Course Title)	翻訳特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	小林 順
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

応用英語という観点から、英語のさまざまな表現の実践的日本語訳を試みたい。誰が誰に何を伝達しようとするのか、を把握するところから翻訳作業が始まる。翻訳は自分の受け取ったものを今度は他人に、その人が理解できる言葉に移して、伝達する作業である。文学作品、書簡、新聞・雑誌、その他、実際の文書など、できるだけ多様な対象を取り上げ、英語圏文化の諸相を把握しながら、英語力を養成しつつ、あわせて日本語の表現力の研磨を目指したい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 対象文献の内容を正確に読み解く英語能力。
- (2) 英語を日本語の観点から照射する能力。
- (3) 理解・把握した内容を日本語で表現する日本語表現力。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

文体、仮名と漢字の割合、句読点のつけ方などに留意して正確で、かつ、美しい日本語とは何かを考えてみたい。英語、日本語ともすぐれた文献をできるだけ多く読み、その表現をあげつろぐところをこころがけたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

0

- ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
4時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

クラスでの発表、およびレポートの総合点で判定する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- ・前半はテキストを中心に進め、後半はプリントを活用し、メリハリをつけたい。
- ・仲間同士の比較検討により、切磋琢磨してほしい。

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

オンライン情報を用いたい。マス・メディア、古典的作品、等々。Kindleなどを用いて、イー・テキストの利用を行いたい。安価でアクセスが容易な情報を利用するということがあります。

講義コード (Course Code)	210037N0J
授業名 (Course Title)	バイリンガリズム特論 バイリンガルと教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	湯川 笑子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 5th Edition』 Colin Baker Multilingual Matters 2011 このテキストはあらかじめ購入しておいてください。
参考文献 (References)	『多言語社会の言語文化教育』 バトラー 後藤裕子 くるしお 2003 『言語マイノリティを支える教育』 中島和子 慶応義塾大学出版会 2011 『Translanguaging: Implications for language, bilingualism and education』 Garcia, O. and Li Wei Palgrave Pivot 2014 参考文献図書および、雑誌記事を適宜選択して、授業で取り扱う予定。部分的に指定してプリントとして配布する予定です。ただし、上にあげた参考図書は、自分の自主的な学習のために借りたり購入したりして読む価値のあるものなので、入手をおすすめします。
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

世界および日本に生きる2言語以上を生活の中で必要とする人々は、どのような言語環境の中で、どんな風に複数の言語を習得しているのか(あるいは習得しきれないのか)、その人達のコミュニケーションやアイデンティティは—ヶ国語話者とどう違うのかを学ぶ。また、学校教育や社会が多言語を話す人々をどう教育し、うけとめていけばよいのかを社会の構成員の一人として考察できるようにすることを目的とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 世界および日本に生きる複数言語使用者の言語使用、言語習得、言語教育について基礎知識を得る。
2. 学校教育や社会が多言語を話す人々をどう教育し、うけとめていけばよいのかを社会の構成員の一人として考察できるようにする。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

教科書として指定したBakerを、各回ごとに、あらかじめ読んでくる。

授業では、その中身を確認、質問と討論、補足資料の講義を行う。受講者のニーズ、背景知識、学習のペースによって、受講者に相談の上、内容に調整、変更を加えることがある。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定した読み物を、わかるどころとわからないところを特定して、授業にのぞむこと。自分で読んでわからないところが多々あるのは当然です。恥ずかしがらずに、わからないところはわからないという勇気を持ち、ひとつずつ不明点を解消していただく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への取組、積極的な参加 50%

学期末レポート 50%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction to the course, Definition
- 第2回 Endangered languages, Language planning/revitalization, Language in society
- 第3回 Early development of bilingualism 1
- 第4回 Later development of bilingualism, early English education
- 第5回 Bilingualism and cognition
- 第6回 Cognitive theories of bilingualism and the curriculum
- 第7回 Historical introduction to bilingual education: the United States
- 第8回 Types of bilingual education, Education for bilingualism and biliteracy
- 第9回 Effectiveness of bilingual education
- 第10回 translanguaging : theory
- 第11回 translanguaging 2: various practices in the world
- 第12回 Participant's interest area- brainstorming, research topics
- 第13回 Literacy, biliteracy and multiliteracies for bilinguals
- 第14回 World Englishes and English for Japanese
- 第15回 Summary

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210044N0J
授業名 (Course Title)	英文学批評特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	大川 淳
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業開講前に指示する。
参考文献 (References)	授業時に適宜指示する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本授業では、批評理論の習得を通じ、文学作品を解釈する批評する方法論について学ぶ。文学作品研究には批評理論の習得が必要不可欠であり、また多岐に及ぶ批評理論の現在の動向を理解することも必須である。本授業では、従来の批評理論の流れを概観し、それぞれの理論が生まれた背景や、また特性について幅広い知識を習得することを目的としている。

それに加えて、個々の文学作品研究において、批評理論を援用し分析する力を養成することも研究目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・多種多様な批評理論の概観を通して、20世紀以降の批評の流れを把握できる。
- ・個々の批評理論・研究方法の特性を正確に理解する。
- ・個々の批評理論・研究方法が生じた背景や立脚する概念についての知識を習得する。
- ・個々の批評理論・研究方法の妥当性と限界について分析する。
- ・個々の批評理論・研究方法を文学作品の読解に応用する。
- ・修士論文に援用する批評理論・研究方法を見出す。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

批評理論・研究方法の妥当性・限界についてクラス全体のディスカッションを行う。担当学生だけでなく、その他の学生も予習は必須である。ディスカッションに備えて自分の考えについてまとめておくこと。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業で指定されたテキストを精読し、内容を理解しておくこと。

#### ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

・平常点 15% (出席状況・授業態度・ディスカッションへの貢献度等、総合的に判断する)

・口頭発表 35%

・期末試験 50%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 序論
- 第2回 フォルマリズム
- 第3回 新批評
- 第4回 構造主義1 (理論編)
- 第5回 構造主義2 (応用編)
- 第6回 神話批評
- 第7回 精神分析批評
- 第8回 ポスト構造主義1 (理論編)
- 第9回 ポスト構造主義2 (応用編)
- 第10回 ジェンダー批評
- 第11回 フェミニズム批評
- 第12回 ポストコロニアリズム1 (理論編)
- 第13回 ポストコロニアリズム2 (応用編)
- 第14回 新歴史主義批評1 (理論編)
- 第15回 新歴史主義批評2 (応用編)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210045N0J
授 業 名 (Course Title)	近代英国小説特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	吉野 啓子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『Silas Marner』 George Eliot Penguin Books
参考文献 (References)	その都度通知する。
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

英国の18世紀以降の小説に焦点をあてる。小説に対する興味を深めると同時に、原文の読解力を高め、そこから広がる洞察力を深めることを目的とする。その作品に表れる人間関係や心理描写などの理解を深め、作者の観点や技法などにも焦点をあてる。そして登場人物それぞれの人生や社会への処し方などにも触れ、作品全般の理解を深めたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 原文を精読する。
- (2) 作品や時代背景の理解を深めるために、また作品内容を多角的な観点から理解するために、参考文献等を読む。
- (3) 討論などで作品を色々な角度から分析する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ①作品を精読しながら、内容を把握する。
- ②作品と作者、時代背景などを理解する。
- ③各自の考えをまとめ、討論やレポートなどで認識を深める。
  - ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
予め作品をよく読んで、疑問点等があれば、それを準備しておく。文献などに関しては、その都度伝える予定である。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
2時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 受講生は予習が必要条件である。
- (2) 提出物の期限は厳守のこと。
- (3) 成績の基準は、平常点50%、提出物25%、試験25%を目安とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 第1回  | 初日は授業の進め方を中心に詳細の説明     |
| 第2回  | 作者、作品について              |
| 第3回  | Part 1 Chapter 1~2     |
| 第4回  | Chapter 3~4            |
| 第5回  | Chapter 5~6            |
| 第6回  | Chapter 7~8            |
| 第7回  | Chapter 9~10           |
| 第8回  | Chapter 11~12          |
| 第9回  | Chapter 13~14          |
| 第10回 | Chapter 15とPart 1まとめ   |
| 第11回 | Part 2 Chapter 16~17   |
| 第12回 | Chapter 18~19          |
| 第13回 | Chapter 20~21と、作品全体を見る |
| 第14回 | 作品の技巧や特徴について           |
| 第15回 | 総まとめ                   |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

広い文学知識を持つ意味で、色々な参考文献を読破してほしい。提出物等の期限は厳守のこと。

講義コード (Course Code)	210046N0J
授 業 名 (Course Title)	日英語比較特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	杉村 美奈
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語と英語との二言語間に見られる差異／類似点を探り、それらの言語現象に対する理論的説明を試みる。理論的枠組みは生成文法理論における Minimalist Program を前提とし、特に統語論 (及び形態論) に焦点をあて、様々な言語現象を扱っていく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 言語現象を観察、分析し、一般化を導く。
2. 導いた一般化を元に仮説を立てる。
3. 更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
4. 分析から更なる帰結を導きだす。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

リーディングは適宜指示する。生成文法理論を枠組みとした日英語の言語現象を扱った論文を読み、言語データと先行研究の整理をまぜ行う。

次に、先行研究で提示されている分析についての検証を行い、データ及び理論的不備の有無について慎重に観察する。最終的には、理論的不備の修正及び新たなデータを提示し、そこから新たな理論的帰結を導く。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業時までには与えられたリーディングアサインメントを必ず読み、内容を理解した上で、新たな疑問点を明らかにしていただくことを準備学習とする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Participation (presentation, discussion, comments) : 30 %  
Assignments (problem sets, exercises) 30 %  
Critical Paper 40%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | 1. The Goal of Theoretical Linguistics (Review)<br>2. Architecture of Grammar: Lexicon, Syntax, Phonological Form (PF) & Logical Form (LF) |
| 第2回  | Basic Tools in Syntax: Constituency & X-bar Theory   |
| 第3回  | Basic Tools in Syntax: Structural Relations (Dominance & C-commanding)   |
| 第4回  | Basic Tools in Syntax: Theta-Theory and Case Theory  |
| 第5回  | Basic Tools in Syntax: Movement (A-Movement)   |
| 第6回  | Basic Tools in Syntax: Movement (A'-Movement)  |
| 第7回  | Basic Tools in Syntax: Binding   |
| 第8回  | From GB to Minimalism  |
| 第9回  | Data Comparison in Word Order: Scrambling (A-scrambling)   |
| 第10回 | Data Comparison in Word Order: Scrambling (A'-scrambling)  |
| 第11回 | Data Comparison in Word Order: Wh-Movement (English)   |
| 第12回 | Data Comparison in Word Order: Wh-Movement (Japanese)  |
| 第13回 | Data Comparison in Domain: Binding (English)   |
| 第14回 | Data Comparison in Domain: Binding (Japanese)  |
| 第15回 | Summary  |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

言語学概論等の授業において習得した程度の理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論の基礎的な知識については必須とする。

授業で扱うリーディングは一部を除き、全て英語で書かれたものを読み進める。

講義コード (Course Code)	210047N0J
授 業 名 (Course Title)	言語研究デザインと統計
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	小山 哲春
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『Research Methods for the Behavioral Sciences』 Stangor, C Houghton Mifflin 1998 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫 北大路書房 1990 『英語教師のための教育データ分析入門』 三浦省吾 監修 大修館書店 2004 『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』 小塩真司 東京図書 2004
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

講義コード (Course Code)	210062N0J
授 業 名 (Course Title)	英語教育カリキュラム開発特論 (教材開発を含む)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	沖原 勝昭
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

別紙参照

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本コースでは社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究（例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等）を含む。

本コース終了時に以下の3つの能力を習得していることが目標となる。

- (1) 他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力
- (2) 自らの言語研究を計画し遂行する能力
- (3) 質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 社会科学（言語研究を含む）の定義、科学哲学、認識論
- (2) 社会科学的研究の方法論
- (3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン
- (4) 記述統計
- (5) 推論統計の基礎

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

課題 (1) ~ (3) に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題 (4) ~ (5) に関しては、テキスト、資料に基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 試験 (2回を予定) 50%
- (2) (模擬) 研究計画 30%
- (3) 統計分析の演習 20%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction / Philosophy of Science
- 第2回 Scientific Reasoning / Hypothesis Testing
- 第3回 Research Elements
- 第4回 Measurement (1)
- 第5回 Measurement (2) / Sampling
- 第6回 Research Design
- 第7回 Midterm Exam
- 第8回 Descriptive Statistics (1) : Central Tendency
- 第9回 Descriptive Statistics (2) : Variance and Standard Error
- 第10回 Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing
- 第11回 Comparing Means (t-test)
- 第12回 Analysis of Variance (1) : One-way ANOVA
- 第13回 Analysis of Variance (2) : Factorial ANOVA
- 第14回 Correlation / Simple Regression
- 第15回 Comparing Proportions (chi-square)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない（四則計算ができれば十分！）。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。

講義コード (Course Code)	210064N0J
授 業 名 (Course Title)	語彙指導特論 語彙習得理論から語彙指導学習を考察する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	橋 堂 弘文
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『How to teach Vocabulary』 Jean Aitchson Newbury House 2004 必要な文献は配布する。
参考文献 (References)	『How to Teach Vocabulary』 Jean Aitchson Blackwell 2003 『LONGMAN DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』 LONGMAN 『ロングマン応用言語学用語辞典』 南雲堂 『英語教育用語辞典』 大修館
備 考 (Note)	隔年開講1

講義コード (Course Code)	210066N0J
授 業 名 (Course Title)	英語能力アセスメント特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	沖原 勝昭
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

別紙参照

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

学習指導要領上の中学・高等学校の新出語彙数から問題点を理論的に考察する。そのような現状を踏まえて、語彙習得の新しい研究成果を紹介し、どのような語彙の指導法や学習法が良いのかを検討してみたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

基本的には、文献を読み進めながら、参加者による発表形式で課題の研究を進める。

必要な文献は配布する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

語彙習得のメカニズムと語彙指導・学習の方法に関して、まず語彙習得の基本的なキーワードを学ぶ。その後、1) 語彙数はどれだけ必要か。2) メンタルレキシコンの仕組み。3) 受容語彙から発表語彙へ。4) 語彙定着を計る。5) さまざまな語彙指導法 等の観点から、授業を進めたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

基本文献を読み進めながら、参加者による発表形式で議論考察するので、その準備を整える。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、  
論述テスト40%、ディスカッション20%、課題発表30%、授業参加度10%の総合評価。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 語彙修得について
- 第2回 語彙習得の専門用語
- 第3回 記憶と学習
- 第4回 語用論と意味論
- 第5回 語彙定着を計る
- 第6回 母語における語彙習得
- 第7回 語の意味獲得
- 第8回 語彙仮説モデル
- 第9回 語彙知識の広さ
- 第10回 語彙知識の深さ
- 第11回 語彙知識の深さの研究
- 第12回 単語認知
- 第13回 語彙数はどれだけ必要
- 第14回 メンタルレキシコンの仕組み
- 第15回 受容語彙から発表語彙へ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	210091A0J
授業名 (Course Title)	専門演習 アメリカ文学批評
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	大川 淳
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

19世紀アメリカ文学を代表する作家の一人 Herman Melville の作品を読む。テキストの難解さは、Melville 作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけでなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

Herman Melville の作品は、アメリカ文学の中でも最も難解な作品群に含まれるであろう。そうしたテキストを読むことは、高度な英語力と分析力を必要とする。そこで、テキストの細部にこだわりながら一語一句分析するような地道な読みの行為が課題となる。

学期の最後に Paper の提出を課すが、ここでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。  
重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。  
学期の最後に、Billy Budd, Sailor 論の提出を課す。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

- 1) テキスト内の文法構造を理解すること
- 2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること
- 3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
- 4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
- 5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるように明確にしておくこと

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
90時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 (予習等) 40%

Final Paper 60%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODクシヨン : Herman Melville の紹介、授業の進め方
- 第2回 Billy Budd, Sailor の精読 1
- 第3回 Billy Budd, Sailor の精読 2
- 第4回 Billy Budd, Sailor の精読 3
- 第5回 Billy Budd, Sailor の精読 4
- 第6回 Billy Budd, Sailor の精読 5
- 第7回 Billy Budd, Sailor の精読 6
- 第8回 Billy Budd, Sailor の精読 7
- 第9回 Billy Budd, Sailor の精読 8
- 第10回 Billy Budd, Sailor の精読 9
- 第11回 Billy Budd, Sailor の精読 10
- 第12回 Billy Budd, Sailor の精読 11
- 第13回 Review, 文献研究, Final Paper の準備
- 第14回 Review, 文献研究, Final Paper の準備
- 第15回 Review, 文献研究, Final Paper の準備

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091B0J
授業名 (Course Title)	専門演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	橋堂 弘文
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	TESOL Quarterly, Applied Linguistics, Language Learning 等の専門誌 『英語教育研究入門』 大修館 『アクション・リサーチの進めー新しい英語授業研究ー』 大修館 『Principles of Language Learning and Teaching』 H. Douglas Brown Prentice Hall Regents 2007 『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著、橋堂 保育出版社 2013
参考文献 (References)	『ロングマン応用言語学辞典』 南雲堂 『英語教育用語辞典』 大修館 最新刊 『DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』 LONGMAN 最新刊
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本演習では、院生各自が持つ修士論文の研究課題に合わせて、研究上必要な以下の3つの基本的な方法論を適宜利用して、修士論文作成の一助としたい。演習終了時点で、修士論文の一部が完成することを旨とする。特に研究課題の領域の指定は無い。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

以下の研究方法を利用する。

- 1) 先行研究の文献研究
- 2) 研究課題の解決に際し、学際的 (interdisciplinary) なアプローチで臨む方法論の研究
- 3) 量的研究: 実証科学的方法 (empirical) 利用の研究やフィールドワークのデータ分析。

特に最終段階では、上述の3つの方法論を、各自の持つ研究課題や教育実践上の諸問題 (授業技術及び方法、授業形態、教材編成、カリキュラム、評価など) の対処や改善に応用し、修士論文の作成に役立てたい。

その際、特に量的研究に関しては、本演習で学んだ実験・調査・測定という科学的なデータを集め、それを分析し、その結果を用い各自の仮説を検証するという、実証科学的方法の採用を期待する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

ー第1段階ー

修士論文の研究課題に合わせた研究方法のアドヴァイスや研究者等の紹介。

ー第2段階ー

院生各自の研究課題に合わせて、先行研究や実践例、フィールドワーク資料、文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

ー最終段階ー

院生各自の持つ教育実践上の諸問題を、本演習で学んだ各方法論を用いて、修士論文の作成に役立てたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

院生各自の研究課題に合わせた先行研究や実践例、フィールドワーク資料、文献研究などの発表準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ディスカッション 20%、課題発表 30%、授業中の積極性 50% の総合評価。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 修士論文の研究課題に合わせた研究方法のアドヴァイスや研究者等の紹介。研究計画の立案。
- 第2回 研究計画の検討、
- 第3回 院生各自の研究課題に合わせて、先行研究や実践例、フィールドワーク資料の検索
- 第4回 研究課題に合わせて、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

- 第5回 研究課題に合わせて、先行研究の実践例などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。
- 第6回 フィールドワークの等の計画検討
- 第7回 先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。
- 第8回 研究の中間まとめと振り返り、研究課題に合わせたディスカッションをしながら、KJ法等マインドマッピングによるアウトラインの検討
- 第9回 学期後半の研究課題に合わせた、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。
- 第10回 研究課題に合わせた、修士論文の資料作成を実施する。
- 第11回 先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、アウトラインに沿った修士論文の作成
- 第12回 学期後半の研究課題に合わせた、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、アウトラインベースの論文まとめ
- 第13回 学期後半の研究課題に合わせたディスカッションをしながら、論文の検討
- 第14回 論文の校正と修正
- 第15回 論文内容の検討

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

## 7. 留意事項 (Other Information)

研究会、学会への参加を奨励する。

講義コード (Course Code)	210091C0J	
授業名 (Course Title)	専門演習 ビートルズ研究	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担当者 (Instructor)	小林 順	
単位数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)	
テキスト (Textbook)	『Shout!』 Philip Norman Amazon Services International, Inc. ビートルズ関連図書、本学図書館所蔵図書、等。オンライン・データや情報。	
参考文献 (References)	ビートルズ関連図書、本学図書館所蔵図書、等。オンライン・データや情報を網羅。	
備考 (Note)	必修	

## 1. 科目の研究目標 (Course Description)

イギリス文化・文学研究の切り口を提示したい。それは、ビートルズ、である。デビュー (1962年10月) まもなく、脚光を浴びたビートルズ狂 (ビートルズマニア) の実態を解明したい。時代は1960年代、いわゆるSwinging 6sと称される、ポップ・アートを中心に生活・ファッション・消費活動など社会全般の急変化の時代に、その時代を象徴したビートルズの全貌を把握するのがこのクラスの課題である。

## 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成がこのコースでは最重要課題であり、受講者は入学前から指導を受け入れるため、その延長線上にさらに研究を積み重ねられるように指導を行う。具体的には、論文執筆の状態に応じて工夫するため一概には表わし難いものの、いわゆる前提研究・資料の読解をとおして、研究の方向性を定められるよう留意したい。

## 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

週ごとに新たな資料・データを読解する。受講者が探索した資料・データを、あるいは指導者が推薦するものを、丹念に世も解いていく。同時に、その成果を学期末に纏めたレポートを提出してもらう。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

0

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
4時間

## 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

資料・データの収集力、40%。期末レポート、40%。研究上の熱意、20%。合計、100%。

## 5. 授業予定 (Course Schedule)

15週を予定。毎週、資料・データを読解。ただし、初回用として、担当者が資料・データを提示。それ以降は主に、受講者の選択したものを読解。受講者は前週までに資料・データを提出。最終15週にレポートの課題を決定。

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

## 7. 留意事項 (Other Information)

クラスはオンライン開催の場合もある。

講義コード (Course Code)	210091D0J
授業名 (Course Title)	専門演習 ことばとコミュニケーション
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小山 哲春
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	なし
参考文献 (References)	修士論文のトピック等を考慮し、1週間に1~2本程度の論文/Book ChapterをReading Assignmentsとする。
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究(修士論文)を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 関連領域の基盤的知識(語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等)の獲得
2. 先行研究の概観と課題の探索
3. 修士論文のテーマ(研究課題)の絞り込み
4. 修士論文のProposal: 最初の数章(先行研究、研究課題/研究仮説の特定、方法論)の完成

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 各授業は、各週のReading Assignmentについての(1) 院生からの批判的報告、(2) 担当教員からの解説、(3) 担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。
  2. 学期末までに、修士論文のProposalを完成する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。
- ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. 各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション (50%)
2. 修士論文Proposal (50%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Orientation
- 第2回 Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)
- 第3回 Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)
- 第4回 Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)
- 第5回 Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)
- 第6回 Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)
- 第7回 Interim Report
- 第8回 Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)
- 第9回 Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)
- 第10回 Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)
- 第11回 Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)
- 第12回 Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)
- 第13回 Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)
- 第14回 Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)
- 第15回 Proposal Meeting

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091E0J
授業名 (Course Title)	専門演習 ジェイムズ・ジョイスの作品を読む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	『Ulysses Annotated』 Don Gifford Univ. of California Press 1974年 『James Joyce's Ulysses』 Harold Bloom Chelsea House 1987年
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

文学で修士論文を書こうと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシイズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 修士論文を書くに当たっての研究方法の習得
- (2) 原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
- (3) 原作の精読の習得
- (4) 先行論文の把握
- (5) 研究テーマの確定

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 文学・映画テキストの精読
- (2) 先行論文の紹介
- (3) 研究テーマの紹介
- (4) ディスカッション
- (5) レポート提出
- (6) 発表

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

大変少数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかり読んでまとめてくる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所の配布資料を準備してこることが求められている。

#### ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点(50%)、提出物(30%)、発表(20%)で総合的に評価する。  
欠席、遅刻は減点の対象である。三分の一以上欠席した場合、基本的に単位を与えない。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 今までの研究課題発表
- 第3回 ジョイスの"The Boarding House"の精読
- 第4回 ジョイスの"The Boarding House"の精読
- 第5回 ジョイスの"The Boarding House"の精読
- 第6回 ジョイスの"The Boarding House"の精読
- 第7回 クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第8回 Ulysses 第1挿話を読む
- 第9回 Ulysses 第3挿話を読む
- 第10回 Ulysses 第8挿話を読む
- 第11回 Ulysses 第13挿話を読む
- 第12回 Ulysses 第15挿話を読む
- 第13回 Ulysses のビデオ鑑賞
- 第14回 クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第15回 まとめとその他

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

各の学生の研究テーマによって内容を変更する。

講義コード (Course Code)	210091F0J
授 業 名 (Course Title)	専門演習 理論言語学(統語論/形態論のインター フェイス研究)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	杉村 美奈
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	修士論文のトピックに関連した文献を、 各回クラスに1本のペースで読み進め ていく。
備 考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

言語理論研究における意義、及び、方法論について学んでいくことを目標とする。具体的には、言語現象の観察から一般化を導き、その一般化に対する仮説を立て、さらには仮説の検証及び理論的帰結を導くまでの一連の流れを身につけていく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 言語理論研究の基盤的知識を身につける。
2. 自らの設定した研究課題に関連する先行研究を概観し、批判的評価をする。
3. 2の批判的評価を受け、新たな提案・分析を行い、理論的帰結を導く。
4. 2、3のプロセスを基に、修士論文のプロポーザル・アウトラインの作成を行う。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各回に1本、研究課題に関連する文献を読み進めていく。  
基本的には院生が各文献の批判的レビューを行い、担当教員が補足的説明を行う。批判的分析を院生と担当教員との間でディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

院生自らが収集した修士論文のトピックに関連する文献と、補足的リーディングとして担当教員が指定する文献を交互に各回のクラスで1本ずつ読み進めていくため、授業時までには批判的レビューを行い、問題点を明らかにしておくことが期待される。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

リーディングの批判的レビュー及び問題設定等のディスカッション  
50%

修士論文のプロポーザル 50%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 言語研究理論の方法論
- 第2回 理論言語学の概観
- 第3回 トピック選定と関連文献の収集
- 第4回 関連文献1の批判的分析  
トピックの背景知識についての解説
- 第5回 関連文献2の批判的分析  
データ観察から一般化を導く
- 第6回 関連文献3の批判的分析  
一般化から仮説を立てる
- 第7回 関連文献4の批判的分析  
仮説の検証をする
- 第8回 関連文献5の批判的分析  
分析・提案の帰結を探す
- 第9回 これまでのまとめ
- 第10回 修士論文作成に向けて  
アウトライン作成
- 第11回 修士論文の作成に向けて  
データの観察から一般化を導く
- 第12回 修士論文の作成に向けて  
一般化から仮説を立てる
- 第13回 修士論文の作成に向けて  
仮説の検証をする
- 第14回 修士論文の作成に向けて  
分析・提案の帰結を探す
- 第15回 修士論文の作成に向けて  
プロポーザル作成

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091G0J
授 業 名 (Course Title)	専門演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	吉野 啓子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	『The Collected Stories of K. Mansfield』 K. Mansfield Penguin 『キャサリン・マンズフィールドの醍醐 味』吉野 啓子 朝日出版
参考文献 (References)	その都度通知する。
備 考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

英国女性作家の作品や、女性の登場人物を中心としている作品を取り上げる。作品に表れる女性や子供の世界、そして女性独自の繊細な心理描写を中心に、登場人物や作品を色んな角度から探り理解する。また作品の主題や作者の主張、技巧などについても理解を深めたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

原文を精読することは勿論であるが、作品や作者の時代背景などの理解を深めるために、また多角的な観点から理解するために、参考文献も多く読み進める。そして討論やレポートなどで、一層の理解を深める方法も取る。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

精読で内容の理解につとめ、作品の技巧や作者の観点、主題などの理解へと進める。さらに文献を読みながら、時代背景などを考慮することで、知識の幅を広げていきたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

0

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
2時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 40%、提出物等 30%、試験やそれに代わるレポート  
など 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業の進め方等の説明
- 第2回 近代英国小説について
- 第3回 近代英国小説について
- 第4回 修論の進め方について
- 第5回 修論の進め方について
- 第6回 Blissにある作品について
- 第7回 Blissにある作品から
- 第8回 The Garden Partyにある作品について
- 第9回 The Garden Partyにある作品について
- 第10回 The Dove's Nestにある作品について
- 第11回 The Dove's Nestにある作品について
- 第12回 Something Childishにある作品について
- 第13回 Something Childishにある作品について
- 第14回 Outlineと修論について
- 第15回 Outlineと修論について

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

- ・上記シリーズからの作品の選択は、学生との相談の上決める予定をしている。
- ・こつこつと物事を成し遂げる姿勢を期待します。

講義コード (Course Code)	210091H0J
授業名 (Course Title)	専門演習 教育学・英語教育分野の実践研究論文作成基礎指導
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	東郷 多津
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	John Furlong and Alis Oancea (2005) "Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion" The Design-Based Research Collective (2003) "Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry" 教員が準備したプリント
参考文献 (References)	『ロングマン応用言語学辞典』 南雲堂 『英語教育用語辞典』 大修館 最新刊 『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』 Richards, J. and R. Schmidt Longman 2010 『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』 森住衛編さん 大修館書店 2010 『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践』 山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄 (編) 大修館書店 2010 海外学術雑誌 (Applied Linguistics, TESOL Quarterly, ELT Journal など) と国内学会紀要 (ARELE, JACET Journal, SELT など), 研究書などからの関連論考
備考 (Note)	必修

- 第8回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第9回 研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
- 第10回 研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
- 第11回 研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
- 第12回 研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
- 第13回 修士論文の構成
- 第14回 研究計画の作成
- 第15回 修士論文の研究計画書 (Research Proposal) の作成

#### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

#### 7. 留意事項 (Other Information)

毎回与えられる課題を必ずこなして、修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。

関連学会への参加、出席を奨励する。

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR (Design-based Research) といったテーマについても指導する。

#### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
2. 研究テーマの絞り込み
3. 研究仮説 / Research Questions の設定
4. 研究計画 (Research Proposal) 作成

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 授業方法
    - (1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
    - (2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言
  2. 研究方法
    - (1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
    - (2) 研究仮説の検討
    - (3) 研究計画の作成
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
50時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表や報告に基づく授業参加点 (40%) と修士論文プロポーザル (60%) に基づき総合的に評価する。

#### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 関連テーマについての概論的講義
- 第2回 関連テーマについての資料の収集方法
- 第3回 関連テーマについての資料の読解方法
- 第4回 関連テーマについての資料の読解演習
- 第5回 関連テーマについての資料の読解と整理
- 第6回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第7回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択

講義コード (Course Code)	21009110J
授業名 (Course Title)	専門演習 Second Language Acquisition and Language Teaching
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	York Weatherford
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
テキスト (Textbook)	References to current research and practices will be provided.
参考文献 (References)	Weekly reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master's thesis in the area of second language learning and teaching.

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching
2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master's thesis
4. Master's thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction to Second Language Acquisition
- 第2回 Native Language Influences
- 第3回 The Linguistic Environment
- 第4回 Universal Grammar
- 第5回 Cognition
- 第6回 Intelligence and Aptitude
- 第7回 Motivation and Attitudes
- 第8回 Personality
- 第9回 Learning Styles and Strategies
- 第10回 Age and the Critical Period
- 第11回 Learner Language
- 第12回 Social Dimensions
- 第13回 Second Language Teaching
- 第14回 Teacher-Student Interactions
- 第15回 Classroom Research and Teaching

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210092N0J
授業名 (Course Title)	インターンシップ 小・中・高等学校での授業実践
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	橘堂 弘文
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

英語を教えることを実際に体験することを目的とする。大学の担当教員の指導を常にうけながら、最新の理論を実際の教育現場で生かす実習の場とする。

### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

- (1) 実習許可がおりた学校での授業を立案し実施する。
- (2) 授業記録を残し、その後に分析・反省をする。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) の目的を達成するために、定期的に指導教員のチェック、助言をうける。(2) のために、教案、教材、その都度フィールドノートなどをとり保存する。実習のまとめをポートフォリオと実施後の反省文 (あるいは短いアクションリサーチ論文) として提出する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 実習許可がおりた学校での授業を立案し実施する。
- (2) 授業記録を残し、その後に分析・反省をする。
- (3) の目的を達成するために、定期的に指導教員のチェック、助言をうける。
- (4) のために、教案、教材、その都度フィールドノートなどをとり保存する。実習のまとめをポートフォリオと実施後の反省文 (あるいは短いアクションリサーチ論文) として提出する準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

インターンシップ実施校での

1. シラバス作成：授業実施計画作成：到達目標の設定30%
2. 指導案作成30%
3. 授業実践30%
4. 授業実践の授業評価10%

### 5. 留意事項 (Other Information)

児童生徒という相手のいる作業であるので、体調に万全を期して決まった期間の実習が欠けることのないようにする必要がある。

※依頼先の小・中・高校の事情で実施不可能な場合もある。

講義コード (Course Code)	210101B0J
授業名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担当者 (Instructor)	橋堂 弘文
単位数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

担当教員の指導を受けて修士論文の作成・執筆をおこなう。「専門演習」における成果を基盤として、個別指導を行う。学生は指導教員にテーマおよび要望点を相談し、研究課題を特定する。正指導教員1名、副指導教員2名の指導を受けることができるが、主に正指導教員の個別指導を受ける。開講前に学生はテーマについて予備調査を受け、特に修士論文指導予定の「専門演習」担当者から事前に指導を受け準備することになる。

### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

学生は大学院入学願書の「研究計画」執筆段階において個別指導を受けた教員との折衝を通じ課題を絞りこみ研究することになる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生は修士論文作成指導教員のアドバイスを受けて論文執筆を行う。チューター制のクラス運営であるため、指導教員と適宜連絡をとりながら、執筆を進めていくことになる。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教員の指示に従い、論文執筆を進め、添削を受ける。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による口頭試問をうけ、論文の内容、英語表現、口頭試問における受け答え、等を評価項目として、3名の指導教員が合議して、「合」か「否」の判定がでることになる。

### 5. 留意事項 (Other Information)

個人のテーマによって中身を変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	210101C0J
授業名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担当者 (Instructor)	小林 順
単位数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

担当教員の指導を受けて修士論文の作成・執筆をおこなう。「専門演習」における成果を基盤として、個別指導を行う。学生は指導教員にテーマおよび要望点を相談し、研究課題を特定する。正指導教員1名、副指導教員2名の指導を受けることができるが、主に正指導教員の個別指導を受ける。開講前に学生はテーマについて予備調査を受け、特に修士論文指導予定の「専門演習」担当者から事前に指導を受け準備することになる。

### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

学生は大学院入学願書の「研究計画」執筆段階において個別指導を受けた教員との折衝を通じ課題を絞りこみ研究することになる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生は修士論文作成指導教員のアドバイスを受けて論文執筆を行う。チューター制のクラス運営であるため、指導教員と適宜連絡をとりながら、執筆を進めていくことになる。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教員の指示に従い、論文執筆を進め、添削を受ける。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

一時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による口頭試問をうけ、論文の内容、英語表現、口頭試問における受け答え、等を評価項目として、3名の指導教員が合議して、「合」か「否」の判定がでることになる。

### 5. 留意事項 (Other Information)

個人のテーマによって中身を変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	210101D0J
授 業 名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担 当 者 (Instructor)	小山 哲春
単 位 数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備 考 (Note)	必修

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

M1終了時に「専門演習」内課題として提出した修士論文Proposalに従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

#### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

- ・修士論文Proposalに従い、適切な方法論を用いて研究を遂行する。
- ・Proposalの問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

指導教員の個人指導による。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
修士論文作成のステージごとに指導教員の指示に従うこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
一時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による論文審査・口頭試問を行い、合議の上で判定を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

講義コード (Course Code)	210101E0J
授 業 名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担 当 者 (Instructor)	須川 いずみ
単 位 数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備 考 (Note)	必修

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

担当教員の指導を受けて修士論文の作成・執筆をおこなう。「専門演習」における成果を基盤として、個別指導を行う。学生は指導教員にテーマおよび要望点を相談し、研究課題を特定する。正指導教員1名、副指導教員2名の指導を受けることができるが、主に正指導教員の個別指導を受ける。開講前に学生はテーマについて予備調査を受け、特に修士論文指導予定の「専門演習」担当者から事前に指導を受け準備することになる。

#### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

学生は大学院入学願書の「研究計画」執筆段階において個別指導を受けた教員との折衝を通じ課題を絞りこみ、テーマに沿って研究をすることになる。

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生は修士論文作成指導教員のアドバイスをを受けて論文執筆を行う。チューター制のクラス運営であるため、指導教員と適宜連絡をとりながら、執筆を進めていくことになる。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
教員の指示に従い、論文執筆を進め、添削を受ける。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
一時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による口頭試問をうけ、論文の内容、英語表現、口頭試問における受け答え、等を評価項目として、3名の指導教員が合議して、「合」か「否」の判定ができることになる。

#### 5. 留意事項 (Other Information)

個人のテーマによって中身を変更する場合がある。



講義コード (Course Code)	210101F0J
授業名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担当者 (Instructor)	杉村 美奈
単位数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

担当教員の指導を受けて修士論文の作成・執筆をおこなう。「専門演習」における成果を基盤として、個別指導を行う。学生は指導教員にテーマおよび要望点を相談し、研究課題を特定する。正指導教員1名、副指導教員2名の指導を受けるが、主に正指導教員の個別指導を受ける。開講前に学生はテーマについて予備調査を受け、特に修士論文指導予定の「専門演習」担当者から事前に指導を受け準備する。

### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

学生は大学院入学願書の「研究計画」執筆段階において個別指導を受けた教員との折衝を通じ課題を絞りこみ研究をする。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生は修士論文作成指導教員のアドバイスを受けて論文執筆を行う。チューター制のクラス運営であるため、指導教員と適宜連絡をとりながら、執筆を進めていくことになる。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
教員の指示に従い、論文執筆を進め、添削を受ける。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
- 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による口頭試問をうけ、論文の内容、英語表現、口頭試問における受け答え、等を評価項目として、3名の指導教員が合議して判定を行う。

講義コード (Course Code)	210101G0J
授業名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	一時間
担当者 (Instructor)	吉野 啓子
単位数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

担当教員の指導を受けて修士論文の作成・執筆をおこなう。「専門演習」における成果を基盤として、個別指導を行う。学生は指導教員にテーマおよび要望点を相談し、研究課題を特定する。正指導教員1名、副指導教員2名の指導を受けることができるが、主に正指導教員の個別指導を受ける。開講前に学生はテーマについて予備調査を受け、特に修士論文指導予定の「専門演習」担当者から事前に指導を受け準備することになる。

### 2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

学生は大学院入学願書の「研究計画」執筆段階において個別指導を受けた教員との折衝を通じ課題を絞りこみ研究することになる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生は修士論文作成指導教員のアドバイスを受けて論文執筆を行う。チューター制のクラス運営であるため、指導教員と適宜連絡をとりながら、執筆を進めていくことになる。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
教員の指示に従い、論文執筆を進め、添削を受ける。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
2 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

正指導教員と2名の副指導教員による口頭試問をうけ、論文の内容、英語表現、口頭試問における受け答え、等を評価項目として、3名の指導教員が合議して、「合」か「否」の判定ができることになる。

### 5. 留意事項 (Other Information)

個人のテーマによって中身を変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	260011N0J
授業名 (Course Title)	生活文化学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中村 久美・鳥居本 幸代・藤原 智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	適宜、授業で資料等、配布する。
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活に関わる文化をヒトとモノ、コトとの相互関係の構築ととらえ、それを歴史や風土、社会的背景の追求から解明することで、よりよい人間の生活のあり方を考えていくものである。本特論ではこの生活文化の諸相を衣生活、食生活、住生活の各側面から明らかにする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・明治時代の洋服導入による、日本古来の服飾文化の変異を明らかにする。(鳥居本)
- ・米をテーマに日本型食生活と食文化について考察する。(藤原)
- ・生活の諸相を文化的視点からみること、その意義を理解する。(中村)

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・講義形式をとる。(鳥居本)
- ・主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行う。(藤原)
- ・ゼミ形式でテーマにそって資料を読み解きながら議論をする。(中村)
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
事前配布の資料や文献指定ページなどには必ず目を通すこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- ・出席率・授業参加度 (30%)、レポート (70%) に基づき総合的に行う (鳥居本)
- ・授業参加度 (40%)、レポート (60%) に基づいて総合的に行う (藤原)
- ・議論への参加の様子 (50%)、レポート (50%) に基づいて総合的に行う (中村)
- ・担当教員3名の評価の平均によって決定する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回	衣からみた生活文化論	鳥居本
第2回	日本の服飾文化と外来文化の接点を概説	鳥居本
第3回	洋装導入の経緯	鳥居本
第4回	子供服と洋服文化	鳥居本
第5回	改良ブーム	鳥居本
第6回	食からみた生活文化論	藤原
第7回	米の歴史	藤原
第8回	米の栄養と調理性	藤原
第9回	飯と食文化	藤原
第10回	酒と食文化	藤原
第11回	住からみた生活文化論	中村
第12回	風土性から読み解く空間論、建築論	中村
第13回	歴史性から読み解く空間論、建築論	中村
第14回	日本の風土と生活様式、住様式	中村
第15回	文化的視点からみた生活様式、住様式	中村

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260013N0J
授業名 (Course Title)	健康生活科学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	萩原 暢子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

現代生活に潜む様々な健康関連の問題を取り上げ、専門的な講義や、DVDからの問題点の抽出とディスカッション、レポート発表などで、生活に密着した『健康』への認識を深める。

長寿社会での寝たきり防止のために、骨の健康について詳述する。また、「食」が健康の中心的位置を占めており、健康食品に潜む危険性についても述べる。最近話題になっている人獣共通感染症や、ヒトが日常的に受ける環境ホルモン、電磁波、放射線などの外的要因を取り上げ、人体への影響について言及する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 健康の概念
- 2) 骨と健康
- 3) 食と健康
- 4) 人獣共通感染症
- 5) 環境と健康
- 6) 女性と健康

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

授業は講義形式であるが、問題提起をし意見を求める。必要に応じてパワーポイント、DVD、ビデオなど適宜使用して学習効果を高める。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業テーマに関連するテキストや記事を調べて、予備知識を得ておく。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、提出物・課題のレポート点 (70%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回	オリエンテーション、「健康の概念」、「ソーシャルキャピタルについて」、現在の医療体制全般に対する問題点の抽出
第2回	前回の問題点発表とディスカッション (レポート提出) 骨と健康 I 自分の骨の状態を知る、骨の話
第3回	骨と健康 II 骨測定法、カルシウムの話、骨粗鬆症の話、骨粗鬆症予防<栄養>
第4回	骨と健康 III 骨粗鬆症予防<運動、生活環境>、高齢者と骨折、女性と骨粗鬆症1)
第5回	骨と健康 IV 女性と骨粗鬆症2、骨粗鬆症の治療 最近のトピックス
第6回	食と健康 I 健康食品について、保健機能食品制度について
第7回	食と健康 II 骨粗鬆症と機能性食品、アンチエイジングと食について
第8回	食と健康 III 「やさしい栄養学」DVDを見て食の問題点の抽出、レポート作成
第9回	食と健康 IV 食の問題点の発表とディスカッション、発表後レポート提出 人獣共通感染症 I 総論、各論 (エキノコックス、インフルエンザ)
第10回	人獣共通感染症 II 各論 (狂牛病、クロイツフェルト・ヤコブ病、クールー)、生物テロでの感染症の知識
第11回	内分泌攪乱化学物質 I 総論、各論 (合成女性ホルモン、プラスチックの原料や添加物)
第12回	内分泌攪乱化学物質 II 各論 (界面活性剤の原料と分解生成物、残留有機塩素化合物、船底塗料の活性成分、植物エストロゲン)
第13回	内分泌攪乱化学物質 III ダイオキシンの話、「ベトナム戦争 枯葉剤被害 “いまだ癒されない傷あと”」DVD鑑賞、放射線と健康
第14回	課題発表のための準備 (資料作成など)、最終レポート作成
第15回	課題発表会：各自が興味のあるテーマを選択し、PCなどを用いて発表する

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

- ・日常生活の中で環境からの健康被害などへの問題意識を持つ。
- ・授業でのディスカッションには、積極的に参加すること。

講義コード (Course Code)	260030N0J
授 業 名 (Course Title)	研究方法論 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30 時間
担 当 者 (Instructor)	中村 久美, 石井 浩子, 牛田 好美, 加藤 佐千子, 竹原 広実, 鳥居本 幸代, 萩原 暢子, 三好 明夫, 藤原 智子, 佐藤 純
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1 (通年)
テキスト (Textbook)	各回授業で適宜資料を配布する
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	選択必修 研究方法論 I もしくは同 II を選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、生活科学や健康科学、生活文化など生活関連領域における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。

具体的には、まず、上記領域において用いられる代表的な研究方法について、各手法を常用する教員から解説を受ける。続いて担当教員が実際に行った過去の研究事例を取り上げ、より実践的に研究方法を体験学ぶ機会を提供する。以上を通じて研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究方法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

さらに後半では、受講者自身が発表者となり、自らの研究についての構想発表を行い、それに関する質疑応答を受けることを通じて、自己の研究構想をかためていくことを目指している。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 生活科学や健康科学、生活文化などの領域における研究手法について理解を深める。
- (2) 各学生が個別的に取り組む研究の構想を明確化する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 研究方法についての講義
  - (2) 研究計画書の作成
  - (3) 修士論文構想発表会における研究構想の発表とディスカッション
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
各回でとりあげる研究手法について、図書館の文献で予習すること。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 研究方法論レポート (30%)
- (2) 研究計画書 (体裁、構成力) (40%)
- (3) 修士論文構想発表 (30%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |       |                        |       |
|-------|------------------------|-------|
| 第 1 回 | 文献研究法                  | 鳥居本   |
| 第 2 回 | 量的研究法                  | 竹原    |
| 第 3 回 | 質的研究法                  | 佐藤    |
| 第 4 回 | 生活科学や健康科学に関わる研究動向・研究方法 | 藤原    |
| 第 5 回 | 生活科学や健康科学に関わる研究動向・研究方法 | 中村    |
| 第 6 回 | 生活科学や健康科学に関わる研究動向・研究方法 | 牛田    |
| 第 7 回 | 修士論文構想発表会              | 準備 加藤 |
| 第 8 回 | 修士論文構想発表会              | 全員    |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

各研究法、修士論文構想発表会等一部の授業は、研究方法論 II と合同で行う。

講義コード (Course Code)	260031N0J
授 業 名 (Course Title)	食生活文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	藤原 智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配付する。
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講 1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

人類は何を食べてきたか、食事にどのような意義を見いだしてきたかを知り、世界の食文化との相対的比較の中で日本人の伝統的な食文化である「和食」の特徴を合理的に説明することができる。また、和食文化が果たしてきた役割を民族学的視点から論じることができる。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 世界各地の食文化を風土や地理、社会や宗教的な背景から考察する。
2. 日本の伝統的な食文化である和食の成り立ちを歴史的に捉え、和食の特徴を日本の風俗・風習とともに理解する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行う。

参考文献や資料は授業の中で提示、あるいは配付する。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |        |                        |
|--------|------------------------|
| 第 1 回  | 世界の食文化 (風土・地理と食生活)     |
| 第 2 回  | 世界の食文化 (社会・宗教と食生活)     |
| 第 3 回  | 日本の食文化 (和食の成り立ちと日本の歴史) |
| 第 4 回  | 日本の風土と食の思想             |
| 第 5 回  | 年中行事と食                 |
| 第 6 回  | 儀式・祭礼と食                |
| 第 7 回  | 和食のしつらえ (食具)           |
| 第 8 回  | 和食のしつらえ (空間)           |
| 第 9 回  | 和食のマナー                 |
| 第 10 回 | 日本各地の郷土食 (北)           |
| 第 11 回 | 日本各地の郷土食 (東)           |
| 第 12 回 | 日本各地の郷土食 (西)           |
| 第 13 回 | 日本各地の郷土食 (南)           |
| 第 14 回 | 京都の和食文化                |
| 第 15 回 | 世界の食と和食                |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260032N0J
授業名 (Course Title)	高齢者食生活特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	加藤 佐千子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『超高齢社会を生きる-老いに寄り添う心理学』 日本心理学会監修 誠心書房 2017
参考文献 (References)	『8割以上の老人は自立している』 柴田博 ビジネス社 2002 『食と味嗅覚の人間科学1. 食行動の科学』 斉藤幸子・今田純雄監修 朝倉書店 2017
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

現代の日本では、高齢化が急速に進んでいる。いかに、健康寿命を保ち、高齢期を充実させるかが国民全体の課題である。そのような中で、高齢者の心身の健康に及ぼす食の影響は大変大きいといえる。そこで、本講義では、高齢期の食生活の在り方が心身に及ぼす影響や生活機能およびQOLとの関連について理解を深めることを目的とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・高齢者を正しく理解する。
- ・高齢者の食生活に関する先行研究を読み、研究のまとめと発表ができる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・各講義にレポーターを指名する。
- ・テキストを分担で購読し、発表、議論する。また、収集した関連資料をもとに発表や討論により進める。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
指定テキストおよび文献をよく読みまとめてくること。  
プレゼンテーションできるようにまとめておくこと
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価基準…テキストおよび関連資料をもとに理解を深め、発表できたか。  
議論に積極的に参加できたか。  
評価方法…レポーターとしての発表50%、レポート40%、議論への参加度10%。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 年をとると何がかわるのか。老化モデルについて
- 第2回 日本型「生きがい」とは何か
- 第3回 元気な高齢者は増加しているのか 高齢者の食パタン、栄養
- 第4回 食事と老化や長寿は関係しているのか
- 第5回 体の変化と生活習慣
- 第6回 食と栄養の生活の質への関連 (生活機能)
- 第7回 食と栄養の生活の質への関連 (精神機能)
- 第8回 食と栄養の生活の質への関連 (共食・外食)
- 第9回 栄養摂取 (エネルギー、タンパク質、脂肪、ビタミン、無機質)  
食生活指針、食事バランスガイド
- 第10回 発表と討論 (身体的要因と食事との関連研究)
- 第11回 発表と討論 (精神的要因と食事との関連研究)
- 第12回 発表と討論 (社会的要因と食事との関連研究)
- 第13回 高齢者の食物選択動機について
- 第14回 野菜の選択と関連する要因
- 第15回 総合討論

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の状況に合わせて、発表日を変更することがある。

講義コード (Course Code)	260036N0J
授業名 (Course Title)	生活デザイン論特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中村 久美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	毎回授業で資料等、配布する
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

衣食住の諸相や経営、その根底を支える生活思想や精神性、さらには家族や社会との関係性、それらの総体として生活デザインを考える。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

風土や歴史を背景とした住様式の視点から、ヒト、モノ、空間の相互関係を検証することにより、人間生活の基盤となる住生活のあり方、生活デザインの再構築を検討していく。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 講義とゼミ形式を適宜組み合わせる授業を行う
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
事前配布の論文、資料を読み込んでくること。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加状況 (20%) と課題レポート (80%) で評価する

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 地球環境問題と生活デザイン  
- 生活の枠組としての地球環境問題
- 第2回 〃 - 自然との応答性ある住まいと住み方
- 第3回 〃 - 住まいの寿命と生活管理
- 第4回 〃 - モノの保有と管理
- 第5回 家族のあり方と生活デザイン  
- 近代家族の成立と家庭生活
- 第6回 〃 - 家族関係と住生活の問題
- 第7回 〃 - ライフサイクルの変化と住まい
- 第8回 〃 - 世帯の変化と新しい居住のあり方
- 第9回 社会、地域と生活デザイン- 住環境と地域・生活
- 第10回 〃 - 地域生活とコミュニティ
- 第11回 〃 - 集合住宅の住生活
- 第12回 〃 - 住民参加とまちづくり
- 第13回 福祉文化と生活デザイン- 居住福祉の考え方
- 第14回 〃 - 地域で描く居住福祉デザイン
- 第15回 〃 - 現代の「生活デザイン」

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260050N0J
授業名 (Course Title)	研究方法論Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	佐藤 純・竹原 広実・中村 久美・三好 明夫・萩原 暢子・加藤 佐千子・石井 浩子・牛田 好美・鳥居本 幸代・藤原 智子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1 (通年)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	選択必修 研究方法論ⅠもしくはⅡを選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、生活福祉における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。

具体的には、まず、生活福祉における研究を行う複数教員による指導を通して、実際の研究事例を取り上げるなどして、多様な研究に触れる機会を提供する。こうしたことを通して、研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。さらに後半では、受講者自身が発表者となり、自らの研究についての構想発表を行い、それに関する質疑応答を受けることを通して、自己の研究構想をかためていくことを目指している。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 生活福祉領域における研究方法について理解を深める。
- (2) 各学生が個別的に取り組む研究の構想を明確化する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 研究方法についての講義
- (2) 研究計画書の作成
- (3) 修士論文構想発表会における研究構想の発表とディスカッション

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

該当する授業内容について、学部等で学んできたことを復習し、自分の知識の点検をしておくとともに、授業で学びたいポイントを明確にしておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 研究方法論レポート (30%)
- (2) 研究計画書 (体裁、構成力) (40%)
- (3) 修士論文構想発表 (30%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 文献研究法 (三好)
- 第2回 量的研究法 (石井)
- 第3回 質的研究法 (佐藤)
- 第4回 生活福祉領域における研究動向1 (三好)
- 第5回 生活福祉領域における研究動向2 (石井)
- 第6回 生活福祉領域における研究動向3 (佐藤)
- 第7回 修士論文構想発表会準備 (全員)
- 第8回 修士論文構想発表会 (全員)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

各研究法、修士論文構想発表会等一部の授業は、研究方法論Ⅰと合同で行う。

講義コード (Course Code)	260052N0J
授業名 (Course Title)	生活環境学特論 環境工学の視点で空間を捉える
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	竹原 広実
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (通年)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『図解住居学5 住まいの環境』 彰国社 『温熱生理学』 理工社 『人工環境デザインハンドブック』 丸善株式会社
備考 (Note)	隔年開講1 隔週2 コマ連続

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

環境心理、環境生理、知覚心理、感性デザインなどの領域を包括した環境工学の見地から、その概念を理解し、基礎知識を習得し、実践的に演習を行うことにより、よりよい空間デザインのありかたについて考察する技法を学ぶ。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

住環境に対する空間評価を環境工学的視点からアプローチする概念、技法を身につける。授業ではまず、熱、光、音、空気などの物理環境要素と人間の感覚、知覚心理との関連についての知識を習得し、データ解析演習を通してその関連性について考察する。並びに、関連する研究論文を収集し自ら学ぶことを求める。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

温熱環境、音環境、光環境、空気環境、色彩環境について理解を深め、それぞれの生理的評価、心理的評価、デザイン展開、基準値・指標について学ぶ。その後、実際の調査データを用いて、データ解析を行うなどの実践的演習を実施し、環境の物理量と人間の感覚心理量との関連について考察を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

必ず事前知識をえておくこと  
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 20時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%) と課題レポート (70%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 温熱環境の基礎 (テキスト購読、発表)
- 第3回 温熱環境に対する生理的反応 (テキスト購読、発表)
- 第4回 対象空間に関する講義
- 第5回 温熱環境に関する先行研究 (テキスト購読、発表)
- 第6回 温熱環境に関する演習 春調査
- 第7回 温熱環境に関する演習 初夏調査
- 第8回 温熱環境に関する演習 盛夏調査
- 第9回 温熱環境に関する演習 補足追加調査
- 第10回 データ分析演習の概要
- 第11回 データ分析演習 (測定データ)
- 第12回 データ分析演習 (インタビューデータ)
- 第13回 結果と考察の筋道をたてる
- 第14回 結果と考察の完成
- 第15回 まとめ、発表

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業は2時間連続で実施する。詳細はガイダンスで説明するので注意するようにしてください。

講義コード (Course Code)	260054N0J
授業名 (Course Title)	社会福祉運営管理特論 よりよい福祉施設運営管理とは何かを考えていく
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 明夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	テキストとして必要な書類等は印刷して配布する
参考文献 (References)	必要な文献は適宜紹介していく
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

社会福祉運営管理はソーシャル・アドミニストレーションと呼ばれる。社会福祉を合理的かつ効率的に運営、管理するために行われる方法で、サービス提供を行う組織を単位として、運営管理を推し進める援助活動技術である。領域は社会福祉活動領域全般に及ぶが、社会福祉法人と特定非営利活動法人の実践活動を中心に関連援助技術の理解とともに考えていく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①社会福祉組織の運営を考察する基本視点を明確にする。
- ②社会福祉組織の特性を理解する。
- ③専門職員の労働意欲の向上について学ぶ。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

社会福祉運営管理の概念整理を行い、社会福祉機関の現場で出現している課題について議論していく。その後、組織運営の立場で考えながら職員の労働意欲向上について議論していきたい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講希望者は各種社会福祉施設の管理および運営の実践について学んでいくので予備学習として関連する新聞記事や近隣の福祉施設に見学に出かけるなどしておくことよ。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 20時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席および参加度50%、課題発表およびレポート提出50%で総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 社会福祉運営管理とは何か
- 第2回 社会福祉組織の理解
- 第3回 社会福祉組織の特性
- 第4回 社会福祉組織の専門職
- 第5回 社会福祉組織の労働特性
- 第6回 社会福祉組織の課題と展望
- 第7回 労務管理論①
- 第8回 労務管理論②
- 第9回 労務管理論③
- 第10回 ソーシャルワーク・スーパービジョン① 意味
- 第11回 ソーシャルワーク・スーパービジョン② 役割
- 第12回 ソーシャルワーク・スーパービジョン③ 方法
- 第13回 コンサルテーション① 意味
- 第14回 コンサルテーション② 方法
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260059N0J
授業名 (Course Title)	ウェルビーイング研究特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鈴木 七美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期集中)
テキスト (Textbook)	『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』鈴木七美他編 御茶ノ水書房 2010年 『「生活大国」デンマークの福祉政策』野村武夫 ミネルヴァ書房 2010年 『文化人類学—文化的実践知の探究』松園万亀雄他編 放送大学教育振興会 2003年 テキストは、講義中の指示に従い、参照すること。
参考文献 (References)	『The Anthropology of Aging and Well-being』Suzuki Nanami ed. National Museum of Ethnology 2013 『The Anthropology of Care and Education for Life』Suzuki Nanami ed. National Museum of Ethnology 2014 『「障害のない社会」にむけて—ウェルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践』鈴木七美編著 国立民族学博物館 2012 参考文献は、講義中の指示に従い、ダウンロードすること。
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

少子高齢化、格差拡大、グローバル化が進行する現代社会において、人々が関わり合い支え合って生きてゆくうえで、「ウェルビーイング」という言葉が、ますます注目を集めている。本特論では、「ウェルビーイング」について考えることがどのような意味をもつか、またいかなる実践に展開する可能性があるのかについて、検討する。ウェルビーイングという語の意味と使われ方の歴史、様々な文化において表現されるウェルビーイング、ウェルビーイングに関わる葛藤を、資料に基づき辿る。これらをとおして、変化の中で、多様なウェルビーイングを志向する人々が、生き方(ウェイ・オブ・ライフ)や生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)を問い直し、共生する実践について、考察を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 人と社会におけるウェルビーイングの探求
2. ウェルフェアとウェルビーイング
3. 文化とウェルビーイング
4. ウェルビーイングと葛藤
5. 多様なウェルビーイングと共生

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、発表と討議を組み合わせた授業を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に指示する内容(資料確認 発表準備、調査等)について、事前に行う。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価はレポート、授業中の発表や討議の内容などを加味して総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション—現代社会におけるウェルビーイング
- 第2回 ウェルビーイングの意味と歴史
- 第3回 ウェルビーイングと文化
- 第4回 ウェルビーイングとケア・癒し
- 第5回 女性のライフコースとウェルビーイング
- 第6回 家族とウェルビーイング
- 第7回 教育とウェルビーイング—米国アーミッシュたちの教育実践から考える
- 第8回 ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイング—スイスにおける実践から考える

- 第9回 研究発表と討議1  
 第10回 高齢化する社会とウェルビーイング  
 第11回 エイジング・イン・プレイスの探求——心地よい暮らしと「ホーム」  
 第12回 すべての世代を包摂するエイジ・フレンドリー・コミュニティ運動  
 第13回 変化するウェルビーイングを生かす実践  
 第14回 研究発表と討議2  
 第15回 まとめ

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260060N0J	
授業名 (Course Title)	ソーシャルワーク思想特論	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担当者 (Instructor)	加藤 博史	
単位数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)	『社会福祉の定義と価値の展開』 加藤博史 ミネルヴァ書房 2013	
備考 (Note)	隔年開講1	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

1. 現代のソーシャルワーク（社会福祉実践）の基盤となっている理念について、その根底にある思想、価値観、歴史的意義などについて理解する。
2. 社会福祉事業の思想的意義、歴史的背景や、社会福祉の先覚者の実践思想についても理解を働きやについても検討し、現状の社会福祉の目指すべき方向やあり方を展望する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 社会福祉実践思想の歴史的背景、その成立過程
2. ソーシャルワークの基本原則の成立要素
3. 現代のソーシャルワーク実践理念の思想的背景について
4. 社会福祉の先覚者たちの事業と実践思想

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 担当教員の講義によるソーシャルワーク実践思想の理解を深める。
2. 各自の研究や実践思想に関する発表とそれにもとづく討議を中心に進める。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

関心のある分野で、人間観、社会観、世界観を深く問うように心がけて、世界の思想化の書物に挑戦してください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は主としてレポートによって行うが、発表や討議の内容を加味して総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業のオリエンテーション（授業のねらい、授業方法など）  
 第2回 社会福祉実践思想の系譜（講義）  
 第3回 ビューリタニズムと福祉実践思想との関係（講義）  
 第4回 日本における社会福祉実践思想の歴史の変遷（講義）  
 第5回 自由研究の発表と討議（1）ウエップ、ベバリッジ、ティトマスの思想、生存権の思想。  
 第6回 自由研究の発表と討議（2）岡村重夫、孝橋正一、一番ヶ瀬康子の思想。  
 第7回 自由研究の発表と討議（3）当事者主権、リカバリー、レジリアンスの思想。  
 第8回 自由研究の発表と討議（4）自立と共生の思想。  
 第9回 自由研究の発表と討議（5）優生の思想とその批判思想。  
 第10回 実践思想に関する発表と討議（1）エンパワメント、ナラティブ、エコロジカル・アプローチ。  
 第11回 実践思想に関する発表と討議（2）ラスキン、トインビー、グリーン思想。  
 第12回 実践思想に関する発表と討議（3）野口幽香、徳永恕、フレール、ベスタロッチの思想。  
 第13回 実践思想に関する発表と討議（4）リッチモンド、アダムの思想。  
 第14回 実践思想に関する発表と討議（5）糸賀一雄の思想。  
 第15回 まとめ

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

1. 授業の曜日や時間は履修登録者と担当教員の協議により変更する可能性がある。
2. 履修登録者数によって各自の発表回数や授業の運営の仕方を変更する可能性がある。

講義コード (Course Code)	260061N0J
授業名 (Course Title)	地域生活支援特論 生活問題と地域生活支援を考える
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	濱島 淑恵
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	テキストは使用せず、授業内で必要なプリントを配布する。
参考文献 (References)	『生活問題と地域福祉－ライフの視点から』 三塚武男 ミネルヴァ書房 1997年 『障害者・家族の生活問題』 高林秀明 ミネルヴァ書房 2010年 『社会的排除』 岩田正美 有斐閣 2008年 購入は必須としないが、授業内容の理解を深め、授業での活発な議論を促すと考えられるため、受講期間中に読まれることを勧めます。
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

「地域福祉の主流化」と言われる現在、地域社会における住民同士の助け合い、社会福祉協議会、NPO法人、ボランティア団体等民間組織・団体の活動、公私協働、ソーシャルサポートネットワークの重要性が唱えられ、その推進が各地で取り組まれている。しかしながら、表面的な地域福祉活動に終始し、本来何故地域福祉が必要とされたのか、その意義、目的とは何か、といった地域福祉の本質が軽視される傾向も散見される。

そこで本科目では、まずは地域福祉の本来の意義と目的を整理し、近年の社会福祉政策における地域福祉の位置づけ、地域福祉の実践活動について批判的検討を行い、地域生活を可能とする社会的条件について議論を行う。

以上を通して、地域福祉の本質の理解と、地域生活を支援する専門職に求められる専門的視点の修得を目指す。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

地域福祉の理念、理論、歴史的変遷について講義を行い、地域福祉の概要、意義を理解する。その後、家族介護者の生活問題、日常生活自立支援事業の現状とその利用者（認知症高齢者、知的・精神障がい者等）の生活実態、生活問題に焦点を絞り、社会福祉政策を包括的にとらえた上で、地域生活を困難にする要因を分析し、地域生活を可能とする「社会的条件」を検討する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義に加え、プリントを配布し、担当者を定めて内容を報告する。それらをもとにディスカッションを行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

特別なことは必要としないが、日常の学習、研究活動の中で、地域にはいかなる人々が住み、そこに存在する生活問題、福祉課題について、児童、高齢、障がい等様々な福祉領域に関する著書、論文を読み、講義を受ける中で、知識を蓄積しておくこと。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業での報告内容、ディスカッションへの貢献度、最後に課すレポート課題で総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- オリエンテーション－本科目の概要、目標、進行方法等
- 地域福祉とは何か・何故「地域福祉」が必要か
- 地域福祉の理念
- 地域福祉の理論
- 諸外国における地域福祉の歴史の変遷1－イギリス－
- 諸外国における地域福祉の歴史の変遷2－アメリカ及びその他の国々－
- 日本における地域福祉の歴史の変遷1－戦前～1960年代－
- 日本における地域福祉の歴史の変遷2－1970年代～現在－
- 家族介護者の抱える生活問題
- 地域における家族介護者支援
- ヤングケアラーの実態と抱える問題
- ヤングケアラーの地域支援ネットワーク
- 日常生活自立支援事業の特徴と実態
- 地域生活における生活経営支援の必要性
- 総括－地域生活を可能とする社会的条件とは何か

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260063N0J
授業名 (Course Title)	精神保健福祉特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 純
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	なし
参考文献 (References)	授業中に紹介する
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

精神の「障害」は、病状等に伴い変動しやすく、しかも支援サービスの不足や周囲の誤解や偏見により、地域であたりまえの生活を送ることを困難にさせる。そしてその支援には、様々な分野の専門職と協働するチームアプローチが必要となる。

この科目では、精神に「障害」のある人たちやその家族への支援技術やその技術の基盤となる理念や価値、そしてその技術について考えていく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

精神に「障害」のある人への生活支援のあり方を理解し、実践する力をつける

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義及び演習

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に前の授業で示された文献・書籍等を読み、自分なりの考えをまとめておくこと

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度50点、最終レポート50点

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- オリエンテーション－精神保健福祉とは
- 精神「障害」論 精神疾患とは
- 精神「障害」論 疾患と障害
- 精神「障害」論 リハビリテーション
- 精神保健福祉面接技術 面接とは何か
- 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ 工夫と例外
- 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ スケーリングエクステション
- 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ 目標の共有
- 精神障害者家族の理解と対応 これまでの家族支援
- 精神障害者家族の理解と対応 家族をどうとらえるか
- 精神障害者家族の理解と対応 何を支援することが家族の支援になるのか
- 精神障害者家族の理解と対応 家族の人生を支援する
- 我が国の精神保健医療福祉の課題 未治療・医療中断へのアプローチ
- 我が国の精神保健医療福祉の課題 重い精神障害のある人への支援
- まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	260111N0J
授 業 名 (Course Title)	食生活指導論特論 ライフステージにおける食の現代的課題と食の意味
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	大谷 貴美子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	プリントを配布
参考文献 (References)	『和食の散歩道』 大谷貴美子 et.al. KUMI 2015
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

食生活は、単に空腹を満たす、必要な栄養を補うためのものではない。心を癒したり、人間関係を深めたり、メッセージを託すなど、様々な機能をもっている。食べ物が、簡単に手に入る時代にあって、食べ方を忘れ、肉体的な健康だけでなく心の健康までが損なわれている。本講義では、ライフステージごとに、食に係る様々な問題を取り上げながら、各ライフステージにおける食の意義を見直し、食生活への正しい理解と食の見識を深めるとともに、効果的な指導方法を理解することを目標とする。また、日本の食文化への理解を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

各ライフステージにおいて、食する人のQOLが高まるような食生活とは何か。

食生活に関する課題を理解し、指導目標・計画が立てられること。さらに、日本の食文化伝承のための効果的な取り組みが考えられること。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

資料と指導の実践例を提示しながら、様々な食生活上の問題点について講義を行い、学生と意見交換を行いながら理解を深めてもらう。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

一人約5分間、受講者が関心を持った食生活に関する新着情報を発表してもらいますので、受講者全員分の配布物(要点、または紹介記事など)を準備しておく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 8時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業の取り組み姿勢とレポート

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 基本的人権と食
- 第2回 食べ物の基本的な条件を考える
- 第3回 食べものの安全性を考える
- 第4回 「未来の食卓」DVD鑑賞を通じて、食の安全性を討論
- 第5回 おいしさを考える
- 第6回 現代の日本の食の背景(1)～食の生産・流通から
- 第7回 現代の日本の食を考える(2)～ライフスタイルの変化から
- 第8回 天のしずく～命のスープ(DVD)鑑賞と討論
- 第9回 乳幼児期の食の課題と指導の実際
- 第10回 学童期の食の課題と指導の実際
- 第11回 海外における食育の実際 DVD鑑賞と討論
- 第12回 成人期の食の課題と指導の実際
- 第13回 高齢期の食の課題と指導の実際
- 第14回 日本の食文化に見る知恵と精神
- 第15回 日本の食文化と食の指導の実際

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260114N0J
授 業 名 (Course Title)	老年健康学特論 いつまでもいきいき、元気、はつらつ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	新屋 久幸
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『老年看護学① 高齢者の健康と障害』 堀内ふき、他 メディカ出版 2016 『いつか罹る病気に備える本』 塚崎朝子 講談社 2012 『老年医学テキスト』 日本老年医学会編 メジカルビュー社 2008 『老年学に学ぶ』 山本思外里 角川学芸出版 2008 『超高齢社会の基礎知識』 鈴木隆雄 講談社 2012 『高齢者医療の倫理』 橋本 肇 中央法規 2000
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

私たちは今日も老化し、老年に向かっている。老年期にいたるまでの経過、老化にともなう健康上の問題、終末期を含む社会的な諸問題について考えていきたい。

1. 老年期にいたるまでの発達や老化の問題・課題について理解し、生活や福祉分野での活動に応用できる
2. 老化にともなう心身の変化の特徴と対応を理解し対応できる
3. 高齢者に多い症状や疾病の特徴を理解し、援助や問題解決への対応ができる

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

自分が経験してきた成長・老化、身近な高齢者などを念頭に、自分の問題としても、自分が老年になったつもりで想像力を働かせ、理解を深め、考えていきたい。

1. 老年期にいたるまでの発達と老化について
2. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について
3. 高齢者と社会システム、医療保険制度、介護保険制度、保健医療福祉施設
4. 高齢者とその家族の抱える問題や課題
5. 高齢者のQOLと倫理的課題
6. 終末期医療・介護とケア
7. 健康寿命の延伸と老化予防

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

毎回のテーマに対して以下のように展開する。予習を前提に、能動的、相互的な展開を志向する。

1. 講義と解説、ディスカッション
2. テーマに対して受講生のプレゼンテーション・質疑～ディスカッション
3. プレゼンテーションまたは事例検討に対するディスカッション、グループワーク

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習、プレゼンテーションの場合は資料作成、復習。課題レポートがある場合は論考、論述。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績評価の割合は、授業参加度・態度、受講生の相互評価を50%、課題レポートを50%と按分し、合算し評価する

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 はじめに ～発達と老化
- 第2回 高齢者とは ～特徴と理解
- 第3回 高齢者にとっての健康
- 第4回 高齢者をとりまく社会 ～生活と家族
- 第5回 高齢者をとりまく社会 ～支える制度
- 第6回 高齢者をとりまく社会 ～地域包括ケア
- 第7回 長期療養施設と在宅療養
- 第8回 高齢者医療・看護・介護の基本 ～社会資源
- 第9回 高齢者医療・看護・介護の基本 ～倫理
- 第10回 高齢者医療・看護・介護の基本 ～よくみられる疾患とリスクマネジメント
- 第11回 高齢者のヘルスプロモーション ～健康づくり
- 第12回 高齢者のヘルスプロモーション ～疾病の予防と運動器の機能向上
- 第13回 高齢者の生活を支える ～コミュニケーション、衣食住
- 第14回 高齢者の生活を支える ～社会参加
- 第15回 終末期医療・療養とケア

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業予定・内容の変更の可能性もあります。授業に対する問い合わせは、研究室または電子メールにて。

講義コード (Course Code)	260117N0J
授業名 (Course Title)	地域居住学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中山 徹
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
テキスト (Textbook)	特になし
参考文献 (References)	授業中に紹介する
備考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

地域居住学では、日本のまちづくりについての全般的な理論、現実を学ぶ。また、海外事例の学び、日本の現状を相対的にとらえる。後半は現地見学に行き、授業で紹介した事例を実際に見るとこで理解を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) まちづくりを社会的な視点からとらえるようにする。
- (2) 日本の状況だけでなく、海外の傾向も理解できる。
- (3) これからのまちづくりを考える上で、典型的な地域を訪問し、今後のあり方を具体的に考えることができる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

集中講義で行う。前半の2日間は講義である(4コマ×2日)。パワーポイントなどを使って授業を進める。後半の2日間は現地見学会とする(4コマ×2日)。見学先は、大阪市内と奈良県を予定している。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1日目の講義終了時に、見学先の具体的な情報を提供する。その上で、Webサイトなどを活用して、①その地域の状況、②歴史的な経緯、③現在抱えている課題、④今後の展望などをあらかじめ調べておく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

課題レポート(50点)、講義中の発言(50点)により行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 まちづくりの基本方向
- 第2回 日本のまちづくりの特徴と問題点
- 第3回 人口減少時代のまちづくり
- 第4回 少子高齢化時代のまちづくり
- 第5回 ヨーロッパのまちづくり
- 第6回 アメリカのまちづくり
- 第7回 アジアのまちづくり
- 第8回 国際的に見たまちづくりの傾向
- 第9回 現地見学会(大阪市内、空堀地区、町家再生地区)
- 第10回 現地見学会(大阪市内、鶴橋地区、鶴橋商店街地区)
- 第11回 現地見学会(大阪市内、東成地区、戦前長屋地区)
- 第12回 現地見学会(大阪市内、浪速地区、伝統的商業地区)
- 第13回 現地見学会(奈良県、今井町、伝統的建造物群保存地区)
- 第14回 現地見学会(奈良県、ならまち、景観形成地区)
- 第15回 現地見学会(奈良県、奈良中心市街地活性化地区)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

夏休み期間の4日間で集中講義を行う

講義コード (Course Code)	260119A0J
授業名 (Course Title)	ソーシャルワーク実習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	佐藤 純、三好 明夫、石井 浩子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (通年)
テキスト (Textbook)	なし
参考文献 (References)	事前・事後授業の際に担当教員が適宜配布する
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本実習では、ソーシャルワーク特論等において習得した知識・技術・価値観を実際の場面で深め、より高度な専門的援助の展開を可能にすることを目標とする。各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に決定する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本実習では、下記のことを実習を通じて習得する。

1. 各自が選択した分野におけるソーシャルワークの実践についての理解
2. 各自が選択した現場の仕事内容・職員構成・連携についての理解
3. 援助者としての自己覚知に関する理解
4. 高度な専門的直接援助・間接援助技術の理解
5. 利用者へのサービスの有効性に関する評価方法の理解
6. 実習生自身の高度な専門的訓練
7. 援助者の倫理に関する理解

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

実習の前に事前指導を行う。実習生は実習期間中に現場指導担当職員と教員からのスーパービジョンを、また教員から事後指導を受ける。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業・実習先で示された文献・書籍等を熟読し、実習に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績評価は、実習施設の実習担当指導者と本実習担当教員の連携指導のもとに、総合評価する。その内訳は以下の通りである：

- ①実習受け入れ先のスーパーバイザーによる評価基準に基づく評価40%
- ②担当教員による事前・事後指導および実習中のスーパービジョンにおける評価40%
- ③実習報告レポート20%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

現場実習前に事前指導、実習後に事後指導を行う。実習期間は受け入れ施設/機関と相談の上決定する。

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

本実習科目を履修する条件は以下のとおりである：

- 1) 原則として、学部で、社会福祉士、精神保健福祉士、あるいは保育士の現場実習を履修した者
- 2) 社会福祉運営管理特論、ソーシャルワーク特論、精神保健福祉特論の何れかを受講していること(もちろんソーシャルワーク実習と同時に履修することも可能)

講義コード (Course Code)	260121N0J
授業名 (Course Title)	児童問題特論 子どもと家族のための新しいソーシャルワーク
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	桐野 由美子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『The Child Welfare Challenge: Policy, Practice, and Research Third Edition』 Peter J. Pecora, et.al. Aldine Transaction 2010 授業時に適宜指示
備考 (Note)	隔年開講1

- 待
- 第10回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法③ドメスティックバイオレンス
- 第11回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法④いじめ・不登校・ひきこもり
- 第12回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法⑤非行
- 第13回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法⑥心身障害を持つ子どもと家族
- 第14回 今後の子どもと家族へのソーシャルワークの展望
- 第15回 各学生が自らのテーマで書き上げたペーパー発表とクラス・ディスカッション

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目ではまず、昨今の多々の児童問題について分析する。その過程で児童家庭ソーシャルワーカーの立場から、子どもと家族のダイナミクス・他専門職の治療計画への貢献・ケースマネジメント/アドボカシーの重要性を理解する。また、ソーシャルワーカーの、家族のモチベーション・評価者・政策実施者・ケースマネージャー・地域ネットワーク・法律関係連絡係としての役割を理解し、現場での応用策を考察する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 日本・諸外国における昨今の児童問題の理解
- (2) 児童問題に対するソーシャルワークの理解
- (3) 児童家庭ソーシャルワーカーの役割の分析
- (4) 児童問題に関する事例検討

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 授業方法：
 

講義と演習を組み合わせ形式で授業を進める。授業終了時に受講生は各自の関心に合わせて最終ペーパー（3000～4000字程度）を完成する。
- (2) 学習方法：
  - ①事前に用意された参考文献に関して、授業予定に従って学習を行い、授業での議論に備えておく。
  - ②現場での対応策を自ら試みるため、ロールプレイを行う。
  - ③授業に平行して、担当教員と相談しながら、自分で選んだ児童問題のテーマに関する参考文献を選び、最終ペーパーの用意を主体的に行う。
- (3) 教材：
 

議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として配布する。ビデオ教材も適宜使用する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

準備学習の詳細は授業中に説明するが、与えられたテーマに関する文献収集・分析をし、そのテーマに関する自らの考えをまとめる作業をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

①授業参加度と課題発表 (60%)、②最終ペーパー (40%) を総合評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもと家族のウェルビーイングの定義
- 第3回 子どもと家族のソーシャルワークの概念と理論①エコロジカルシステム
- 第4回 子どもと家族のソーシャルワークの概念と理論②エンパワメントとストレンクス
- 第5回 子どもと家族のソーシャルワークの概念と理論③パーマネンシープランニング
- 第6回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法①子育て不安
- 第7回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法②-1児童虐待
- 第8回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法②-2児童虐待
- 第9回 子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法②-3児童虐待

講義コード (Course Code)	260152N0J
授業名 (Course Title)	プロジェクト課題研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	180時間
担当者 (Instructor)	萩原 暢子・石井 浩子・牛田 好美・ 加藤 佐千子・佐藤 純・竹原 広実・ 鳥居本 幸代・中村 久美・藤原 智子・ 三好 明夫
単位数 (Credits)	6
配当学年 (Eligible Year)	M1 (集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、学生が生活福祉文化の各領域の枠を払ったいくつかの「プロジェクトチーム」のひとつに参加してプロジェクト学習方式 (Project Based Learning) を学ぶ演習科目である。これにより学生と教員の関心が実践的な課題によって結ばれ、学生のより主体的な学修を促すことができる。生活福祉文化という実践科学は現場の問題解決志向性とその理論的・方法的基礎づけという2方向により成り立つ。この2方向の志向性を現実化するのが「プロジェクト課題研究」である。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) プロジェクト課題研究の意義と目的
- (2) プロジェクト課題研究の方法
- (3) プロジェクト課題研究の課題設定
- (4) 研究チームの結成
- (5) 研究の進行管理
- (6) 研究報告

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 学生が研究課題に取り組むチームを立ち上げる。
- (2) 各チームに指導担当教員を置く。
- (3) 前期は主として課題設定、後期は課題研究を行う。
- (4) 前期1回、後期2回研究会を開催し、課題の紹介、中間発表、研究発表等を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回、授業の中で行われるディスカッションに注目し、話題となっている内容について、把握するように努めること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 90時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究発表の状況及び研究終了後に提出するプロジェクト課題レポートにより評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 履修登録、科目の説明 (萩原)
- 第2回 プロジェクト課題研究の意義と目的 (萩原)
- 第3回 研究倫理について (佐藤)
- 第4回 プロジェクト課題研究の方法① (研究課題の決定：各自の興味関心を探る) (萩原)
- 第5回 プロジェクト課題研究の方法② (研究課題の決定：共通するテーマを見つける) (萩原)
- 第6回 プロジェクト課題研究の課題設定 (萩原)
- 第7回 発表および質疑応答の方法を学ぶ (全員)
- 第8回 プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成 (全員)
- 第9回 プロジェクトチームによる検討会① (テーマ・研究方法の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第10回 プロジェクト課題研究中間発表会 (全員)
- 第11回 プロジェクトチームによる検討会② (具体策の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第12回 プロジェクトチームによる検討会③ (結果の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第13回 プロジェクトチームによる検討会④ (最終発表の準備) (チームに選ばれた教員)
- 第14回 プロジェクト課題研究発表会 (全員)
- 第15回 研究およびプレゼンテーションの省察 (全員)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260155A0J ~ 260155I0J
授業名 (Course Title)	特別研究 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期集中)
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探索し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論 I」もしくは「研究方法論 II」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあつては最終学年まで) にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260156A0J～260156I0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期集中)
備 考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探究し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論Ⅰ」もしくは「研究方法論Ⅱ」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260157A0J～260157J0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期集中)
備 考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探究し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論Ⅰ」もしくは「研究方法論Ⅱ」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260158A0J～260158J0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期集中)
備 考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論Ⅰ」もしくは「研究方法論Ⅱ」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	280014N0J
授業名 (Course Title)	文化学研究方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鷲見 朗子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	特定のテキストは使用しないが、授業で配布する資料などでそれに代える。
参考文献 (References)	特になし。
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりと方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 問題提起
2. 論文の内容・形式
3. 先行研究の調査・整理の意義
4. 方法論の選択と確立
5. 結果・成果のまとめ
6. 引用・参考文献の重要性

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・講義
  - ・論文読解
  - ・オンライン検索
  - ・資料収集
  - ・発表
  - ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
  - ・文献読解
  - ・読解したものの要約
  - ・発表用のレジュメ作成
  - ・発表用のパワーポイント資料作成
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
- 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- ・レポート (50%)
- ・発表 (30%)
- ・授業参加・課題 (20%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 指導教員、指導教員との関係性
- 第3回 論文テーマの選び方、問題意識
- 第4回 先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
- 第5回 収集文献の整理
- 第6回 方法論1
- 第7回 方法論2 (社会学 ゲスト・スピーカー)
- 第8回 方法論3 (人文学 ゲスト・スピーカー)
- 第9回 論文の基本コンセプト発表・議論 第1段階
- 第10回 論文の形式
- 第11回 論文の表現
- 第12回 プレゼンテーションの方法
- 第13回 中間の研究経過報告に求められる内容
- 第14回 論文の基本コンセプト発表・議論 第2段階
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたりすることもある。

講義コード (Course Code)	280015N0J
授業名 (Course Title)	文化学研究実践論 ～研究発表に挑戦し、構想発表を成功させよう～
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	吉田 智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の1月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究に適した研究方法を見つける。
2. 他人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
3. よりよい形での研究発表を実践する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 授業時の議論、研究発表を組み合わせで行う。
  - ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
  - 毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
- 40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80%、授業時の議論への参加20%とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 前期の「研究方法論」の授業内容の復習
- 第2回 論文テーマの発表 (各自) とその研究方法に関する議論
- 第3回 研究テーマと研究発表方法の関連について整理 (サンプル論文利用)
- 第4回 自分が選んだ文献の紹介 (1) 書籍
- 第5回 自分が選んだ文献の紹介 (2) 雑誌記事
- 第6回 自分が研究発表する可能性のある「研究会」の種類の調査と報告
- 第7回 自分が研究発表する可能性のある「学会」の種類の調査と報告
- 第8回 授業内における模擬研究発表 (1) 導入
- 第9回 授業内における模擬研究発表 (2) 運用
- 第10回 授業内における模擬研究発表 (3) 応用
- 第11回 「学会・研究会」での研究発表 (1) 導入
- 第12回 「学会・研究会」での研究発表 (2) 応用
- 第13回 各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
- 第14回 修士論文の構想発表会の実施
- 第15回 構想発表会の報告とこれからの見通しを発表 (その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

特に第1回～3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。

講義コード (Course Code)	280029N0J
授業名 (Course Title)	聖書学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中里 郁子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『聖書 旧約聖書統編つき (共同訳)』 日本聖書協会 2009 『Theology of the Second Letter to the Corinthians』 Jerome Murphy-O'Connor Cambridge University Press 1991
参考文献 (References)	授業中に紹介する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1 コリントの町を知る
- 2 コリントの教会について理解する
- 3 『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
- 4 『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 1 『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。
  - 2 割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。
  - 3 受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 『第二コリント書』概説
- 第3回 コリントの町
- 第4回 コリントの教会
- 第5回 パウロとコリントの信徒
- 第6回 フィールドワーク
- 第7回 挨拶と祝福
- 第8回 変更された訪問
- 第9回 真正な奉仕
- 第10回 奉仕の理論と実践
- 第11回 奉仕—古いものと新しいもの
- 第12回 奉仕と死
- 第13回 イエスの命と新しい創造
- 第14回 受講者による発表
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280030N0J
授業名 (Course Title)	日本近代文学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	長沼 光彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『現代日本文学論争史』 平野謙他 未来社 2006
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本近代文学には、様々な作品とともに、その作品の根拠となる文学理念が存在する。作家は作品を創作するとともに、自己の文学理念を公にし、その根拠を世に問うたのである。これら文学理念を、実際の作品と照らし合わせながら、整理し検証する。

文学研究は、作品の分析が基礎である。文学理念それ自体の理解を深めるとともに、それらが作品にどのように投影されているか検証し、分析力を深める。

また、それぞれの文学理念は、同時期の思想や文化的文脈を背景に持っている。ひとつの文学理念を単独に理解するだけでなく、相互に関連づけながら考察したい。そのために、近代日本で行われた文学論争も取り上げ、論点を整理する。さらには、日本文学近代文学史における意義も見直してみたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・日本近代文学の様々な文学理念に対する理解を深める。
- ・様々な文学理念を生み出した、日本近代文学の歴史的背景を理解する。
- ・文学理念の変遷を整理し、自身の研究に応用する。
- ・文学理念の作品に対する投影を検証しながら、作品分析力を鍛える。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。
- ・受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
図書館などを利用し、資料を検索する。
- ・資料の該当する箇所を読解し、資料の背景知識を調べる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、ゼミでの質疑応答 (20%)、ゼミ発表 (20%)、学期末のレポート (30%) により行う。研究能力を養うためのゼミであるため、出席することを重視する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 準備と方法について
- 第2回 文学理念と作品との関連① (私小説論争)
- 第3回 文学理念と作品との関連② (社会主義リアリズム論争)
- 第4回 文学理念と作品との関連③ (芸術大衆化論争)
- 第5回 文学理念と時代背景との関連① (「宣言一つ」をめぐる論争)
- 第6回 文学理念と時代背景との関連② (目的意識論争)
- 第7回 文学理念と時代背景との関連③ (日本浪漫派論争)
- 第8回 文学理念と海外文学との関連① (シェストフ論争)
- 第9回 文学理念と海外文学との関連② (思想と実生活論争)
- 第10回 文学理念と海外文学との関連③
- 第11回 文学理念と表現の関連① (「小説の筋」論争)
- 第12回 文学理念と表現の関連② (新感覚派論争)
- 第13回 文学理念と表現の関連③ (散文芸術論争)
- 第14回 文学理念と日本文学史
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	280032N0J
授業名 (Course Title)	アラブ・イスラーム文化特論
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鷲見 朗子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	特に使用しない。
参考文献 (References)	参考文献は適宜、授業で紹介する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

アラブ文化とイスラーム文化についての知識と理解を深めることを目的とする。まず「アラブ」とは何か、「イスラーム」とは何かという定義付けの検証から行う。次にアラブとイスラームの人々の生活、宗教、歴史、芸術、文学にかかわる代表的な文化的要素（例：コーラン、アラビア書道、アルハンブラ宮殿）をとりあげて検討し、それらにまつわる歴史的背景や地域の独自性なども明らかにしていく。また、文献を読むことに加えて、映像や実物を目にする中で、その文化において人々が実際にどのような生活をしているのかを考察する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. アラブ・イスラーム文化の共通性
2. アラブ・イスラーム文化の多様性
3. 文献（日本語と英語）講読とそれに関する発表

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
2. 受講生は各授業で決められたテーマに関する日本語と英語の専門書や論文を事前に読み、発表を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 文献読解
2. 1. の要約および発表
3. 発表のレジュメ作成
4. 発表のパワーポイント資料作成

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (10%)、発表 (30%)、学期末レポート (60%) により評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 アラブとイスラームの定義の検証
- 第2回 イスラームの興り
- 第3回 イスラームの発展
- 第4回 コーランとは
- 第5回 コーランの内容
- 第6回 アラブ文学 (詩)
- 第7回 アラブ文学 (散文)
- 第8回 アラビア書道
- 第9回 アルハンブラ宮殿
- 第10回 イスラーム女性信者のヴェール
- 第11回 アラブのメディア (新聞)
- 第12回 アラブのメディア (テレビ・ラジオ)
- 第13回 もてなしの心
- 第14回 結婚と離婚
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。  
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280034N0J
授業名 (Course Title)	日本語学特論 古代和歌、俳句歳時記を読む
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	プリントを配布する
参考文献 (References)	『新編国歌大観』 角川書店 『合本俳句歳時記』 角川書店 『日本国語大辞典』 小学館
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

私家集を中心に古代和歌をいくつか選び、語学的な視点から分析し、各作品の解釈・鑑賞に取り組む。また後半は、俳句歳時記から任意の作品を選び、同じく分析・研究を進める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 古代和歌の語法・語彙について研究する
2. 発句・俳句の語法・語彙について研究する
3. 和歌・俳句に関する研究文献を読む
4. 和歌・俳句に関する研究レポートを書く

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生の発表を求める

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に指示された調査課題の準備、授業で配布された文献資料の素読

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度および取り組み姿勢の評点40%、総合評価試験の成績60%で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入
- 第2回 私家集を読む - 平安時代
- 第3回 私家集を読む - 鎌倉時代
- 第4回 私家集を読む - 室町時代
- 第5回 和歌に関する研究論文を読む
- 第6回 私家集を読む - 江戸時代前期
- 第7回 私家集を読む - 江戸時代後期
- 第8回 近代歌人の歌集を読む
- 第9回 俳句歳時記を読む - 新年の部
- 第10回 俳句歳時記を読む - 春の部
- 第11回 俳句・発句に関する研究論文を読む
- 第12回 俳句歳時記を読む - 夏の部
- 第13回 俳句歳時記を読む - 秋の部
- 第14回 俳句歳時記を読む - 冬の部
- 第15回 総括

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合があります

講義コード (Course Code)	280037N0J
授 業 名 (Course Title)	日本伝統文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	鳥居本 幸代
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	プリントを配布する
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本の文化は近隣諸国の影響を強く受け、それを咀嚼して固有のものに変化させて生じたものであるといえる。とりわけ、平安時代は奈良時代以来の大陸文化を礎に絵画、文学、服飾にいたるまで唐風から和風に変化した時期である。絵画においては倭絵、文学においては仮名文学が愛好され、いま尚、現代人が魅了される『源氏物語』も生み出された。和風文化の第一歩である平安朝の伝統文化について、貴族ファッションを中心に絵画資料、文献資料などをとくに講述する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・ 絵画資料から伝統文化を理解する。
- ・ 文献資料から伝統文化を理解する。
- ・ フィールド・ワークによる伝統文化の理解。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

基本的には講義形式をとるが、ゼミ形式となることもある。

- ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
与えられた課題について、講義日に発表する。
- ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、出席率・授業参加度 (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 序論 平安時代の背景
- 第2回 平安貴族の生活を支配した陰陽道
- 第3回 平安京の都市計画
- 第4回 王朝の住まい
- 第5回 平安貴族の食生活
- 第6回 平安朝のお菓子を試食する
- 第7回 化粧と髪からみる平安文化
- 第8回 平安時代の衣生活環境
- 第9回 平安朝ファッションの構成 I 男性
- 第10回 平安朝ファッションの構成 II 女性
- 第11回 平安朝ファッション着装体験
- 第12回 平安朝の色彩感覚
- 第13回 年中行事にみる平安文化
- 第14回 平安朝文学からみる女文化と男文化
- 第15回 雅楽演奏を体験する

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280046N0J
授 業 名 (Course Title)	出版・情報文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	鎌田 均
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

文字による記録、出版を通して、また近年ではインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、それを読み、利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸とし、歴史の変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。

- 1) 文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質とそれを読解し、受容する人との関係。
- 2) 情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。  
これらのテーマに関しての研究動向、研究方法について理解を深めるとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報、メディアリテラシー教育における実践面も検討する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 情報の持つ性質について理解する。
- 2) 情報が発信されるメディアについて理解する。
- 3) 情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。

- ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
文献を読み、発表の準備をする。
- ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

期末レポート (50%)、授業中の発表 (25%)、授業中のディスカッションへの参加 (25%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 「リテラシー」に関する諸理論と動向
- 第2回 「情報」に関する諸理論と動向
- 第3回 「メディア」に関する諸理論と動向
- 第4回 文字情報の歴史の変遷と人との関わり (書物と読書の歴史)
- 第5回 記録、文書の読解、利用における人の行動
- 第6回 出版メディアと出版物の読解
- 第7回 批判的思考力と情報の読解
- 第8回 情報リテラシー教育の理論と動向 (図書館と情報リテラシー教育)
- 第9回 メディアリテラシー教育の理論と動向
- 第10回 国語科教育におけるメディアリテラシー教育の実践
- 第11回 文化情報資源
- 第12回 図書館とリテラシーの関係
- 第13回 情報、メディアと権利、倫理の問題 (著作権など)
- 第14回 レポート課題について議論
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280047N0J
授 業 名 (Course Title)	図書館情報文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	岩崎 れい
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	プリントを配布
参考文献 (References)	授業中に指示
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かさない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代はその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1) 子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2) 児童書と子どもの発達、(3) 子どもの読書支援のための理論、(4) 現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 子どもを取り巻くメディア環境を知る。
2. 児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。
3. 各自のテーマとの接点を見つける。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせて実施する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 指定された文献を読み、レジュメを作成する。
  2. 自分でも関心のある文献を探索し、読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 序 子どもをとりまくメディアの現状  
1. 子どもの読書とメディア  
1) 子どもの読書の現状と図書館の果たす役割: 講義
- 第2回 2) 子どもの読書の現状と課題: 文献解読と発表
- 第3回 3) 子どもの読書の現状と課題: 討論
- 第4回 2. 児童書と子どもの発達  
1) 児童書と子どもの発達に関する概説: 講義
- 第5回 2) 児童書と子どもの発達との関係: 文献解読と発表
- 第6回 3) 児童書と子どもの発達との関係: 討論
- 第7回 3. 子どもへの読書支援  
1) 子どもへの読書支援の動向: 講義
- 第8回 2) 現代における読書支援の傾向と課題: 調査と発表
- 第9回 3) 現代における読書支援の傾向と課題: 討論
- 第10回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題: 文献解読と討論  
1) テレビゲームをめぐる議論
- 第11回 2) ネット依存と携帯依存
- 第12回 3) インターネットといじめ・犯罪
- 第13回 4) フィルタリングと知的自由
- 第14回 5. まとめ  
1) 内容の振り返りと発表
- 第15回 2) 討論

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業に参加することを前提条件とする。

講義コード (Course Code)	280048N0J
授 業 名 (Course Title)	オープンソース特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	吉田 智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『ネットを支えるオープンソース』 まつもとゆきひろ 角川学芸出版 2014
参考文献 (References)	『オープンソースの逆襲』 吉田智子 出版文化社 2007
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

現在の情報化社会における「オープンソース・ソフトウェア」の存在意義や、この開発手法を応用したプロジェクトや現象である「オープンソース現象」について、文化としての重要性を中心にいろいろな側面から考察する。さらに、「オープンソース・ハードウェア」についての知識も深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. オープンソース・ソフトウェア (ハードウェア含) およびオープンソース現象を考察する。
2. オープンソース・ソフトウェア (ハードウェア含) の開発において重要な「コミュニティ」という概念に対して、どのように参加・貢献の仕方があるかを知る。
3. 現在の情報化社会がオープンソースなくしては存在しないことや、今後の重要性を考える。
4. オープンソースを活用したシステム構築やビジネスを展開する仕組みも学ぶ。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. オープンソース関連の書籍、論文を読む。
2. 具体的に、オープンソース・ソフトウェアの各種開発プロジェクトを調べる。
3. オープンソース現象としての「ウィキペディア」や「青空文庫」の存在意味を考える。
4. 各種のオープンソース・ソフトウェア (あるいは、ハードウェア) を実際に利用して評価する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (40%)、学期末レポートおよび発表点 (60%) の総合点で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オープンソース・ソフトウェアとオープンソース現象とは。さらに、オープンソース・ハードウェアと Makers ムーブメントとは
- 第2回 ネット上のコミュニティへの参加、貢献の意味
- 第3回 集合知の可能性と限界 (1) 導入
- 第4回 集合知の可能性と限界 (2) 応用
- 第5回 オープンソースを活用したシステム構築例 (1) 導入
- 第6回 オープンソースを活用したシステム構築例 (2) 応用
- 第7回 オープンソースのビジネス展開の仕組み (1) 導入
- 第8回 オープンソースのビジネス展開の仕組み (2) 応用
- 第9回 オープンソースの教育利用の実例 (1) 導入
- 第10回 オープンソースの教育利用の実例 (2) 応用
- 第11回 ネットの構造上の特性 ～ソースコードとデータベース～
- 第12回 情報文化とオープンソースの関係を考える (1) 導入
- 第13回 情報文化とオープンソースの関係を考える (2) 応用
- 第14回 ネット新時代への展望 (1) 導入
- 第15回 ネット新時代への展望 (2) 応用

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280049N0J
授業名 (Course Title)	国語教育特論 古典教材研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	大修館書店 高校教科書『国語総合 古典編』(国総 312)
参考文献 (References)	大修館書店 高校教科書『国語総合 古典編』(国総 312) 教師用指導書
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

国語教育の最近の動向として、PISA型読解力の育成と、古典教育の重視がある。この科目では、古典教育に焦点をあて、古典教材の研究法や授業構成法について、具体的な実践研究にふれながら、考察する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習指導要領 (中等教育) 改訂の経緯について、理解・研究を深める。
2. 古典教育の系統的な進め方について、考える。
3. 古典教材の研究法について、具体例に即して考える。
4. 古典教材の原典にあたり、古注で読んでみる。
5. さまざまな古典学習の実践例にふれ、古典教育の授業計画・学習指導計画を立案し、実践する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 学習指導要領の歴史を振り返り、現行指導要領の方針に関する解説や研究論文を読む。
  2. 古典の授業実践や教材研究に関する研究発表や論文に触れる。
  3. 教科書掲載の教材をいくつか取りあげ、個々の教材の研究法について、具体的に考える。
  4. 学習指導案を作成し、研究授業を実施する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
事前に指示された調査課題の準備、配布された文献の素読、学習指導案の作成と研究模擬授業の準備
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度および取り組み姿勢40%、学習指導案作成および研究授業の成績60%で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入授業—学習指導要領に即して
- 第2回 国語教育の動向
- 第3回 入門期の古文教材について
- 第4回 徒然草研究
- 第5回 枕草子研究
- 第6回 伊勢物語研究
- 第7回 古代和歌研究
- 第8回 平家物語研究
- 第9回 奥の細道研究
- 第10回 入門期の漢文教材について
- 第11回 漢詩研究 I 「五言詩」
- 第12回 漢詩研究 II 「七言詩」
- 第13回 史記・十八史略研究
- 第14回 諸子百家研究
- 第15回 学習指導案作成および研究授業実施

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280061N0J
授業名 (Course Title)	インターンシップ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	岩崎 れい、堀 勝博、吉田 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また文化機関や日本語教育施設での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごしてみることは何にもものにも換えがたい経験になる。このインターンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとする。

図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展覧のための技術に触れてみる。

海外の日本語教育施設に赴き、日本語教育の現状を理解するとともに現地教員の補助や研究授業を体験すること。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関や香港の日本語教育施設を予定している。

事前・事後指導にも必ず出席すること。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 基本的な知識・技術を身につけておく。
2. インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

インターンシップ先の評価および体験したインターンシップについてのレポートによって評価する。

講義コード (Course Code)	280110N0J
授業名 (Course Title)	芸術史学演習 美術史学の方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	吉田 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	ウード・クルターマン著 勝 國興・高阪一治訳『美術史学の歴史』中央公論美術出版社 1996年 その他適宜紹介する
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

美術作品の研究のために、美術史学は様々なアプローチの方法を蓄積してきた。これから美術作品の研究に取り組むために、具体的な論文を通して方法論を学ぶ。あわせて、美術史研究に必要な外国語読解能力の向上も目指す。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・美術史学の重要な論文のいくつか (欧文) を読み、そこで使われている方法論を考察する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・毎回相当の分量を担当し、レジュメを作成して頂くことを前提に、議論を通して理解を深める。  
・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
課題となっている論文を読み、担当者はレジュメを作成する。  
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度50%、発表の成績50%で評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 イントロダクション  
第2回 文献講読 列伝  
第3回 文献講読 アカデミー  
第4回 文献講読 ラオコオン論争  
第5回 文献講読 ヴィンケルマン  
第6回 文献講読 ゲーテ  
第7回 文献講読 ロマン主義  
第8回 文献講読 ベルリン学派  
第9回 文献講読 ブルクハルト  
第10回 文献講読 ウィーン学派  
第11回 文献講読 表現主義  
第12回 文献講読 イコノロジー  
第13回 文献講読 ゴンブリッチなど  
第14回 文献講読 アラスなど  
第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280115N0J
授業名 (Course Title)	日本語学演習 国語史の諸問題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	山口明穂他『日本語の歴史』(東京大学出版会) 1997年 ISBN 4-13-082004-4
参考文献 (References)	授業中にその都度指示する
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

さまざまな文献を読み、国語史の諸問題について、探求する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 国語史を概観し、各時代ごとの問題点を整理する  
2. テキストを読み、そこからさまざまな研究課題を見出す  
3. 関連する資料や論文を読み、理解・研究を深める

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 文献を講読する  
2. 文献に記載されている出典や用例について、解釈を行う  
・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
事前に指示された調査課題の準備、教科書の素読  
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に参加する意欲・態度の評価点40%、最終試験の成績60%で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 導入  
第2回 奈良時代の音韻  
第3回 奈良時代の文字  
第4回 奈良時代の語法  
第5回 奈良時代の語彙  
第6回 平安時代の文字  
第7回 平安時代の音韻  
第8回 平安時代の語法  
第9回 平安時代の漢文訓読語  
第10回 鎌倉・室町時代の音韻・文字  
第11回 鎌倉・室町時代の語彙・語法  
第12回 江戸時代前期  
第13回 江戸時代後期  
第14回 明治時代以降  
第15回 最終試験とまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合があります

講義コード (Course Code)	280116N0J
授業名 (Course Title)	インターネット文化論演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	吉田 智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文の作成に向けて研究テーマを選択し、研究の方向性を見つけ、その研究を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

研究テーマに関する理解を深めると同時に、問題意識を高める。関連する文献の読解に関しては、批判的視点を持って読むように心がける。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

個別指導を行う。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (40%) とレポート～論文の原案～ (60%) により、評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 各種の研究方法について
- 第2回 自分の研究テーマと研究方法の関係について
- 第3回 自分の研究テーマに関する資料の収集 (1) ～図書館の活用～
- 第4回 自分の研究テーマに関する資料の収集 (2) ～人的資源の活用～
- 第5回 集めた資料の読解と批判的閲覧 (1) ～デジタル情報の活用～
- 第6回 集めた資料の読解と批判的閲覧 (2) ～人的資源の活用～
- 第7回 研究方法の決定と先行研究との差別化
- 第8回 研究計画の作成 (1) 導入
- 第9回 研究計画の作成 (2) 活用
- 第10回 研究計画に基づく研究活動の実施 (1) 導入
- 第11回 研究計画に基づく研究活動の実施 (2) 活用
- 第12回 論文の作成 (1) 導入
- 第13回 論文の作成 (2) 活用
- 第14回 作成中の論文のレビュー (1) 導入
- 第15回 作成中の論文のレビュー (2) 活用

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280117N0J
授業名 (Course Title)	読書支援プログラム演習 読書プログラムの現状と課題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	岩崎 れい
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	プリントを配布
参考文献 (References)	授業中に紹介
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているのかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。
2. 図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
3. 国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
4. 子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
2. 各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
1. 法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。  
2. 文献をできるだけ多く読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点及び授業中の課題発表50%、学期末レポート50%で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第2回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (2) 学校での取り組み
- 第3回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (3) 社会の取り組み
- 第4回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第5回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第6回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (2) ファミリーリテラシープログラム
- 第7回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (3) NCLB法との関わり
- 第8回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第9回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第10回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (2) ブックスタート
- 第11回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (3) 学力向上政策との関わり
- 第12回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第13回 図書館における読書支援プログラムの現状と課題
- 第14回 国語科教育と読書支援の関連とその課題
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード (Course Code)	280118N0J
授業名 (Course Title)	アラブ・イスラーム文化史演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鷲見 朗子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業で必要な資料を配布する。
参考文献 (References)	参考文献は適宜、授業で提示する。
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

今年度はイスラームの聖典コーランについての理解を深めることを目標とする。コーランは神が西暦7世紀にアラビア語で人類に下した啓示をそのまま書きとめたものであると信じられている。また、現在私たちの手元にあるコーランは、預言者ムハンマドが受けた啓示が人々によって記憶され、後に第3代カリフ、ウスマーンのときに集録されたものである。関連文献資料を参考にしながら、コーランの幾章かを日本語訳で読み解いていく。それらによって、ムスリムの生活と思考の根幹となっているコーラン的規範を探求する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 歴史的背景
2. コーランの構成
3. コーランの内容

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. テキスト読解
  2. 文献読解 (日本語・英語)
  3. 発表と討論
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
1. 文献読解
  2. 読解した文献の要約
  3. 発表のレジュメ作成
  4. 発表のパワーポイント資料作成
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度10%、発表30%、学期末レポート60%により評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 時代背景
- 第3回 預言者ムハンマド
- 第4回 コーランの構成
- 第5回 神観念
- 第6回 神の唯一性
- 第7回 天地創造
- 第8回 アダムの創造と楽園追放
- 第9回 人類の歴史と神の支配
- 第10回 終末
- 第11回 天国と地獄
- 第12回 礼拝・断食
- 第13回 巡礼・タブー
- 第14回 婚姻・離婚
- 第15回 相続・売買

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。  
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280119N0J
授業名 (Course Title)	日中言語交流史演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	朱 鳳
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業毎にプリントを配布する。
参考文献 (References)	『近代日中学術用語の形成と伝播 地理学用語を中心に』 荒川清秀 白帝社 1997年 『近代日中新語の創出と交流』 朱京偉 白帝社 2003年 『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』 朱鳳 白帝社 2009年
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 和英字典と華英字典の語彙比較
2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
  2. 関連する学会、研究会に参加する。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
50時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日中言語交流における宣教師の役割
- 第2回 宣教師の翻訳と漢語の役割
- 第3回 ロバート・モリソン (Robert Morrison) と「華英・英華字典」(1815-1823)
- 第4回 モリソン「華英・英華字典」の日本への影響－唐通事の場合
- 第5回 モリソン「華英・英華字典」の日本への影響－蘭通詞の場合
- 第6回 ロブシャイト (W. Lobscheid) と『英華字典』(1866-1869)
- 第7回 発表－日本の西書翻訳について
- 第8回 福沢諭吉の『増訂華英通話』(1860)
- 第9回 堀達之助と『英和对訳袖珍辞書』(1862)
- 第10回 中村敬宇と『英華和訳字典』(1879)
- 第11回 発表－幕末明治期の日本人と洋学
- 第12回 英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察
- 第13回 英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察
- 第14回 発表－宣教師と洋学者の交流について
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280120N0J
授 業 名 (Course Title)	日本文学演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	長沼 光彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 1991 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 2003 『小説の方法』 真銅正宏 萌書房 2007 『ハリウッド白熱教室』 ドリユー・キャスパー 大和書房 2015
備 考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本文学には様々な研究方法がある。その全てを自分の研究に適用する必要はないが、研究の前提として知っておかなければならない。それらの方法論の可能性と限界を知ったうえで、自分の研究方法を選ばなければならない。小説であるにせよ詩であるにせよ、まずは本文の表現に対する精細な分析と、読解を成り立たせる語彙や文化背景への理解が必要となる。これら研究の方法論と文化理解を身につけることを目標とする。

また研究する上では、人が本を読む行為の意味を考える必要がある。一冊の本を読むためにも人は、語彙力、文化的な知識、文脈理解、虚構世界の再構成など、様々な能力を発揮している。文学とは、そのような人間の総合的な活動により享受されるものである。このような読書行為の理解を深めることを第二の目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・日本文学研究の方法論を理解する。
- ・テキストの精細な分析力を養成する。
- ・語彙や文化など基礎的知識を習得する。
- ・読書行為と作品との関連を理解する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。

受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- ・演習で用いるテキストを読解し、専門用語について調べる。
- ・演習で取り上げる作品を読解し、分析した内容をまとめる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、ゼミでの質疑応答 (20%)、ゼミ発表 (20%)、学期末のレポート (30%) により総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日本文学研究のための基礎的な手順
- 第2回 論文、文献、基礎資料の調査
- 第3回 本文校訂
- 第4回 テキスト論
- 第5回 作者とテキスト
- 第6回 語り手論
- 第7回 テキストの多声的特徴
- 第8回 テキストの構造
- 第9回 読者論
- 第10回 読書行為の分析
- 第11回 比較文学論
- 第12回 文化記号論とテキスト
- 第13回 文化交流と文学
- 第14回 文学と様々な文脈
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280123N0J
授 業 名 (Course Title)	日本伝統文化演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	鳥居本 幸代
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『平安京のくらし』 鳥居本幸代 春秋社 2014年 『精進料理と日本人』 鳥居本幸代 春秋社 2006年
備 考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

衣、食、住の視点から、京都をキーワードにした日本の伝統文化について探求する。衣の視点では大袖が発達した平安朝から、小袖中心と変貌した江戸時代にいたる変遷をたどる。食の視点からは、現代の和食が確立した江戸時代の食生活までの経緯を探る。住の視点においては、平安朝から町屋が確立した江戸時代の住生活までを概観し、衣との関わりについても明らかにする。これらを通して、修士論文のテーマを選択する方向へ、研究を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1 時代背景の理解
- 2 文献資料および、絵画資料による理解
- 3 体験による理解

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義形式とゼミ形式を併用し、フィールドワークを実施することもある。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業予定に則して、事前に与えられた課題を調べてまとめておく。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は授業参加度 (30%)、授業内での発表 (20%)、学期末レポート (50%) に基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日本の伝統文化について、総合的に考えてみる
- 第2回 平安朝ファッションと有職故実
- 第3回 平安朝ファッションと有職文様
- 第4回 小袖の発達と染織文化
- 第5回 小袖雛型本にみる流行の発信
- 第6回 衣にまつわる伝統行事
- 第7回 食文化の変遷を概観する
- 第8回 精進料理とは
- 第9回 京料理の発達と京都の食文化
- 第10回 茶懐石について
- 第11回 食にまつわる伝統行事
- 第12回 寝殿造にみる平安朝の住環境
- 第13回 茶室建築と茶の湯
- 第14回 名物裂について
- 第15回 住環境の変化とインテリア

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	280129N0J
授業名 (Course Title)	聖書学演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中里 郁子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『パウロの福音』 カルロ マリア マルティニー 女子パウロ会 2009 『聖書 旧約聖書続編つき (共同訳)』 日本聖書協会 2009
参考文献 (References)	授業中に紹介する
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

新約聖書の書簡の著者であるパウロの生涯と思想を知り、パウロの異邦人への宣教と初期キリスト教への理解を深める。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1 パウロの生涯を知る
- 2 パウロの異邦人への宣教と初期の教会について学ぶ
- 3 パウロの思想を理解する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 1 テキストに関連する「パウロ書簡」を読解する
  - 2 「パウロ書簡」の中から一つの書簡を選び、その書簡の書かれた背景とパウロの思想をレポートにまとめて発表する
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
受講者は、テキスト『パウロの福音』を事前に読み、要約をレジュメにまとめて授業に参加する
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 聖パウロについて
- 第3回 パウロ書簡について
- 第4回 パウロの回心
- 第5回 パウロの受難
- 第6回 パウロの変容
- 第7回 教会の神秘
- 第8回 教会共同体への愛
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 苦難と慰め
- 第11回 不法の神秘
- 第12回 十字架の言葉
- 第13回 和解の奉仕職
- 第14回 受講者による発表
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280146N0J
授業名 (Course Title)	出版・情報文化演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鎌田 均
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できるリテラシー能力にみる、文字情報を中心とした様々な書籍、文書、記録などの情報源とそれを読解し、利用する人との関わりについての研究法を学ぶ。「出版・情報文化特論」で検討したテーマの内容、研究動向をもとにして、個別の研究課題を見つけ、小論文を完成させ発表することで、文字・活字情報とそれについてのリテラシーに関わる諸分野における研究方法を学ぶとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報リテラシー教育における実践方法も検討する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

情報と人との関わり、メディア、情報リテラシーに関係する分野についての研究動向を理解し、研究方法について実践する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 文献講読、ディスカッションをもとに個別のテーマを同定し、研究課題を設定し、研究方法について実践的に学ぶ。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
指定された文献を講読するとともに各自のテーマに関連する文献を検索し、講読、発表の準備をする。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

小論文 (60%)、授業への参加 (40%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業内容と授業の進め方についての説明
- 第2回 文字表現と文化：文献講読とディスカッション
- 第3回 インターネットにおける情報とその理解：文献講読とディスカッション
- 第4回 出版、活字メディアとその読解：文献講読とディスカッション
- 第5回 メディア、情報リテラシー教育の実践と研究 (国語科教育への導入)：文献講読とディスカッション
- 第6回 情報、メディアと現代社会：文献講読とディスカッション
- 第7回 研究テーマの探求
- 第8回 研究課題の設定
- 第9回 研究方法
- 第10回 データ、資料収集法
- 第11回 データ、資料の分析と議論の展開
- 第12回 引用、参考文献の確認
- 第13回 個別発表とディスカッション
- 第14回 フィードバックの小論文への反映
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280151N0J
授業名 (Course Title)	漢文学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	朱 鳳
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業毎にプリントを配布する。
参考文献 (References)	『漢文入門』 小川環樹, 西田太一郎著 岩波書店 1957
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

- 漢文の基本的な読み方を把握する。
- 句読及び訓点法の基本を把握する。
- 漢文の内容及びその歴史背景を理解する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

授業ごとに短い漢文数編を読む。漢文の文法を理解した上で、日本語における独特な読み下し法もマスターする。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

漢文を読むことが基本である。漢文を熟読した上、文法や、日本語における読み方などを学習していく。漢文の内容を深く解読でき、訓点の付け方をマスターすることを最終目標とする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- 指示に従って予習復習する。
  - 授業の内容及び関連する論文を数編読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
50時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |      |            |             |
|------|------------|-------------|
| 第1回  | イントロダクション  |             |
| 第2回  | 漢文とは何か     |             |
| 第3回  | 漢文文法概説     |             |
| 第4回  | 『論語』の数編を読む | 漢文の助詞について   |
| 第5回  | 『説苑』の数編を読む | 漢文の否定形について  |
| 第6回  | 『説苑』の数編を読む | 漢文の仮定形について  |
| 第7回  | 『論語』の数編を読む | 漢文の疑問形について  |
| 第8回  | 発表         |             |
| 第9回  | 『莊子』の数編を読む | 漢文の反語形について  |
| 第10回 | 『莊子』の数編を読む | 漢文の許可表現について |
| 第11回 | 『孟子』の数編を読む | 漢文の使役形について  |
| 第12回 | 『孟子』の数編を読む | 漢文の比較について   |
| 第13回 | 『史記』の数編を読む | 漢文の受身形について  |
| 第14回 | 『史記』の数編を読む | 漢文の命令形について  |
| 第15回 | まとめ        |             |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280152N0J
授業名 (Course Title)	西洋美術特論 美術史と図版の問題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	吉田 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	Ingrid R. Vermeulen <i>Picturing Art History</i> , Amsterdam University Press, 2010
参考文献 (References)	適宜紹介する
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

美術史という研究分野を支える図版について、英語文献を読みながら考察する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 美術史に関する英語文献を精読する
- 作品の複製という問題について考察を深める

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジюмеをもとに議論する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

課題箇所を読み、担当者はレジюмеを作成する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 50%・課題の成果 50%とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                       |
| 第2回  | 文献講読と議論 (1) 1章1節                |
| 第3回  | 文献講読と議論 (2) 1章2節                |
| 第4回  | 文献講読と議論 (3) 1章3節                |
| 第5回  | 文献講読と議論 (4) 2章1節                |
| 第6回  | 文献講読と議論 (5) 2章2節                |
| 第7回  | 文献講読と議論 (6) 2章3節                |
| 第8回  | 文献講読と議論 (7) 2章4節                |
| 第9回  | 文献講読と議論 (8) 3章1節                |
| 第10回 | 文献講読と議論 (9) 3章2節                |
| 第11回 | 文献講読と議論 (10) 3章3節               |
| 第12回 | 文献講読と議論 (11) 3章4節               |
| 第13回 | 受講者による発表 (各自の研究における図版の位置づけについて) |
| 第14回 | 受講者による発表 (現代の複製図版について)          |
| 第15回 | まとめ                             |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280153N0J
授業名 (Course Title)	スピーチ・コミュニケーション 演習 日本語の話しことば教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	平野 美保
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『教育学研究の方法』 清水康敬他編著 教育工学会監修 ミネルヴァ書房 2012 『プロセス・エジュケーション』 津村 俊充 金子書房 2012 『現代日本のコミュニケーション研究』 日本コミュニケーション学会 三修社 2011 『教育実践論文としての教育学研究の まとめ方』 吉崎静夫・村川雅弘編著 ミネルヴァ書房 2016
備考 (Note)	選択必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語の話しことば教育 (支援) に関する内容と研究方法について把握する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

話しことばに関する教育について把握するとともに、研究方法について理解し、研究の方向性を固める。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 前半は、話しことば教育に関する内容 (学校教育、生涯学習、一般書) についてまとめ、話しことば教育の内容を把握するとともに、問題点を検討する。
- 後半は、話しことば教育に関する研究に参考になる教育学における研究方法について把握する。
- 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- 毎回の課題を準備する。
- 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
50時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODクダクシヨン
- 第2回 学校教育における話しことば教育 (総合的な学習)
- 第3回 学校教育における話しことば教育 (指導と言語環境)
- 第4回 話しことばに関する生涯学習 (情報収集と分類)
- 第5回 話しことばに関する生涯学習 (課題の検討と企画)
- 第6回 話しことばに関する一般書の検討 (情報収集と分類)
- 第7回 話しことばに関する一般書の検討 (討議)
- 第8回 話しことば教育に関する研究方法 (教育学における方法論)
- 第9回 話しことば教育に関する研究方法 (教育学における研究方法)
- 第10回 話しことば教育に関する研究方法 (質的研究)
- 第11回 話しことば教育に関する研究方法 (質的調査法)
- 第12回 話しことば教育に関する研究方法 (質的データの取得方法)
- 第13回 話しことば教育に関する研究方法 (教育実践研究の特徴)
- 第14回 話しことば教育に関する研究方法 (教育実践論文のまとめ方)
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークに行く場合がある。

講義コード (Course Code)	280154N0J
授業名 (Course Title)	スピーチ・コミュニケーション 特論 日本語の話しことばとその教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	平野 美保
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『現代日本のコミュニケーション研究』 日本コミュニケーション学会編 三修 社 2011 『非言語行動の心理学』 V.P.リッチモ ンド・J.C.マクロスキー 北大路書房 2006 『日本語の発声レッスン』 川和孝 新 水社 1981 『音声言語指導大事典』 高橋俊三 (編) 明治図書出版 1990
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語の話しことばやその教育に関連する内容を理解するとともに、話しことばに関して深く理解する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 日本語の話しことばやその教育に関する文献を読むことによって、関連の内容を理解する。
- 話しことばに関する技能向上に努めることによって、話しことばに関する理解を深める。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 文献を読み、担当者が作成したレジュメをもとに議論する。
- 話しことばに関する技能向上に努めることを通して、理論と実践との関連について考察する。
- 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- 毎回の課題を準備する。
- 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
50時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 話しことばの基礎 (呼吸法、発声・発音練習)
- 第2回 文献講読 (話し方の基本)
- 第3回 文献講読 (人間関係と話し方)、話しことばの基礎練習 (正確な発音)
- 第4回 文献講読 (聞き方の基本)、話しことばの基礎練習 (正確な発音)
- 第5回 文献講読 (音声表現)、話しことばの基礎練習 (滑舌練習)
- 第6回 文献講読 (音声言語指導の史的展開)、話しことばの基礎練習 (「外郎売」意味の確認と練習)
- 第7回 文献講読 (「話しことば」の社会心理)、話しことばの基礎練習 (「外郎売」練習)
- 第8回 文献講読 (朗読、詩の選定と練習)
- 第9回 文献講読 (群読 朗読 詩の本番)
- 第10回 文献講読 (話しことば教育の現状と課題<基礎>)
- 第11回 文献講読 (話しことば教育の現状と課題<応用>)
- 第12回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<初等教育>)
- 第13回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<中等教育>)
- 第14回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<高等教育>)
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークに行く場合がある。

講義コード (Course Code)	280161A0J～280161I0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅰ 研究テーマ・研究計画を決定する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。  
 ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
 1. 文献読解  
 2. 読解した文献の整理  
 ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第2回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第3回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第4回 修士論文における論文テーマの設定
- 第5回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第6回 研究の方法について (文献調査法)
- 第7回 研究の方法について (アンケート調査法)
- 第8回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
- 第9回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第10回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)
- 第11回 先行研究を知ることの意義
- 第12回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第13回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第14回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第15回 研究倫理について－剽窃のことなど

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280162A0J～280162I0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅱ 研究の構想を決定する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。  
 ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
 1. 文献読解  
 2. 読解した文献の整理  
 ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 論文テーマと論文作成の手順について
- 第2回 論文の構成
- 第3回 序論の役割
- 第4回 論文の体裁
- 第5回 先行研究についてまとめる
- 第6回 先行研究について発表する
- 第7回 先行研究について批評する
- 第8回 論文の文章 (文体と表記)
- 第9回 論文の文章 (表記と用語)
- 第10回 論述方法
- 第11回 論述の学術性
- 第12回 論文の注 (注記の原則)
- 第13回 論文の注 (注の形式)
- 第14回 論文の注 (欧文・和文の注)
- 第15回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280163A0J ~ 280163I0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅲ 修士論文を作成する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期)
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

#### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。  
 ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
 論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。  
 ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
 30時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表 (30分…口頭発表25分+質疑5分) の成績によって評価する。

#### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第2回 論文テーマの明確な設定
- 第3回 論文作成の手順の確認
- 第4回 論文構成の確認
- 第5回 先行研究の文献資料収集
- 第6回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第7回 書誌情報の分析
- 第8回 書誌情報の整理
- 第9回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第10回 論証の方法としての客観的論述 (論文の目的の明確化)
- 第11回 論証の方法としての客観的論述 (概念と定義の重要性)
- 第12回 論証の方法としての客観的論述 (概念化の重要性)
- 第13回 論証の方法としての客観的論述 (定義づけ)
- 第14回 論証の方法としての客観的論述 (まとめ)
- 第15回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る

#### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

#### 7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280164A0J ~ 280164L0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅳ 修士論文を完成する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期)
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文を完成し、成果発表を行う。

#### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。  
 ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
 論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。  
 ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
 30時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

#### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第2回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第3回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第4回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第5回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第6回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第7回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第8回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第9回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第10回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第11回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第12回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第13回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第14回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第15回 論文を完成する

#### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

#### 7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	270011N0J
授業名 (Course Title)	行動科学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	廣瀬 直哉
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講1 平成24年度以前入学者必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。したがって、行動科学は、心理学のみならず、社会学、文化人類学、人間工学、生物学など幅広い学問を含む学際的な領域である。本特論では、主に心理学以外の領域における行動の研究について理解を深め、人間の行動を幅広く総合的に捉える視点を養いたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 行動の研究方法の理解
2. 行動の測定および解析法の理解
3. 行動のモデルの理解
4. 行動についての理論の理解

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義および演習形式で授業を進める。受講生は、行動科学に関連したテーマの英語・日本語文献を読み、テーマに関する発表を行うもらう予定である。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

テストは実施せず、授業への参加度・発表 (100%) により評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 行動科学の概要
- 第3回 人間工学  
(第3 - 14回の内容は受講生の関心にに応じて変更するため、参考として、前年度までの例をあげた)
- 第4回 神経科学
- 第5回 社会病理学
- 第6回 神話学
- 第7回 環境学
- 第8回 食行動
- 第9回 遺伝学
- 第10回 行動経済学
- 第11回 メディア学
- 第12回 文化人類学
- 第13回 非線形力学
- 第14回 情報科学
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講生の人数や関心により、授業や課題の内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	270013N0J
授業名 (Course Title)	心理統計学特論 (多変量解析)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	藤島 寛
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『多変量データ解析法』 足立浩平 ナカニシヤ出版 2006 『共分散構造分析[Amos編]』 豊田秀樹 東京図書 2007 『因子分析法第2版』 芝祐順 東京大学出版会 1995
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学における研究対象の中から、多様で多くの変量 (変数) を含むデータの統計的解析法である多変量解析について、その技法の基本的理論と応用的実践的技法を習得する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本特論では、多変量解析の基本としてデータ構造とその表現について習得するとともに、主要な変数を抽出する為の方法として主成分分析、因子分析、項目分析、及び変数間の因果関係を検討する為の方法として重回帰分析、共分散構造分析を習得する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

多変量解析の基本的理論に関する講義とともに、質問紙によって得られたデータを用いた因子分析による質問紙の洗練化、及び変数間の因果関係の分析を実習する。使用ソフトは、主にSPSS、AMOSを使用する。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
講義開始前に準備することはありません。講義が開始されてからは、講義で行ったことを復習してから次の講義に出席すること。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義時に行われる実習の理解内容に基づいた平常点 (100%) により評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 質的研究と量的研究
- 第2回 多変量解析概説、データの構造化・縮約化
- 第3回 データの中心化傾向と散布度
- 第4回 主成分分析
- 第5回 因子分析の基本
- 第6回 直交回転と斜交回転
- 第7回 因子パターン
- 第8回 主因子法と最尤法
- 第9回 因子パターンと因子の信頼性
- 第10回 確認的因子分析
- 第11回 あらためて、因子を構成する質問項目の抽出について - 内的整合性と項目分析
- 第12回 確認的因子分析と探索的因子分析
- 第13回 相関と共分散による因果関係の検討
- 第14回 重回帰分析とパス解析
- 第15回 モデルの決定について

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

講義には、行列式などの数学的知識やSPSSなどの統計ソフトの使用方法を前もって理解しておく必要はありません。

講義コード (Course Code)	270014N0J
授 業 名 (Course Title)	心理統計学特論 (少数例統計) 実験、調査データ分析の基礎を身につける
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	森下 正修
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検討するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、心理・教育分野のデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

教育や臨床などあらゆる心理学分野で必要とされる記述統計全般と、無相関検定、t検定、分散分析、カイ二乗検定といった推測統計について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上で分析を実習してもらいます。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認しておいてください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義内容を踏まえ、自分の研究計画に基づくデータについての統計処理を実施した期末レポートを提出してもらいます。評価は授業参加度 (30%)、レポート (70%) の比率とします。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス、イントロダクション
- 第2回 記述統計① 度数分布、ヒストグラム
- 第3回 記述統計② 代表値、散布度
- 第4回 記述統計③ データの変換、標準化
- 第5回 相関分析① 散布図、ピアソンの積率相関係数、無相関検定
- 第6回 相関分析② 偏相関、順位相関係数
- 第7回 t検定① t検定 (対応のある場合)
- 第8回 t検定② t検定 (対応のない場合)、1サンプルのt検定
- 第9回 分散分析① 1要因分散分析 (対応のない場合)
- 第10回 分散分析② 1要因分散分析 (対応のある場合)
- 第11回 分散分析③ 2要因分散分析 (分析の流れ)
- 第12回 分散分析④ 2要因分散分析 (実施手順)
- 第13回 分散分析⑤ 3要因分散分析
- 第14回 名義尺度データの分析① カイ二乗検定 (変数が1つの場合)
- 第15回 名義尺度データの分析② カイ二乗検定 (クロス集計)、コクランのQ検定

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270015N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学研究法特論 より良い研究計画をたてるために
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	森下 正修
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を整合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとするのが、現代の心理学研究には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討すること、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。学校・教育現場において子どもたちを対象とした調査を行う場合、研究者や教師の主観的な評価のみによらず、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライアントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後では、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、どういった点に留意すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的なポイントについて、子どもから成人まで幅広いサンプルを対象とした研究例をもとに解説してゆきます。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どのような方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
20時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってもらいます。評価の比率は、授業参加度 (30%)、レポート発表 (70%) です。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス、イントロダクション
- 第2回 心理学研究における科学性と倫理
- 第3回 研究計画の基礎① 独立変数と従属変数
- 第4回 研究計画の基礎② 参加者間計画と参加者内計画
- 第5回 研究計画の基礎③ 統制 (参加者間計画)
- 第6回 研究計画の基礎④ 統制 (参加者内計画)
- 第7回 研究・統計の批判的検討① 欠陥・不備の指摘
- 第8回 研究・統計の批判的検討② 構成要素の置換、新規要素の追加
- 第9回 クリティカル・リーディング
- 第10回 研究論文の執筆法
- 第11回 研究実践① 実験法
- 第12回 研究実践② 質問紙調査法
- 第13回 研究実践③ 質的研究法
- 第14回 レポート発表① 先行研究に対する批判的検討の報告
- 第15回 レポート発表② 先行研究に対する批判的検討についての評価

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270032N0J
授 業 名 (Course Title)	発達心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に指示する。
備 考 (Note)	発達・学校心理学専攻は必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

ピアジェ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達過程や個人差について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。

なお、本科目は「DP科目」の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」(以下「基礎」と略す)の1-1~2-2を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。

- ・ 健常の幼児・児童の発達を支援する教員の役割
- ・ 発達に問題がある幼児・児童に対しての、教員による支援的関わり
- ・ 発達の理論を教職場面に適用する意義等

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。発達に問題が生じている子ども、さらに障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害の支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援のさまざまな実践について理解する。

・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

大学院に入学する前に学んだ基礎的な発達理論について、復習をしておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。

・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の文献発表を30%、レポートを70%として、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 発達理論の歴史的変遷①—認知発達の理論を中心に—
- 第2回 発達理論の歴史的変遷②—社会性の発達の理論を中心に—
- 第3回 乳幼児期の重要な発達研究の紹介 (文献講読)
- 第4回 児童期青年期の重要な発達研究の紹介 (文献講読)
- 第5回 発達を支援するとは?—行動の変容に関するアプローチ—
- 第6回 現代社会における発達支援—社会性の発達を支援するアプローチ—
- 第7回 乳幼児期におけるフィールドの中での発達—家庭での子育てをどう支援するか—
- 第8回 児童期におけるフィールドの中での発達—学校現場での問題をどう支援するか—
- 第9回 発達の障害とアセスメント; 自閉症およびその周辺の障害
- 第10回 発達の障害とアセスメント; 精神発達遅滞とダウン症候群
- 第11回 発達の障害とアセスメント; ADHDおよび学習障害
- 第12回 現代社会における諸問題 (虐待など) と精神保健・問題の予防
- 第13回 最近の発達研究の紹介① (文献講読)
- 第14回 最近の発達研究の紹介② (文献講読)
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

順番は変わることもある。

講義コード (Course Code)	270034N0J
授 業 名 (Course Title)	青年心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	上田 恵津子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。

本科目では、青年期における身体と心の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係 (友人関係・恋愛関係)、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 青年期の発達の諸相について理解を深める。
2. 青年期に生じる諸問題を考察する。
3. 青年期に関する各自の問題意識を啓発する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 主として講義形式によるが、演習形式も取り入れる。
2. 講義では、教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。各自ノートをとること。
3. 演習では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
4. ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を進展させる態度が望まれる。

・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
  2. 発表に際しては、論文を精読し、レジュメを作成すること。
- ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート (30%)、発表と討論参加 (50%)、授業態度 (20%) を総合して評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 青年期
- 第2回 身体の発達
- 第3回 性役割の獲得
- 第4回 自我の発達
- 第5回 思考の発達
- 第6回 友人関係
- 第7回 恋愛関係
- 第8回 進路選択
- 第9回 不適応 (摂食障害、不登校)
- 第10回 不適応 (非行、リスク行動)
- 第11回 青年期と日本的自己
- 第12回 論文講読発表と討論 (自己に関して)
- 第13回 論文講読発表と討論 (対人関係に関して)
- 第14回 論文講読発表と討論 (適応・不適応に関して)
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	270051N0J
授業名 (Course Title)	学校心理学特論Ⅰ (学習心理)
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	廣瀬 直哉
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻は必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

学習は、心理学において古くから取り上げられてきた古典的なテーマの一つである。また、近年の学習科学などの新たな領域においても、学習は中心的な概念として取り上げられている。心理学における学習の研究は、知覚＝運動学習、概念学習、社会的学習など幅広い分野で行われているが、本特論では、主に学校教育における学習の過程に焦点を当てる。そして、学習に関する心理学分野での最近の文献をもとにして、学習を支援する学校教育の役割について考察を深めていきたい。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習に対する心理学的アプローチの理解
2. 様々な知識の獲得過程についての理解
3. 学習における協調と学習環境についての理解
4. 学習における動機づけと学習指導についての理解

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義および演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する文献を読んでもらい、議論を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

テストは実施せず、授業への参加度 (100%) により評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学習についての心理学
- 第2回 学習の理論
- 第3回 記憶と知識獲得
- 第4回 言語的知識の獲得
- 第5回 数学的知識の獲得
- 第6回 科学的知識の獲得
- 第7回 問題解決と理解
- 第8回 内発的動機づけ
- 第9回 達成目標理論
- 第10回 個人差と学習
- 第11回 学級集団
- 第12回 教師の役割
- 第13回 状況的学習
- 第14回 学習環境のデザイン
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講生の人数や関心により、授業や課題の内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	270052N0J
授業名 (Course Title)	学校心理学特論Ⅱ (教育理論) スクールカウンセラーの役割と教育理論を知る
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『学校心理学ガイドブック 第3版』 学校心理士資格認定委員会 風間書房 2012 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』 Jean Lave・Etienne Wenger 著, 佐伯 胖 訳 産業図書 1993
参考文献 (References)	『学校心理士の実践:幼稚園・小学校編 (講座「学校心理士—理論と実践」)』 『学校心理士』認定運営機構 北大路書房 2004
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

教育および学校心理学の基礎理論を学び、スクールカウンセラーの役割を知る

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- スクールカウンセラーの実情を知る。
- 教育理論の実践的展開の方法を知る

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

毎回、輪番による発表を行う。ディスカッションを中心に据え、各自の研究テーマと課題との接点を探る。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

0

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート (50%) : 期間中に3回程度

発表、および授業に参加する態度 (50%) : 発表の内容、および授業時の参加意欲を自己評価し点数化する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育とは、学校心理学とは
- 第3回 学校心理学の基礎理論
- 第4回 初等中等教育現場で起こっている問題 (1) 不登校、ひきこもりの問題
- 第5回 初等中等教育現場で起こっている問題 (2) 学習障害など障害の問題
- 第6回 初等中等教育現場で起こっている問題 (3) いじめ、非行等の問題
- 第7回 学校心理士の活動 (1) アセスメント
- 第8回 学校心理士の活動 (2) コンサルテーション
- 第9回 学校心理士の活動 (3) カウンセリング
- 第10回 教師保護者と学校心理士の連携 (1) 教職員との連携
- 第11回 教師保護者と学校心理士の連携 (2) 保護者との連携
- 第12回 教師保護者と学校心理士の連携 (3) 地域・関係機関との連携
- 第13回 学校心理士の倫理 (1) 人権の尊重と責任の保持
- 第14回 学校心理士の倫理 (2) 秘密保持と援助サービスへの介入
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

基本的に出席を重視します。

個々の研究課題における教育理論に関する論文等の文献は積極的に持ち寄ってください。

上記、授業計画は、受講生の状況によって柔軟に対応する予定です。

講義コード (Course Code)	270053N0J
授業名 (Course Title)	教育方法学特論 様々な教育の方法について科学的に理解する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	工藤 哲夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『教育の方法』 井上智義他 樹村房 2007 『ファシリテーション・グラフィック』 堀公俊他 日本経済新聞 2006
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

言語活動と各教科の教育方法の関係について理解を進め、思考力と表現力と対話力の育成を考えた教育の方法について理解する。情報機器の活用を含めた、主体的な学習の方法について、学習者の立場から研究する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・教育方法学についてその研究の方法と意義を理解する。
- ・各教科における言語活動の位置を整理する。
- ・コミュニケーションの方法について理解をすすめる。
- ・情報の活用について、その学習効果を心理統計を交えながら研究する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- さまざまな教育方法を実際に行う。  
さまざまな教育方法を含めた、ワークショップをデザインし、実践し、その効果を検討する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
企業研修で行われる教育方法も含めた多くの教育方法を積極的に体験する。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ワークショップ・デザインに有効な方法をどの程度学習できたかを、自己評価する。また、自分なりのワークショップをデザインし、その有効性について相互評価と自己評価をする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 各教科における言語活動
- 第3回 各教科に共通に役立つ言語活動
- 第4回 アイスブレイクの方法
- 第5回 チームビルディングの方法
- 第6回 ワールド・カフェの方法
- 第7回 アクション・ラーニングの方法
- 第8回 ファシリテーション・グラフィックの方法
- 第9回 タブレットPC・ミーティングの方法
- 第10回 ポスターセッションの方法
- 第11回 ワークショップ・デザインの方法
- 第12回 ワークショップ・デザインの実践
- 第13回 効果の測定について
- 第14回 情報を活用した教育方法に関する文献の講読
- 第15回 自己評価

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークを数回行う。そのための交通費・参加費等が1万円程度かかる可能性がある。参考文献は、その都度紹介する。文献等は自分で検索し、積極的に教員に質問するなど、自ら学ぶ姿勢が必要である。

講義コード (Course Code)	270054N0J
授業名 (Course Title)	教育・心理検査特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	松島 るみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では、心理教育的アセスメントについて理解を深め、多様なアセスメントの方法を学ぶのと同時に、心理検査についての実施や採点、解釈の方法について学ぶことを目的とする。

心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・心理・教育的アセスメントの目的や方法について理解すること。
- ・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
- ・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 受講生による発表とディスカッション、心理検査の実習を中心に授業を進める。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業中に課題を提示するので、準備をした上で授業に臨むこと。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 心理・教育的アセスメントとは
- 第2回 心理・教育的アセスメントの方法
- 第3回 心理検査の活用
- 第4回 学級・学校のアセスメント
- 第5回 教育評価
- 第6回 個別知能検査 (ウェクスラー式知能検査: WISCを中心に)の概要
- 第7回 言語性検査の実施
- 第8回 言語性検査の採点演習
- 第9回 言語性検査の結果解釈
- 第10回 動作性検査の実施
- 第11回 動作性検査の採点演習
- 第12回 動作性検査の結果解釈
- 第13回 プロフィール分析
- 第14回 検査結果による指導計画への発展
- 第15回 その他の個別知能検査概要

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270055N0J
授業名 (Course Title)	教育社会心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	尾崎 仁美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業中に指示する。
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講1 発達・学校心理学専攻は平成22年度以前入学者に適用

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本特論では、青年期における自己やアイデンティティ形成の問題、および教育現場のなかでそれらをどう支援していくかという問題を扱う。

個人の自己やアイデンティティの形成には他者との相互作用が重要な役割を果たしている。これまでの研究知見を通して、多様な人間関係の中で、青年の自己やアイデンティティがどのように形成されていくかという問題について理解を深めるとともに、キャリア発達の理論やキャリア教育の実践なども参考にしながら、青年の自己形成を支援するような教育実践のあり方について考える。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自己やアイデンティティに関する理論や研究について理解を深める。
2. キャリア発達・キャリア教育に関する理論や実践について理解を深める。
3. さまざまな教育実践研究の検討を通して、青年の自己形成を支援する教育実践について考える。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

文献は、授業中に指示する。

受講生による発表とディスカッションを中心に進める。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

詳細は授業中に指示するが、関連分野の文献や研究論文に目を通しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ディスカッションへの参加状況、発表、レポートから総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 青年期における自己形成
- 第2回 青年期の自己形成に関わる要因
- 第3回 自己に関する理論
- 第4回 自己研究の方法論
- 第5回 自己に関する研究動向 (1) 自己の発達
- 第6回 自己に関する研究動向 (2) 他者とのかわりにおける自己
- 第7回 自己に関する研究動向 (3) 自己と社会的適応
- 第8回 アイデンティティに関する理論
- 第9回 アイデンティティ研究の方法論
- 第10回 アイデンティティ研究の実際
- 第11回 アイデンティティ研究のこれから
- 第12回 キャリア発達の理論
- 第13回 キャリア教育の実践紹介
- 第14回 青年の自己形成を支援する教育実践の検討
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

上記の内容・順序は、受講生の興味・関心に応じて変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	270057N0J
授業名 (Course Title)	学校臨床心理学実習 子どもの発達理解に基づく心理教育的援助技法の習得
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	薦田 未央
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業中に配布する資料の他は、適宜指示する。
参考文献 (References)	『実践グループカウンセリング—子どもが育ちあう学級集団づくり—』 田上不二夫 (編著) 金子書房 2010 『学童期の支援—特別支援教育をふまえて—』 長崎勤・藤野博 (編著) ミネルヴァ書房 2011 『発達障害のある子の自立に向けた支援』 萩原拓 金子書房 2015
備考 (Note)	平成23年度以後入学者に適用

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもの心身の発達過程を理解し、それに基づき特に児童・生徒で発達支援を必要とする対象者のライフステージに合わせた問題の理解を深める。

また、児童・生徒への直接的支援方法であるカウンセリングやグループカウンセリングの理論や技術を習得する。加えて、問題を抱える子どもに関わる保護者や教師へのコンサルテーションやコーディネートについての知識と技術も実践的に習得することを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①子どものライフステージに合わせた心身発達の過程を理解する。
- ②子どもへの直接的支援方法 (グループ支援、個別支援) を実践的に理解する。
- ③カウンセリング等、支援技法の習得
- ④保護者、教師等の心理状態を理解し、組織との関係性について理解を深める
- ⑤保護者、教師等へのコンサルテーション、コーディネートを実践的に理解する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

児童・生徒の心理、保護者、教師の心理についての理解と支援技法の理論を基礎として、仮想事例の見立てや面接のロールプレイを中心とした実習により実践的に発達および教育的支援方法を習得する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業課題で指定されたテーマや文献に関して、事前の下調べや通読をしておくこと。授業後には、理解不十分であった箇所を振り返り、次回の授業での質問等の準備をしておくこと。また、実施する心理検査等についても、あらかじめテキストやマニュアルに目を通して予習をしておくことが望ましい。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・実習への取り組み態度 (45%)、ディスカッション (30%)、課題作成 (25%) を評価対象とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学校における支援ニーズと相談支援のあり方
- 第2回 幼児・児童・生徒における心理的問題の把握
- 第3回 クラスにおける人間関係形成に関する実習 (技法の理解と実際)
- 第4回 クラスにおける人間関係形成に関する実習 (評価)
- 第5回 子どもへの直接支援実習 (カウンセリングにおける態度と技法)
- 第6回 子どもへの直接支援実習 (RP:子どもの立場)
- 第7回 子どもへの直接支援実習 (RP:支援者の立場)
- 第8回 子どもへの直接支援実習 (RPの総合評価)
- 第9回 保護者への直接支援実習 (RP:保護者の立場)
- 第10回 保護者への直接支援実習 (RPの評価)
- 第11回 教師へのコンサルテーションについての実習 (ケースの見立てと方針)
- 第12回 教師へのコンサルテーションについての実習 (事例検討)

- 第13回 校内連携に関するグループ実習（模擬カンファレンス）
- 第14回 校内連携に関するグループ実習（評価）
- 第15回 カウンセリング・コンサルテーションの実際と倫理的配慮、まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

また、臨床発達心理士受験資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部および、学校心理士資格取得に関する実習2「学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習」の科目に該当する。

講義コード (Course Code)	270058N0J
授業名 (Course Title)	特別支援アセスメント実習 発達支援の理論と方法に関する実践力養成
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	薦田 未央
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	適宜、参考資料を配布する。また、使用する検査用具・マニュアル等も貸出とする。
参考文献 (References)	『WISC-IVの臨床的利用と解釈』 プリフィテラ,A., サクロフスキー,D.H., ワイス,L.G. (編) / 上野一彦・(監訳) 日本文化科学社 2012 『新版K式発達検査にもとづく発達研究の方法』 中瀬惇 ナカニシヤ出版 2005 『学童期の支援—特別支援教育をふまえて—』 長崎勤・藤野博編著 ミネルヴァ書房 2011 『発達障害の療育』 尾崎康子・三宅篤子【編著】 ミネルヴァ書房 2016 その他は授業中に紹介する。
備考 (Note)	平成23年度以後入学者に適用

1. 科目の研究目標 (Course Description)

乳幼児および就学後の児童・生徒で発達支援を必要とする対象者への理解と支援技術を習得する。特に、療育、保育、教育（特別支援教育）の現場で必要とされる専門知識や教育支援、発達支援に関する理論やアセスメント方法など専門的技術の習得を目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①就学前後における、気になる子どもの困りや障害特性、問題実態を理解する。
- ②特別支援教育における理念と意義を理解し、その教育ニーズへの理解を深める。
- ③子どもの状態を把握するアセスメント方法（発達検査、知能検査等）の習得。
- ④アセスメント結果の解釈と個別の支援計画の作成を行う。
- ⑤教育機関、発達支援機関との協働・連携についての理解と方法を学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

理論の理解を基礎として、ロールプレイや提示事例の解釈等を実習し、実践的に心理検査に関する発達および教育的支援方法を習得する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で実施する発達検査、知能検査に関する理論、および実施方法についてはテキストやマニュアルに事前に目を通しておくこと。また、検査実習後のデータの整理、所見の書き方についても復習のうえ、各自で作成し、次の授業までに準備をしておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・実習への取り組み態度 (30%)、課題作成 (40%)、ディスカッション (30%) を評価対象とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 発達臨床とは
- 第2回 発達支援ニーズと実態について
- 第3回 発達支援における専門性と役割
- 第4回 実態把握の方法（アセスメント方法の概説）
- 第5回 乳幼児アセスメント実習（保育所・幼稚園・療育機関等でのアセスメントの概説）
- 第6回 乳幼児アセスメント実習（発達検査の実施）
- 第7回 乳幼児アセスメント実習（発達検査結果の解釈と所見のまとめ方）
- 第8回 乳幼児に関する指導・支援計画の作成
- 第9回 児童・生徒アセスメント実習（学校・教育相談機関等でのアセスメントの概説）
- 第10回 児童・生徒アセスメント実習（知能検査の実施）
- 第11回 児童・生徒アセスメント実習（知能検査結果の解釈と所見のまとめ方）

見のまとめ方)

- 第12回 児童生徒に関する個別の指導計画・教育支援方針の作成  
第13回 療育、就学、教育相談等における保護者支援、コンサルテーション（アセスメント結果の活用）  
第14回 仮想事例によるケースワーク  
第15回 療育、保育、教育現場における支援体制と連携について

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

## 7. 留意事項 (Other Information)

実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

また、臨床発達心理士受験資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部および、学校心理士資格取得に関する7「特別支援教育」の科目に該当する。

講義コード (Course Code)	270071N0J
授業名 (Course Title)	人格心理学特論
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	改訂 遊ぶことと現実 ウィニコット 岩崎学術出版社 乳幼児の心理的誕生—母子共生と個体化 (精神医学選書) マーラー 黎明書房
備考 (Note)	隔年開講1

## 1. 科目の研究目標 (Course Description)

パーソナリティの理解は、心理臨床の実践や研究を進める上で重要である。

心理臨床において効果的な援助を行うためには、面接・観察・心理検査を通して、経過と現状・生育歴・環境や対人関係・人格など多角的な視点から背景にある心の仕組み（パーソナリティ）を見立てること（心理アセスメント）が必須である。

本講義では、パーソナリティの理解を深め、実践と結び付けることができるように考えていきたい。

## 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理臨床においてパーソナリティを理解するとはどのような意味があるのか、またパーソナリティを理解するための理論に基づきそれらを実践に結びつける力を養成する。

## 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義と、受講生による発表・ディスカッションを連動させながら進める。講義から得た問題意識や自らの関心に沿って、受講生が特定のテーマについて発表し、これをもとにディスカッションを行う。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講者は1人1テーマを担当し、レジュメを用いて発表を行う。その後、討論を通して理解を深める。必要に応じて参考資料を配布する。各受講者が毎回の該当箇所を事前に精読し、討論への積極的に参加できるよう準備学習が必須である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

## 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

<授業参加度・発表内容・ディスカッションへの参加 (60%)>、  
<期末レポート (40%)>により評価する。

## 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション 本講義の目的と進め方について  
第2回 パーソナリティ研究の歴史  
第3回 精神分析的アプローチ1 分離固体化研究  
第4回 精神分析的アプローチ2 クライン理論  
第5回 精神分析的アプローチ3 錯覚と脱錯覚  
第6回 特性によるアプローチ  
第7回 行動的アプローチ  
第8回 人間性アプローチ  
第9回 パーソナリティの病理1 パーソナリティとアタッチメント・スタイルとの関連  
第10回 パーソナリティの病理2 関係性の障害  
第11回 パーソナリティの病理3 パーソナリティ障害  
第12回 パーソナリティ研究法  
第13回 パーソナリティ・アセスメント1 投映法について  
第14回 パーソナリティ・アセスメント2 多角的アセスメント  
第15回 まとめ

## 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

## 7. 留意事項 (Other Information)

講義内容は受講生の知識や理解度および講義の進捗状況、受講人数に応じて、変更される場合がある。開講時に課題文献リストを配布するので、講義と並行して各自で読み進めること。

講義コード (Course Code)	270072N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学特論 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	伊藤 一美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『テキスト臨床心理学 1「理論と方法」』 デビソン G.C.ほか 誠信書房 2007 『テキスト臨床心理学 2「研究と倫理」』 デビソン G.C.ほか 誠信書房 2007
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) こころの問題における“異常”とは何かについて理解と想像力を習得する。
- (2) 臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。
- (3) 臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。
- (4) 臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。
- (5) 自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。

講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習 I」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

分担発表や討論を含む授業参加度、期末レポート課題から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 異常とはなにか
- 第3回 臨床心理学的アセスメントの考え方
- 第4回 臨床心理学的介入 (1) 人間学・実存主義パラダイム
- 第5回 臨床心理学的介入 (2) 精神分析的パラダイム
- 第6回 臨床心理学的介入 (3) 学習理論パラダイム
- 第7回 臨床心理学的介入 (4) 認知理論パラダイム
- 第8回 臨床心理学的介入 (5) 生物学パラダイム
- 第9回 臨床心理学的介入 (6) 集団への介入  
(グループ・夫婦・家族)
- 第10回 臨床心理学的介入 (7) コミュニティ心理学
- 第11回 臨床心理学的介入 (8) 統合的アプローチ
- 第12回 臨床心理学における研究方法
- 第13回 臨床心理学研究における倫理の問題
- 第14回 各自の心理臨床実践から考える
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270073N0J
授業名 (Course Title)	心理療法特論 統合的アプローチを学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	杉原 保史
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (集中)
テキスト (Textbook)	『技法としてのカウンセリング入門』 杉原保史 創元社 2012
参考文献 (References)	『心理療法の統合を求めて』 ワクテル P 金剛出版 2002 『心理療法家の言葉の技術』 ワクテル P 金剛出版 2004 『説得と治療』 フランクとフランク 金剛出版 2007 『統合的アプローチによる心理援助』 杉原保史 金剛出版 2009
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか1つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか1つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的アプローチについて理論的に学ぶ／統合的なアプローチによる実践の報告に触れる／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストの講読、配布資料の精読。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を50%、レポートを50%として行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 統合的アプローチとは
- 第2回 学派とは何か／学派との関わり方の検討／学派を超えて共通する治療要因
- 第3回 ロールプレイ／デモンストレーション
- 第4回 ロールプレイ／体験学習と振り返り
- 第5回 心理療法における治療作業1／傾聴／準備性
- 第6回 心理療法における治療作業2／傾聴／非言語的な技術
- 第7回 心理療法における治療作業3／傾聴／言語的な技術
- 第8回 心理療法における治療作業4／傾聴／注意の向け方
- 第9回 循環的心理力動アプローチ
- 第10回 事例を読んで討議
- 第11回 2人カウンセラーによるカウンセリング実習1
- 第12回 2人カウンセラーによるカウンセリング実習2
- 第13回 心理療法における治療作業5／コア感情のプロセス (エクスプロージャー)
- 第14回 心理療法における治療作業6／ポジティブなものの承認
- 第15回 カウンセラーの言葉の技術

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270074N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理面接特論 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	三好 智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に指示する。
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、対人援助における実際の関わりや姿勢や技術を身につけていくことが求められる。そして、これらを身につけてゆく過程では、自分自身のものとの捉え方、感じ方、反応の仕方等をできるだけ知ること、そして、それぞれの特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと照らし合わせながら、「いまここ」における関わりやあり方を模索してゆくことが大切である。

「臨床心理面接特論 I」では、まず、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢や枠の意味などについて理解してゆく。その上で、ロールプレイとその振り返りを通して、対人援助における関わりや姿勢や技術の基礎を身につけることを目的とする。この他、電話受付やインテーク陪席などの心理臨床センター心理相談室の業務に関する模擬練習を行うとともに、こうした業務に携わるうえで不可欠な倫理的配慮についても取り上げていく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それについてディスカッションを行うことを通して、臨床心理面接における基本姿勢や枠の意味などについて学ぶ。
- (2) 心理臨床センター心理相談室におけるインテーク陪席・電話受付に際しての留意点について学び、これらの実習に備える。
- (3) ロールプレイとその振り返りを行い、(1) について理解を深めるとともに、個々の特性にふさわしい関わりやあり方を模索する。
- (4) 臨床心理面接に携わるうえで不可欠である、基本的な倫理的感覚を養う。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 事例論文・文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う。
- (2) 心理臨床センター心理相談室におけるインテーク陪席・電話受付に関して、概要と留意点について説明した後、模擬実習にて練習を行う。
- (3) ロールプレイについては、受講者同士でセラピストとクライアント役を交代で担当し、その後、振り返りを行う。実習後は、逐語録を作成し内容について改めて検討する(セラピスト)、役作りの過程も含めた体験内容を振り返り文章にまとめる(クライアント役)、ロールプレイに臨席して感じたこと・考えたことを文章にまとめる(見守り手)等、それぞれの課題にそってレポートを作成する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

配布資料の予習・見直し、文献の熟読など、適宜、指示する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

課題への取り組み (30%)、ロールプレイ・模擬実習・ディスカッションへの参加態度 (40%)、レポートの内容 (30%) から、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献の講読 (文献1) / 電話受付について (オリエンテーション)
- 第3回 電話受付について (ロールプレイ)
- 第4回 文献の講読 (文献2) / インテーク面接への陪席について (オリエンテーション)
- 第5回 インテーク面接への陪席について (DVD実習)
- 第6回 インテーク報告書の作成について
- 第7回 文献の講読 (文献3)
- 第8回 ロールプレイと振り返り (ペア1)
- 第9回 文献の講読 (文献4)
- 第10回 ロールプレイと振り返り (ペア2)
- 第11回 文献の講読 (文献5)
- 第12回 ロールプレイと振り返り (ペア3)
- 第13回 文献の講読 (文献6)
- 第14回 ロールプレイと振り返り (ペア4)
- 第15回 心理臨床における倫理的配慮について

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

- ・主に実習形式で行うため、出席が重視される。
- ・受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えて臨んでいただきたい。

講義コード (Course Code)	270075N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理面接特論 II
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	空間 美智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際の関わりや姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のものとの捉え方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わりやあり方を模索することが大切である。

「臨床心理面接特論 II」では、「臨床心理面接特論 I」に引き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。
- (2) 傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。
- (3) 臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う (使用する文献については、授業時間中に指示する)。
- (2) 体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。
- (2) 臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢 (70%)、レポートの内容 (30%) から、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 面接に関わる文献講読 (面接技法の歴史と理論)
- 第3回 ロールプレイと振り返り (面接技法の歴史と理論)
- 第4回 面接に関わる文献講読 (面接の基本姿勢)
- 第5回 ロールプレイと振り返り (面接の基本姿勢)
- 第6回 面接に関わる文献講読 (傾聴、関係性構築)
- 第7回 ロールプレイと振り返り (傾聴、関係性構築)
- 第8回 面接に関わる文献講読 (アセスメントとフィードバック)
- 第9回 ロールプレイと振り返り (アセスメントとフィードバック)
- 第10回 技法の実習 (動機づけ面接)
- 第11回 技法の実習 (セルフモニタリング)
- 第12回 技法の実習 (リラクゼーションとイメージ技法)
- 第13回 技法の実習 (アサーション)
- 第14回 技法の実習 (社会的スキル訓練)
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270103N0J
授 業 名 (Course Title)	児童精神医学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	久保田 泰考
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『ニューロサイコアナリシスへの招待』 岸本寛史編 誠信書房 2015
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

児童精神医学領域で扱われる精神疾患について学び、思春期・成人の精神病理についても広く学習する。さらに神経科学の知識も深め、これと精神分析の知の方法との双方向的視野に立ったニューロサイコアナリシスの観点から精神障害・神経発達障害を理解することを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理  
子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連

脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤

子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害

自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型 子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義形式中心で毎回資料を配布。学生側からのフィードバックや復讐内容、要望に応じて、講義内容を柔軟に調整・変更する。症例検討や映像資料の供覧も必要に応じて行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起 (30%)、レポート2回 (70%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か
- 第2回 神経症1：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
- 第3回 神経症2：愛着理論から神経症概念を見直す、情動アセスメントの考え方と実際
- 第4回 精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
- 第5回 症例検討1：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
- 第6回 自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症 (ASD) について
- 第7回 症例検討2：ASDの社会・情動発達、ケース報告とフィードバックのすすめ方
- 第8回 感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
- 第9回 PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的な支援のすすめ方
- 第10回 強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
- 第11回 境界型パーソナリティ障害：ボーダーラインの概念、治療について
- 第12回 臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
- 第13回 臨床心理学 (4) 学校における児童生徒の問題
- 第14回 臨床心理学 (5) 心理臨床などの専門家と専門機関
- 第15回 症例検討3：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。

講義コード (Course Code)	270104N0J
授 業 名 (Course Title)	発達臨床特論 言語発達とその支援
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	礪部 美也子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期集中)
テキスト (Textbook)	『よくわかる言語発達』 岩立・小椋編著 ミネルヴァ書房 2005
参考文献 (References)	『言語発達とその支援』 岩立・小椋編著 ミネルヴァ書房 2001 『ことばの発達と障害1「ことばの発達入門」』 秦野悦子 大修館書店 2001 『 〃 2「ことばの障害入門」』 西村辨作 大修館書店 2001 『 〃 3「ことばの障害の評価と指導」』 大石敬子 大修館書店 2001
備 考 (Note)	隔年開講1

1. 科目の研究目標 (Course Description)

言語発達過程、言語獲得を可能とする認知機能、ことばの発達の遅れた子どもの評価、援助方法について学ぶ。言語機能の発達は、社会性の発達と認知・思考の発達と相互に関係する重要な研究領域であり、初期発達を支援する療育現場でも、コミュニケーション・言語発達指導が非常に重要である。そこで、言語獲得を可能にするヒトの認識の特異性や言語発達に関する重要な理論や言語発達過程を紹介し、最近の研究成果について解説する。言語の発達と障害についての知識を得た後、対象児・者を理解するために必要な検査・評価・診断の方法、指導方法を学び、受講生が臨床発達心理士として活動できる基礎的素養を身につけられるよう援助していきたい。なおこの科目は、「DP科目」の「言語発達とその支援に関する科目」(以下「言語」と略す)の1-1~1-7を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

講義を聞くだけでなく、論文の講読を課し、レジュメを作成して、より深く言語発達とその障害について理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

DVDやPPTによる視覚教材をとりいれ、教科書を使用するほか、資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

発達心理学に関する教科書で、乳幼児期の発達について学習しておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度20%、課題発表など30%、小テスト・レポート50%の総合評価とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 言語発達と言語発達支援
- 第2回 言語発達の生物学的・神経学的基礎
- 第3回 言語発達の社会的基礎
- 第4回 言語発達の認知的基礎
- 第5回 言語発達の概観①：前言語期から初語期のコミュニケーション発達
- 第6回 言語発達の概観②：語彙・文法の発達
- 第7回 言語発達の概観③：音韻の発達
- 第8回 言語発達の概観④：語用、読み・書きの発達
- 第9回 言語発達の教育的側面、社会・文化的側面
- 第10回 言語発達の障害
- 第11回 言語・コミュニケーション発達の相談、評価、支援の実際①
- 第12回 言語・コミュニケーション発達の相談、評価、支援の実際②
- 第13回 課題発表
- 第14回 課題発表
- 第15回 課題発表、確認テスト、まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	270105N0J
授 業 名 (Course Title)	保育心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	矢野 のり子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	滝川一廣、「こころ」の本質とは何か、ちくま新書 (ちくま書房) 高岡健、「やさしい発達障害論」、批評社
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

家庭での育児場面と幼稚園や保育園等の集団における、子どもの心身の発達を支える関わりについて、マラー、ポウルヴィ等の発達理論および最近の研究から学び、育児場面で問題が生じた場合の支援のあり方について考える。特に、育児ノイローゼ、虐待等の問題が生じる原因や背景については具体的事例を通して学び、親や子どもへの望ましい対応のしかたについて理解する。また、問題あるいは障害をもつ乳幼児が集団保育に参加している場合、保育現場からみた子どもの発達について論じ、現場での支援のありかたについても考える。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①母子 (家族) の愛着関係、情緒かかわりへの基礎的理論的レビュー
- ②事例を通しての今日的課題
- ③保育現場でなんらかの問題を示す子どもたちへの保育現場での対応と母子 (家族) への支援について講義する

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- プリント配布。  
症例検討や映像資料を通して学ぶ。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
教育および保育実習やこがも教室で、子どもの普段の言動と遊びについて興味をもつこと。新聞等のメディアでの子どもの諸問題 (不登校、虐待、発達についての問題等) に関心をもつこと。  
発達の基礎的な学習について復習しておくこと。
  - ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
6時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加と発表、ディスカッション、レポートに基づいて総合的に行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 序論：発達臨床心理学の多様性と基本的発想
- 第2回 認知面と人格面の発達 (世界を広く理解すること・世界と深くかかわること)
- 第3回 マラーの発達理論 V T R
- 第4回 フロイトとマラーとピアジェ」の発達理論
- 第5回 ボールヴィの愛着理論1 (愛着と社会性)
- 第6回 ボールヴィの愛着理論2 (愛着と他者理解)
- 第7回 認知と愛着 (とりわけ心の理論との関連)
- 第8回 原初的コミュニケーションとことばの発達 (自閉症スペクトラム)
- 第9回 現場の諸問題 (障がい)
- 第10回 現場の諸問題 (不登校、不登園)
- 第11回 現場の諸問題 (虐待)
- 第12回 現場の諸問題 (いわゆる発達障がい)
- 第13回 現場の諸問題 (育児不安)
- 第14回 ディスカッションとまとめ (現場での諸問題：子どもの言動が意味するもの)
- 第15回 ディスカッションとまとめ (幼児期から児童期への発達と環境移行)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業に主体的に参加すること。社会への関心と情報を鵜呑みにしない思考力を養うこと。なおこの科目は、「DP科目」の「育児・保育現場での発達とその支援に関する科目」の1-1~5-5および6-1~6-6を含む。

講義コード (Course Code)	270107N0J
授 業 名 (Course Title)	小児神経学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	佐々木 博
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

こどもの発達や心理を扱う者にとって、対象の理解や発達支援などのために、小児の神経学的発達や脳性麻痺、てんかん、その他の神経疾患に関する臨床の知識は必須である。本講座では、未熟児新生児医療をはじめとする最新の医療の紹介を含め、小児神経学を臨床の立場から解説する。また、ADHDや広汎性発達障害、小児の心身症などについての新しい医学的知見についても論じる。

なおこの科目は、「DP科目」の「基礎」の3-1~5-4を含む。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①新生児、乳児の発達過程の理解
- ②神経疾患の病態、診断、治療に関する知識の獲得
- ③CT、MRIをはじめとする画像診断の知識獲得
- ④疫学や統計学に関する知識の習熟
- ⑤神経疾患への再生医療や分子生物学的アプローチ

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主としてスライドを用いて授業を進める。配布するプリント資料を参考にして知識の整理を行う。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
前回の授業で示されたテーマや文献の理解を深める。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
10時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席状況、提出課題 (期末試験) で評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 小児神経学総論
- 第2回 新生児医療
- 第3回 新生児、乳児の発達
- 第4回 脳性麻痺 (疫学、病因論を中心に)
- 第5回 脳性麻痺 (治療を中心に)
- 第6回 てんかん (疫学、病型、診断)
- 第7回 てんかん (治療)
- 第8回 精神遅滞
- 第9回 脳炎、脳症
- 第10回 広汎性発達障害 (歴史的背景と疫学)
- 第11回 広汎性発達障害 (病因、症状、治療)
- 第12回 A D H D
- 第13回 学習障害
- 第14回 筋疾患
- 第15回 心身症

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

定期試験の代わりにレポート提出。

講義コード (Course Code)	270108N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学特論Ⅱ 心理療法の基礎を学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	田中 誉樹
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	授業中に指示する。
参考文献 (References)	授業中に指示する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この講義は、臨床心理学の諸理論について、できるだけ幅広く、偏りなく概観することによって、基本的な知識を習得し、尚且つ、心理臨床家として他者を理解し、援助するための基本的な態度、方法、倫理などについても学ぶことを目的としている。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ①心理療法を行うために必要とされる臨床心理学的な知識、態度を文献や議論を通して身につけていく。
- ②クライアントとセラピストの関係性(治療関係、転移、逆転移など)の問題について、文献や事例などを通して、様々な角度から検討、考察していく。
- ③発達障がい、リストカットやオーバードーズ、摂食障害、ボーダーラインなど、現代の青年に多く見られる心理的問題について、適宜、臨床心理学的観点から考察する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生による発表と討論、教員による解説を基本とする。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業は、学生による発表形式で行うので、発表担当者は勿論、他の学生も次の授業で扱う範囲を、自分で文献を選んで大筋を理解しておくこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表内容と質、出席、受講態度を含めた平常点による。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション(臨床心理学とは、どういう学問か)
- 第2回 精神分析(フロイト)
- 第3回 分析心理学(ユング)
- 第4回 対象関係論
- 第5回 無意識あるかないか。
- 第6回 家族療法(システム理論)
- 第7回 来談者中心療法(ロジャーズ)
- 第8回 現存在分析(ビンズワンガー)
- 第9回 実存的心理療法(レイン)
- 第10回 実存的分析(サルトル)
- 第11回 臨床心理学と哲学
- 第12回 臨床心理学と医療
- 第13回 臨床心理学と福祉
- 第14回 臨床心理学と教育
- 第15回 臨床心理学と倫理

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

学生には、積極的な授業参加(自発的な発言、文献資料への取り組み)が求められる。参考文献は授業中に適宜指示する。

講義コード (Course Code)	270109N0J
授業名 (Course Title)	社会心理学特論 社会心理学の新たな動向を学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	石田 正浩
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	授業内で教材を配布する。
参考文献 (References)	授業内で適宜、紹介する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

近年の社会心理学は、進化や文化といった要因の積極的な取り込みや社会生活のさまざまな場面への応用によって特徴づけられる。本授業の目的は社会心理学の基礎的知識の獲得と同時にこうした新たな動向を理解し、社会的な問題や身近な問題を現代的な社会心理学の視点で解釈でき、対処を考えられる力を獲得することにある。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・社会心理学の諸領域の基礎概念・理論を理解する。
- ・自己制御の理論的側面を理解し、その応用可能性について持論を形成する。
- ・文化心理学・進化心理学の考え方を学び、従来の社会心理学の理論にどのような発展が認められるのかを理解する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

社会心理学の新たな動向に関連するテキストや論文から教材を選び、まとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業時間に次回以降の課題を指示する。
- ・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業時間中の発表と質疑への取り組み、レポートを基に総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 社会心理学の特徴と研究手法
- 第2回 社会的認知1 対人認知
- 第3回 社会的認知2 ヒューリスティクス
- 第4回 社会的認知3 認知的整合性
- 第5回 社会的認知4 態度
- 第6回 自己過程1 自己概念と自己評価
- 第7回 自己過程2 自己制御-行動的アプローチ
- 第8回 自己過程3 自己制御-認知的アプローチ
- 第9回 社会的影響過程1 社会的促進、規範の影響
- 第10回 社会的影響過程2 多数派と少数派
- 第11回 社会的影響過程3 社会的交換
- 第12回 社会的影響過程4 集団意思決定
- 第13回 文化心理学
- 第14回 進化心理学
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。

講義コード (Course Code)	270110N0J
授業名 (Course Title)	精神医学特論 事例の見たと対応を学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	河瀬 雅紀
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居顯二 金芳堂 『DSM-V 精神疾患の診断・統計マニュアル』 高橋三郎他 (訳) 医学書院 『精神医学 (MINOR TEXTBOOK) 第12版』 加藤伸勝 金芳堂 2013 『僕のこころを病名で呼ばないで』 青木省三 ちくま文庫 『若者の「うつ」』 傳田健三 ちくまブリマー新書
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の現場では、クライアントや患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、

- ①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
- ②臨床心理学的問題を抱える事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて援助の具体的なプランを立てることができる
- ③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な援助プランを立てることができる
- ④他職種との連携、社会資源の活用のある方法を説明することができる
- ⑤精神科薬物療法の基本的な事項について説明できることを目標とする。事例を見たと、具体的な支援へと結びつける力は、臨床心理の実習を進めていく上で必須の能力であり、本科目では、事例等を通してその実際を学び、臨床心理実践に欠くことの出来ない技能を身につける。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 不安・抑うつの主な病態を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる
- (2) 不安・抑うつの主な病態について、各種心理療法を事例に適用する際の留意点を説明することができる
- (3) 不安・抑うつの主な病態について、事例に適した臨床心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な援助プランを立てることができる
- (4) 思春期・青年期の特徴的な事例について、各種心理療法を事例に適用する際の留意点を説明することができる
- (5) 思春期・青年期の特徴的な事例について、適した臨床心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な援助プランを立てることができる

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。

毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

精神医学の教科書 (精神医学 (MINOR TEXTBOOK), 金芳堂など) から、統合失調症、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討論の参加状況などを総合し評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について
- 第2回 事例に対する臨床心理学的アセスメントの基本的事項について
- 第3回 臨床心理学的介入についての考え方

- 第4回 うつを理解する
- 第5回 グリーフに向き合うことへの支援 (家族)
- 第6回 グリーフに向き合うことへの支援 (個人)
- 第7回 家族の再会と絆の再構築を支援する
- 第8回 精神科薬物療法の理解 (総論)
- 第9回 精神科薬物療法の理解 (各論)
- 第10回 精神療法的アプローチの実際 (導入)
- 第11回 精神療法的アプローチの実際 (展開)
- 第12回 虐待と心理カウンセリング
- 第13回 発達障害児・者と家族への支援
- 第14回 虐待と処遇
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

講義コード (Course Code)	270111N0J
授業名 (Course Title)	学校臨床心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講1

1. 科目の研究目標 (Course Description)

学校臨床心理学は、現在、急速にその守備範囲を広げている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への対応も注目されている。本講義においては、学校臨床に必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通じて、学校臨床心理学のあり方についての理解を深めていきたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・学校臨床心理学とは何かを学ぶ
- ・学校におけるスクールカウンセラーの実践例について検討する
- ・学校臨床において使用できる芸術療法に関して、実習を通じて学ぶ
- ・受講生の学校臨床実践事例を発表し、討論する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学校とは、独特な雰囲気をもつ場である。スクールカウンセラーは、学校で出会うクライアントを理解する前に学校を理解する必要がある。そのため、本講義では、実習・フィールドワークも併用しながら、学校におけるスクールカウンセラーのあり方を探索していきたい。

事例検討・実習・フィールドワークを行なうごとにレポートの提出を求める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・スクールカウンセラーとは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義への出席状況・参加態度・課されたレポートの内容を総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学校臨床心理学とは何か
- 第2回 学校臨床のこれまでの流れをつかむ
- 第3回 小学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床におけるカウンセリングについて考える
- 第4回 小学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床における連携について考える
- 第5回 中学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床におけるカウンセリングについて考える
- 第6回 中学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床における連携について考える
- 第7回 学校臨床における連携について臨床心理的側面から考える
- 第8回 学校臨床における連携について社会福祉的側面から考える
- 第9回 地域援助とは何かを学ぶ
- 第10回 フィールドワーク (適応指導教室)
- 第11回 フィールドワーク (学校内適応指導教室)
- 第12回 学校に適用できる芸術療法の実習を行なう (箱庭療法)
- 第13回 学校に適用できる芸術療法の実習を行なう (カラージュ療法)
- 第14回 学校に適用できる芸術療法の実習を行なう (描画療法)
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークについては、先方の事情により多少時期が前後する可能性がある。

講義コード (Course Code)	270113N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理査定演習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	向山 泰代
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と技能を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、その他の心理検査についても、実施例等を素材としてスコアリング実習等を行う。加えて、テスト・バッテリーの組み方、実施にあたっての倫理的配慮、結果の有効な活用に関する学習を通じて、心理アセスメントについての実践的な知識と技能の修得を目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 心理アセスメントの理論と技法を実践的に学ぶ。
- (2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。
- (3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。
- (4) 有用な記録の取り方や結果のまとめ方、所見の書き方について学ぶ。
- (5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけてゆくかを考える。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生が互いに検査者と被検査者となって心理検査を体験したり、心理検査の実施例のスコアリングや結果についての検討を行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論や特徴についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・受講生は配布されたreading assignmentに従い、事前に準備した上で演習に臨むこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) 各種の心理検査についてのまとめと発表。(2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめる期末レポート。(3) 授業参加度、課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 心理アセスメント概説
- 第2回 性格検査 (質問紙法) (1) : 特性論にもとづく検査
- 第3回 性格検査 (質問紙法) (2) : 連想にもとづく検査
- 第4回 知能検査 (1) : WAISの解説と実習 (検査1~2)
- 第5回 知能検査 (2) : WAISの実習 (検査3~7)
- 第6回 知能検査 (3) : WAISの実習 (検査8~13)
- 第7回 知能検査 (4) : WAISのスコアリングと結果の解釈
- 第8回 知能検査 (5) : WISCの実習
- 第9回 発達検査 (1) : 発達障害概説
- 第10回 発達検査 (2) : 発達検査の実習
- 第11回 神経心理学的検査 (1) : 高次脳機能障害概説
- 第12回 神経心理学的検査 (2) : 遂行機能のアセスメント
- 第13回 神経心理学的検査 (3) : 記憶のアセスメント
- 第14回 アセスメントにおける倫理
- 第15回 アセスメント結果の活用

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序を調整することがある。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。

講義コード (Course Code)	270114N0J
授 業 名 (Course Title)	心理関係法規特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	藤川 洋子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

臨床心理士は、教育、医療、福祉、司法、産業などさまざまな領域や職場で働いている。所属する機関によって、臨床心理士の遵守すべき規範（ルール）は異なるが、すべてに通底する倫理次元の問題を深く理解するとともに、それぞれの職域がどのような法律に立脚しているかを理解する。また、心理支援の対象者には、精神障害者、発達障害者、知的障害者らが含まれるが、それぞれについて支援法などが制定されている。具体的な事例をもとに、法に基づく施策を知り、どのようなアドバイスや支援が可能かを学ぶ。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) インフォームド・コンセントなど、倫理次元の問題の重要性について理解する。
- (2) 刑法、民法等の基本性質を学び、各職域において、どのような法的問題が起こりうるかを知る。
- (3) 精神障害者・発達障害者・高齢者・犯罪被害者らの福祉に関わる法律、学校現場や犯罪者（少年）の更生に関わる法律の成立ちを知る。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

基本的には発表とディスカッションの形式をとる。関係する法規の制定にいたる背景と理念を分担して要約、発表するなどして理解を深める。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教育機関、医療機関などで起こる問題について、新聞などのニュースで取り上げられる具体的な事例に関心を持ち、法規や条例との関係を予習しておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
20時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加態度、プレゼンテーションの方法と内容

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 臨床心理士の倫理綱領を理解する
- 第2回 臨床心理士が働く分野と職業倫理について理解する
- 第3回 司法の仕組みと憲法、刑法、民法の基本について理解する
- 第4回 心理職と関係の深い法律について理解する
- 第5回 未成年者の行為をめぐる法律、親権者の責任について理解する
- 第6回 家事事件手続法やDV法、ストーカー規制法を理解する
- 第7回 教育領域の法律を理解する
- 第8回 精神障害者福祉に関連する法律を理解する
- 第9回 発達障害者・知的障害者福祉に関連する法律を理解する
- 第10回 高齢者福祉・成年後見制度に関連する法律を理解する
- 第11回 障害者差別解消法の現状と課題について理解する
- 第12回 教育領域の事例と関連法規 (ケース・スタディ)
- 第13回 司法領域の事例と関連法規 (ケース・スタディ)
- 第14回 臨床心理士と諸機関との連携のあり方 (ディスカッション)
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270115N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床発達心理学実習 I 乳幼児と親のための子育て支援教室「こがもクラブ」での実践
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・薦田 未央
単 位 数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M1 (通年)
テキスト (Textbook)	用いない。
参考文献 (References)	授業中に紹介する。
備 考 (Note)	連続2コマ

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもの精神発達の援助、および親への育児支援に関して、学内で実施する子育て支援プログラムの場で実習する。なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の受験資格条件となる「臨床実習」(合計200時間)の一部に充てられるものとして選定される予定である。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

通年で、特定かつ複数の子どもと関わることを通して、乳幼児期の精神発達の過程を理解し、発達を支える方法や対人関係のありかたを探っていく。また教員の指導のもとで、子育て支援プログラムの立案や、親への援助活動も行っていく。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

子育て支援プログラムでは、院生はスタッフの1人として、主に遊びを通して子どもと関わりながら、遊びのプログラムの立案にも関わる。そして、ケースカンファレンス (プログラム直後に行う報告会) やケース検討会 (子育て支援プログラムが休みの日に行う) で、自分が関わっている個別事例や子ども同士の関わりについて経過報告を行いながら、自らの関わりを振り返り、よりよい支援のありかたを探っていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

最近の子育て事情について、新聞記事などで情報を収集しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

子育て支援プログラムにおける諸活動 (プログラムの進行への関与のあり方、担当の子どもとの関わり、個別事例の報告など) を評価する。遅刻・欠席については厳しく減点する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 臨床発達心理学の基礎
- 第2回 臨床発達心理士に必要な倫理
- 第3回 子育て支援プログラム「こがもクラブ」の準備
- 第4回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第5回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第6回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第7回 ケース検討会; 前期① (日程は変わることもある)
- 第8回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第9回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第10回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第11回 ケース検討会; 前期② (日程は変わることもある)
- 第12回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第13回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第14回 子育て支援プログラム (前期) の実施
- 第15回 前期の支援の振り返り
- 第16回 後期の支援の計画
- 第17回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第18回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第19回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第20回 ケース検討会; 後期① (日程は変わることもある)
- 第21回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第22回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第23回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第24回 ケース検討会; 後期② (日程は変わることもある)
- 第25回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第26回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第27回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第28回 ケース検討会; 後期③ (日程は変わることもある)
- 第29回 子育て支援プログラム (後期) の実施
- 第30回 1年間の支援のまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

ここで行う子育て支援プログラムは、学外から対象者が来訪する対外的なプログラムである。したがって、臨床発達の専門家を目指すものとしての自覚と責任感を持ち、倫理的配慮を行うことが必要とされる。

講義コード (Course Code)	270116N0J
授業名 (Course Title)	臨床発達心理学実習Ⅱ 発達支援の専門家を目指す
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	120時間
担当者 (Instructor)	高井 直美・薦田 未央
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M2 (集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

臨床発達心理学実習Ⅰで学んだ子どもの発達援助および親の育児支援に関して、さらに実践を積んで学ぶことを通して、臨床発達の専門性を身につけていくことを目指す。なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の資格条件となる「臨床実習」(合計200時間)の一部に充てられるものとして選定される予定である。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

受講生の目指す進路やその資質に応じて、①外部実習を行うか、②学内実習を行うか、そのどちらかに分けられる。いずれにおいても、臨床発達の専門家としてふさわしい力量がたくやうに、複数のケースの観察による発達アセスメントおよび発達援助方法について、継続的に学んでいく。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

①外部実習の場合：発達支援の専門機関に実習生として参加し、発達上の問題や障がいを持つ子どもとその親を支援する現場を体験する。スタッフの一人として子どもと関わること、およびケースカンファレンスでケースの報告を行うことを通して、発達の問題・障がいを理解し、必要な発達援助について、考えていく。

②内部実習の場合：1年次に引き続き、学内での子育て支援のプログラムのスタッフの一人として活動する。特定の担当ケースへの関わりだけでなく、集団全体の力学的変化にも着目し、支援プログラム全体の立案や構成についても、主体的に関わることが要求される。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

臨床発達心理学実習Ⅰで学んだことを実習Ⅱに活用できるように、しっかりと復習しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習を通して、臨床発達心理士として必要な力量を獲得しているかが、評価のポイントになる。具体的には、対象児の観察によるアセスメントのしかた、対象児との関わり、ケース報告の文書、ケースカンファレンスでの発表などが総合的に評価される。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 前期実習のガイダンス
- 第2回 臨床発達に関する実習①
- 第3回 臨床発達に関する実習②
- 第4回 臨床発達に関する実習③
- 第5回 ケースカンファレンス①
- 第6回 臨床発達に関する実習④
- 第7回 臨床発達に関する実習⑤
- 第8回 臨床発達に関する実習⑥
- 第9回 臨床発達に関する実習⑦
- 第10回 ケースカンファレンス②
- 第11回 臨床発達に関する実習⑧
- 第12回 臨床発達に関する実習⑨
- 第13回 臨床発達に関する実習⑩
- 第14回 ケースカンファレンス③
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期実習のガイダンス
- 第17回 臨床発達に関する実習⑪
- 第18回 臨床発達に関する実習⑫
- 第19回 臨床発達に関する実習⑬
- 第20回 ケースカンファレンス④
- 第21回 臨床発達に関する実習⑭
- 第22回 臨床発達に関する実習⑮
- 第23回 臨床発達に関する実習⑯

- 第24回 臨床発達に関する実習⑰
- 第25回 ケースカンファレンス⑤
- 第26回 臨床発達に関する実習⑱
- 第27回 臨床発達に関する実習⑲
- 第28回 臨床発達に関する実習⑳
- 第29回 ケースカンファレンス⑥
- 第30回 1年のまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

外部での実習は、その機関の年間予定に合わせて行われるため、長期休暇中にも行われる。また外部実習先に応じて、実習に関する費用が徴収される。

30回の内容は、実習先によって変化する可能性がある。

講義コード (Course Code)	270120N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理査定演習Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理』 エクスナー 金剛出版 2009
参考文献 (References)	必要に応じて提示します。
備考 (Note)	隔週2コマ連続

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

治療的なアセスメントの方法論の理解を目指し、そのために必要な心理アセスメントツールを正確に使用できるスキルを習得する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) パーソナリティ・アセスメントに関する理論と研究について十分な知識を有すること。
- 2) 包括システムによるロールシャッハ法の施行法、コーディング、スコアリングを習得すること。
- 3) アセスメント・レポートを作成できること。
- 4) 共感、傾聴、適切な境界の維持などの基本的な臨床スキルを体得すること。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

事前に、ロールシャッハ・テスト (包括システム) を受けてもらいます。

授業は、講義・演習形式で行います。

みなさんが事前学習をしてきたことを前提に解説やディスカッションを行います。こちらから質問や意見を頻りに聞いていきますので、積極的に発言して下さい。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義内容はかなりのボリュームがあるので、自主的な学習が必須となります。

宿題や必要な事前学習は、こちらからその都度、具体的に提示します。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の積極性 (30%)、レポート課題の内容 (70%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション、ロールシャッハの歴史と展開
- 第2回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の施行法
- 第3回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング: 反応領域と発達水準、組織化活動
- 第4回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング: 決定因子、形態水準
- 第5回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング: 特殊スコア
- 第6回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) 構造一覧表の作成
- 第7回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈のためのガイドライン
- 第8回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈: コントロール
- 第9回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈: 感情
- 第10回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈: 認知の3側面
- 第11回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈: 自己知覚と対人知覚
- 第12回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈: まとめ
- 第13回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) を用いた事例検討
- 第14回 複数のアセスメント・データを用いた治療的アセスメントの事例検討
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270133N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理基礎実習Ⅰ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	伊藤 一美、河瀬 雅紀、佐藤 睦子、空間 美智子、田中 蒼樹、三好 智子、向山 泰代、村松 朋子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	(週4時間+外部実習)

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
- (2) ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
- (3) 本学付設の心理臨床センター心理相談室において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
- (4) 期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。また、電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室のシステムについてまずは慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、陪席事例の発表については報告書の作成だけでなくそれに関連する文献を参照するなど、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすいプレゼンテーションとなるように準備をすること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 10時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ケース検討会への出席・発表・討論・小レポート作成、期末に行われる記述式の試験およびインテーク陪席とその記録、電話受付における取り組みから、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (1)
- 第3回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (2)
- 第4回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (3)
- 第5回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (4)
- 第6回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (5)
- 第7回 事例研究論文の執筆オリエンテーション
- 第8回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (6)
- 第9回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の

- カンファレンス (7)
- 第10回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス (8)
- 第11回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス (9)
- 第12回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス (10)
- 第13回 学外実習 振り返りとオリエンテーション
- 第14回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス (11)
- 第15回 期末試験

## 6. 定期試験 (Final Exam)

あり ・ 持込不可

## 7. 留意事項 (Other Information)

本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

講義コード (Course Code)	270134N0J	
授 業 名 (Course Title)	臨床心理基礎実習 II	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担 当 者 (Instructor)	伊藤 一美・河瀬 雅紀・佐藤 睦子・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子	
単 位 数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備 考 (Note)	(週4時間+外部実習)	

## 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。これら経験に加えて、本科目では、学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。

## 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
- (2) ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
- (3) 本学付設の心理臨床センター心理相談室、学外の実習先においてさまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
- (4) 期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

## 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。学外での実習は、教育機関と医療機関で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。

### ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

前期の体験を踏まえ、心理相談室の陪席事例の発表についてさらに工夫していくこと。また、日頃から自身の事例担当について他スタッフの発表とも照らし合わせ、また事例研究に関する文献、スタッフ同士でのディスカッションからも学びを深め、発表の準備を進めること。

学外実習に関しては、実習先について社会資源としての施設のあり方についても事前に把握し、児童生徒や利用者の方々との関わりやスタッフから直接学ぶ中で心理専門職としての役割についてより熟考できるよう準備をすること。

・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
10 時間

## 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学内実習については、ケース検討会への出席・発表・討論・小レポート作成・期末試験、およびインテーク陪席とその記録、電話受付の実習態度によって評価する。学外実習については、実習への参加状況と毎回の実習記録により評価する。これらの学内実習・学外実習における取り組みから、総合的に評価する。

## 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション ―ケース検討会への発表について―
- 第2回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の



- カンファレンス（1）
- 第3回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（2）
- 第4回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（3）
- 第5回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（4）
- 第6回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（5）
- 第7回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（6）
- 第8回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（7）
- 第9回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（8）
- 第10回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（9）
- 第11回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（10）
- 第12回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（11）
- 第13回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（12）
- 第14回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の  
カンファレンス（13）
- 第15回 期末試験

## 6. 定期試験 (Final Exam)

あり ・ 持込不可

## 7. 留意事項 (Other Information)

学内での実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。学外での実習は、原則として週一日（終日）に実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中にも実施されることがある。以上のように、実習は長期休暇中も継続して行なわれるため、受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

講義コード (Course Code)	270135N0J	
授業名 (Course Title)	臨床心理実習 I	
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	空間 美智子、伊藤 一美、河瀬 雅紀、 佐藤 睦子、田中 蒼樹、三好 智子、 向山 泰代、村松 朋子	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期)	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備考 (Note)	(週4時間+外部実習)「臨床心理基礎実習 I」を修得済みであること。	

## 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、「臨床心理基礎実習 I・II」(1年次配当)での体験学習の上に成り立っている。学内実習では、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当し、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて体験的に学び、ケース検討会で指導を受ける。また本科目では、一年次後期に引き続き学外実習を実施する。学外実習では、心理臨床に関わるさまざまな専門機関で実習を行い、心理臨床家としての基本的な視点について、現場での体験を通して学ぶ。また、現場での自分自身の体験を記述し実習記録としてまとめ、その記録に基づいて実習担当者から個別に指導を受ける。さらに、各相談機関の運営、業務内容等についても、現場で体験を通して学ぶ。

## 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当することによって、臨床家としての責任ある関わり方、態度、倫理について体験的に学ぶ。
- センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務についても学ぶ。
- 学内実習では、心理療法の技法について学ぶ。
- 学内実習では、心理検査の施行や解釈について体験的に学ぶ。
- 事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
- 学外実習では、医療や教育の専門機関が持つ機能と、その中で臨床心理士の視点、役割等について学ぶ。
- 学外実習では、各機関において、他の専門職との連携、協調、臨床心理士の専門性の特徴などについて考えていく。
- 実習記録の書き方について学ぶ。
- 実習で困ったこと、悩んだことなどについて個別に学内の担当教員とともに考える時間をもち、指導を受けることで実習での経験を意味のあるものにする。

## 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、実際の事例を担当する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、担当ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。学外実習は、教育機関と医療機関で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行うほか、各機関での実習内容について全体での報告会を行う。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分りやすい報告となるよう準備すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

## 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学内実習については、ケース検討会への発表、討論などへの参加、担当事例の報告、電話受付などによって評価される。学外実習については、実習への参加状況、参加態度、実習記録の内容などによって評価される。さらに学期末に試験を行い、それらをもって総合的に評価する。

## 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学外実習 学内実習または事例検討会①

- 第3回 学外実習 学内実習または事例検討会②
- 第4回 学外実習 学内実習または事例検討会③
- 第5回 学外実習 学内実習または事例検討会④
- 第6回 学外実習 学内実習または事例検討会⑤
- 第7回 学外実習 学内実習または事例検討会⑥
- 第8回 学外実習 学内実習または事例検討会⑦
- 第9回 学外実習 学内実習または事例検討会⑧
- 第10回 学外実習 学内実習または事例検討会⑨
- 第11回 学外実習 学内実習または事例検討会⑩
- 第12回 学外実習 学内実習または事例検討会⑪
- 第13回 学外実習 学内実習または事例検討会⑫
- 第14回 学外実習 報告会
- 第15回 期末試験

**6. 定期試験 (Final Exam)**

あり ・持込不可

**7. 留意事項 (Other Information)**

学内実習におけるケース担当（およびカンファレンス）は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。ケースを担当するという点についての、臨床家として自覚が求められる。学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

講義コード (Course Code)	270136N0J	
授業名 (Course Title)	臨床心理実習Ⅱ	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間	
担当者 (Instructor)	空間 美智子、伊藤 一美、河瀬 雅紀、佐藤 睦子、田中 蒼樹、三好 智子、向山 泰代、村松 朋子	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期)	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備考 (Note)	(週4時間+外部実習)「臨床心理基礎実習Ⅱ」を修得済みであること。	

**1. 科目の研究目標 (Course Description)**

本科目は、「臨床心理実習Ⅰ」ならびに「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。

「臨床心理実習Ⅰ」に続いて行われる学内実習では、担当する事例について責任をもってその運営に当たりながら、カンファレンスを通じて、さまざまな事例についての対応や、相談機関の運営について学ぶ。

**2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)**

- (1) 事例の見立てとそれに基づく面接計画を考え、クライアントにとって最も良い心理療法的アプローチを探る。
- (2) 心理面接における技法を習得しつつ、個々の担当事例に関するケース検討会と小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら今後の見通しを立てていけるような臨床的視点を養う。
- (3) 担当事例はもちろん、他の受講生の事例報告も含め、さまざまな事例を経験する中で、臨床実践のための理論と方法を学ぶ。

**3. 教育・研究の方法 (Course Methods)**

学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室における事例を担当し、ケース検討会においてその発表を行う。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。

また、学内心理臨床センター心理相談室におけるインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分かりやすい報告となるよう準備すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15時間

**4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)**

学内実習については、カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、担当事例の実施状況の報告内容、電話受付態度などによって評価される。

**5. 授業予定 (Course Schedule)**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学内実習または事例検討会①
- 第3回 学内実習または事例検討会②
- 第4回 学内実習または事例検討会③
- 第5回 学内実習または事例検討会④
- 第6回 学内実習または事例検討会⑤
- 第7回 学内実習または事例検討会⑥
- 第8回 学内実習または事例検討会⑦
- 第9回 学内実習または事例検討会⑧
- 第10回 学内実習または事例検討会⑨
- 第11回 学内実習または事例検討会⑩
- 第12回 学内実習または事例検討会⑪
- 第13回 学内実習または事例検討会⑫
- 第14回 学内実習または事例検討会⑬
- 第15回 期末試験

**6. 定期試験 (Final Exam)**

あり ・持込不可

**7. 留意事項 (Other Information)**

実習ではあっても、心理臨床家としての自覚を持ち、責任を持って取り組むこと。

講義コード (Course Code)	270137N0J
授 業 名 (Course Title)	社会調査演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	松島 るみ
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

あるテーマに沿って、調査の企画、仮説の設定、調査書の作成、調査実施、集計・統計的分析を行うための実践的な知識と方法を経験することが目的である。また、最終的には、報告書の執筆を行い、国内外での学会発表を自ら行える力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・調査の企画・設計、調査用紙の作成、調査の実施、データ分析、報告書作成の全過程を行う知識と方法を身につける。
- ・調査結果を発信する力 (報告書作成、国内外での学会発表) を身につける。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・社会調査の実習及び報告書の作成を中心に進める。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加状況 (70%)、報告書執筆 (30%) から総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インタロダクション：社会調査とは
- 第2回 社会調査の方法
- 第3回 調査テーマの決定
- 第4回 調査テーマに沿った文献発表
- 第5回 調査内容及び項目の決定
- 第6回 調査用紙の作成
- 第7回 データの入力及びデータの整理
- 第8回 調査結果のデータ分析 (1) 記述統計等 (調査内容により異なる場合がある)
- 第9回 調査結果のデータ分析 (2) 因子分析等 (調査内容により異なる場合がある)
- 第10回 調査結果のデータ分析 (3) 相関係数・分散分析等 (調査内容により異なる場合がある)
- 第11回 調査結果に関する考察
- 第12回 報告書作成 (1) 問題・目的・方法の執筆
- 第13回 報告書作成 (2) 結果・考察の執筆
- 第14回 調査結果の発表方法を学ぶ (国内での学会発表を想定して)
- 第15回 調査結果の発表方法を学ぶ (国外での学会発表を想定して)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270138N0J
授 業 名 (Course Title)	国語教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	工藤 哲夫
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『現代国語教育史研究』 田近洵一 富山房インターナショナル 2013
参考文献 (References)	『国語科教育学研究の成果と展望II』 全国大学国語教育学会 学芸図書 2013
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

国語科教育の歴史をたどり、国語科教育の理論と実践の達成したものを究明し、今後の国語科教育の研究と実践の展望を試みる。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 新教育をどのように定着させるか
- 2) 読み書き中心の教育に話し言葉の教育をどのように位置づけるか
- 3) 言語生活主義の教育において言語教育と文学教育をどう位置づけるか
- 4) 自治能力の形成にいかに関与するか

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

国語教育史の文献を検討するとともに、金曜日の半日または土曜日の全日を使い数回にわたり、国語教育の研究と実践の現場に見学・参加し、それらをもとに、自分の考えを発表し、ディスカッションする。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
経験主義的な教育方法に主に基づいた国語教育実践と系統主義的な教育方法に主に基づいた国語教育実践が混在する報道の中で、どのような教育思潮に基づいているのか検討し、検討した情報を必ず授業で紹介する。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

国語教育がどのような理論と共にどのような歴史をたどってきたのかを知ることにより、これからの国語教育のあるべき姿をそれぞれが自分なりに構想することができたかについて、評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 新教育以前の国語学習
- 第2回 戦後国語教育の出発点としての新教育の中の国語単元学習
- 第3回 教育課程論としての戦後経験主義教育の展開
- 第4回 大村はま国語教育の理念と方法
- 第5回 言語生活主義の国語教育
- 第6回 「時枝誠記の言語教育と西尾実の文学教育」論争
- 第7回 荒木繁の問題意識喚起の文学教育
- 第8回 「主観主義と客観主義」論争
- 第9回 大河原忠蔵の状況認識の国語教育
- 第10回 国語教育の中の情報教育と問題解決学習
- 第11回 熊谷孝の準体験論
- 第12回 西郷竹彦の視点論
- 第13回 西郷竹彦の共同体論
- 第14回 「新しい学力観」に立つ国語教育
- 第15回 これからの国語科教育の展望

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

国語教育の研究と実践の現場に金曜日の半日または土曜日の全日を使い数回にわたり、見学・参加するので、費用が、数千円程度かかる。

講義コード (Course Code)	270139N0J
授業名 (Course Title)	算数教育特論 算数教育の意味を知り、実践に生かす
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (前期)
テキスト (Textbook)	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 東洋館出版社 2008 『数学教育の基礎』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2011
参考文献 (References)	『初等算数科教育法』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010 授業にて紹介する
備考 (Note)	隔年開講1

1. 科目の研究目標 (Course Description)

- ・算数数学の基本理念を理解し教材開発に生かす態度を育成する。
- ・算数教育の意義、目的、歴史を理解し、幼稚園・小学校の実情を踏まえた教材の開発ができるようにする。
- ・教育心理学から、学習理論を応用し、適用できるようにする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

最初に、小学校学習指導要領および幼稚園教育要領から、現在の算数教育について確認をし、その意義、目的を共有した後、算数教育の歴史を概観し、各自で教材開発を行う。数学の基本領域である代数学・幾何学・応用数学・統計学についても概観する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

開発された教材は学習者間で実践による相互評価を行い、さらにその教材の精度を高める。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
教材研究をすること。前時の復習を確実にすること。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席し議論に参加すること (40%)、教材開発に積極的に挑むこと (40%)、教材、および学習の相互評価・自己評価 (20%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育心理学における学習理論および発達と認知
- 第3回 算数教育と教育心理学
- 第4回 学習指導要領と算数教育
- 第5回 現在の学校園における算数教育の現状と課題
- 第6回 代数学と幾何学
- 第7回 応用数学と統計学
- 第8回 最新の数学事情
- 第9回 諸外国における算数科指導の実態
- 第10回 興味を持たせる導入および学習者の状況に応じた教具の使用
- 第11回 目的を学習者と指導者が共有する
- 第12回 教具の利用とICT活用
- 第13回 主体的に学習に取り組むための算数の学習評価
- 第14回 この講義における学習の相互評価
- 第15回 算数科の教材開発についてのまとめと省察

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270145N0J
授業名 (Course Title)	教科教育演習 (国語)
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	工藤 哲夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『小学校国語科「活用力」学習の授業モデル』 大熊徹 明治図書 2009 『中学校国語科「活用力」学習の授業モデル』 大熊徹 明治図書 2009
参考文献 (References)	『文学の力×教材の力 小学校1年～中学校3年』 教育出版
備考 (Note)	隔年開講1

1. 科目の研究目標 (Course Description)

- ・言語活動を重視した学習単元の創造の方法を理解し実践できる。
- ・国語科教材指導の方法を理解し実践に利用できる。
- ・国語科教材理解の方法を理解し実践に利用できる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

言語活動重視が言われているが、どの領域でも、「活動があっても、学習がない」という言語活動に陥りやすく、昭和20年代の「はいまわる経験主義」に陥る恐れがある。各領域において、それぞれの能力を伸ばす言語活動を、具体的な教材から学び、学習単元に位置付ける方法を学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

国語教育において、言語活動を取り入れた実践を検討するとともに、金曜日の半日または土曜日の全日を使い数回にわたり、国語教育の実践の現場に見学・参加し、それらをもとに、自分の考えを発表し、ディスカッションする。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
授業で指定した国語教育実践の現場以外にも、3回程度自主的に見学・参加し、見学・参加結果を授業で積極的に発表できるように準備する。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

言語活動を重視した学習単元のモデルを作成し、発表する。言語活動と学習活動がいかにか有機的に結びついているかについて評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション。言語活動とは何か。
- 第2回 昭和20年代の言語活動。
- 第3回 小学校低学年教材における言語活動
- 第4回 小学校中学年教材における言語活動
- 第5回 小学校高学年教材における言語活動
- 第6回 中学校教材における言語活動
- 第7回 「話すこと・聞くこと」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第8回 「書くこと」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第9回 「読むこと」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第10回 「伝統的な言語文化」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第11回 「言語事項」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第12回 「メディアリテラシー」を学習活動の中心に設定した学習単元
- 第13回 言語活動を重視した学習単元のモデルの作成。
- 第14回 言語活動を重視した学習単元のモデルの発表。
- 第15回 言語活動を重視した学習単元のモデルの作成の仕上げ。

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

国語教育の実践の現場に金曜日の午後または土曜日全日を利用して、見学・参加するために、費用が数千円程度かかる。

講義コード (Course Code)	270146N0J
授業名 (Course Title)	教科教育演習 (算数) 新しい算数科の授業をつくる
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12 (後期)
テキスト (Textbook)	『初等算数科教育法』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010 『小学校学習指導要領解説算数編』 文部科学省 東洋館出版社 2008
参考文献 (References)	『数学教育の基礎』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2011
備考 (Note)	隔年開講1

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

算数教育における、授業研究を目的とする。

#### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理学による学習理論や発達心理学をベースにした算数教育が実践できることを到達目標とする。

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

算数特論で既習の内容について、授業形式での実践を行う。授業研究Ⅰ、Ⅱ、およびⅢでは、現状にあったトピックに応じて授業計画を模擬授業において実践指導を行う。また、現職小学校および幼稚園教諭からの助言を適宜うける。

##### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業準備をし、実際に算数授業ができるようにする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席し議論に参加すること (40%)、授業研究に積極的に挑むこと (40%)、授業内容、および学習の相互評価・自己評価 (20%)

#### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション、授業研究の方法
- 第2回 授業研究Ⅰ (教材開発とその実践計画)
- 第3回 授業研究Ⅰ (実践計画に基づく指導案の作成)
- 第4回 授業研究Ⅰ (模擬授業)
- 第5回 授業研究Ⅰ (自己評価と相互評価ディスカッション)
- 第6回 授業研究Ⅱ (教材開発とその実践計画)
- 第7回 授業研究Ⅱ (実践計画に基づく指導案の作成)
- 第8回 授業研究Ⅱ (模擬授業)
- 第9回 授業研究Ⅱ (自己評価と相互評価ディスカッション)
- 第10回 授業研究Ⅲ (教材開発とその実践計画)
- 第11回 授業研究Ⅲ (実践計画に基づく指導案の作成)
- 第12回 授業研究Ⅲ (模擬授業)
- 第13回 授業研究Ⅲ (自己評価と相互評価ディスカッション)
- 第14回 現職教諭からの指導助言 (協力教員)
- 第15回 算数科の授業研究についてのまとめと省察

#### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270153A0J ~ 270153Q0J
授業名 (Course Title)	特別研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	120時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M2 (集中)
備考 (Note)	必修

#### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

#### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

- ①研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
- ②文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
- ③データ処理の適否
- ④解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
- ⑤独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

#### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員2名による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

##### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
120時間

#### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

修士論文への取り組み方、修士論文発表会でのフロアー評価、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

#### 5. 留意事項 (Other Information)

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

講義コード (Course Code)	270200N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理事例研究法演習 I
授業以外に必要な標準自学時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 智子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 佐藤 睦子・空閑 美智子・田中 誉樹・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていないか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。また、前期終了時に、それまでに区切りのついている事例については、ブリーフレポートにまとめておく。II (後期) では、心理相談に関する先行文献も参照しながら、自身の実践についての研究論文執筆に取り組む。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

臨床心理事例研究法 I (前期) では、スーパービジョンでの報告内容や事例運営における意欲が評価の対象となる。臨床心理事例研究法 II (後期) では、スーパービジョンでの報告内容と事例運営の意欲に加え、全担当事例についてのブリーフレポートと学内実習施設での担当事例に関する事例研究論文等が評価の対象となる。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 担当事例のスーパービジョン (1)
- 第3回 担当事例のスーパービジョン (2)
- 第4回 担当事例のスーパービジョン (3)
- 第5回 担当事例のスーパービジョン (4)
- 第6回 担当事例のスーパービジョン (5)
- 第7回 担当事例のスーパービジョン (6)
- 第8回 担当事例のスーパービジョン (7)
- 第9回 担当事例のスーパービジョン (8)
- 第10回 担当事例のスーパービジョン (9)
- 第11回 担当事例のスーパービジョン (10)
- 第12回 担当事例のスーパービジョン (11)
- 第13回 担当事例のスーパービジョン (12)
- 第14回 担当事例のスーパービジョン (13)
- 第15回 担当事例のスーパービジョン (14)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

- \* 定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。
- \* 担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。

講義コード (Course Code)	270201N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理事例研究法演習 II
授業以外に必要な標準自学時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 智子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 佐藤 睦子・空閑 美智子・田中 誉樹・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期集中)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていないか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。また、前期終了時に、それまでに区切りのついている事例については、ブリーフレポートにまとめておく。II (後期) では、心理相談に関する先行文献も参照しながら、自身の実践についての研究論文執筆に取り組む。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

臨床心理事例研究法 I (前期) では、スーパービジョンでの報告内容や事例運営における意欲が評価の対象となる。臨床心理事例研究法 II (後期) では、スーパービジョンでの報告内容と事例運営の意欲に加え、全担当事例についてのブリーフレポートと学内実習施設での担当事例に関する事例研究論文等が評価の対象となる。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 担当事例のスーパービジョン (1)
- 第2回 担当事例のスーパービジョン (2)
- 第3回 担当事例のスーパービジョン (3)
- 第4回 担当事例のスーパービジョン (4)
- 第5回 担当事例のスーパービジョン (5)
- 第6回 担当事例のスーパービジョン (6)
- 第7回 担当事例のスーパービジョン (7)
- 第8回 担当事例のスーパービジョン (8)
- 第9回 担当事例のスーパービジョン (9)
- 第10回 担当事例のスーパービジョン (10)
- 第11回 担当事例のスーパービジョン (11)
- 第12回 担当事例のスーパービジョン (12)
- 第13回 担当事例のスーパービジョン (13)
- 第14回 担当事例のスーパービジョン (14)
- 第15回 担当事例の振り返り

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

- \* 定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。
- \* 担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。

講義コード (Course Code)	270231A0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅰ
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	薦田 未央, 上田 恵津子, 尾崎 仁美, 工藤 哲夫, 神月 紀輔, 高井 直美, 廣瀬 直哉, 松島 るみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
2. 文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
3. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席状況、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第6回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第7回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第8回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第9回 英文雑誌論文講読発表
- 第10回 英文雑誌論文講読発表
- 第11回 英文雑誌論文講読発表
- 第12回 英文雑誌論文講読発表
- 第13回 研究計画および研究経過発表
- 第14回 研究計画および研究経過発表
- 第15回 研究計画および研究経過発表

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業の順番は入れ替わることがある。

講義コード (Course Code)	270232A0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅱ
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	松島 るみ, 上田 恵津子, 尾崎 仁美, 工藤 哲夫, 神月 紀輔, 薦田 未央, 高井 直美, 廣瀬 直哉
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
2. 文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
3. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席状況、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 研究計画および研究経過発表
- 第6回 研究計画および研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 研究計画および研究経過発表
- 第11回 研究計画および研究経過発表
- 第12回 研究計画および研究経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270233A0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	薦田 未央, 上田 恵津子, 尾崎 仁美, 工藤 哲夫, 神月 紀輔, 高井 直美, 廣瀬 直哉, 松島 るみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
2. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員の全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席状況、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第6回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第7回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第8回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第9回 英文雑誌論文講読発表
- 第10回 英文雑誌論文講読発表
- 第11回 英文雑誌論文講読発表
- 第12回 英文雑誌論文講読発表
- 第13回 研究計画および研究経過発表
- 第14回 研究計画および研究経過発表
- 第15回 研究計画および研究経過発表

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業の順番は入れ替わることがある。

講義コード (Course Code)	270234A0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	松島 るみ, 上田 恵津子, 尾崎 仁美, 工藤 哲夫, 神月 紀輔, 薦田 未央, 高井 直美, 廣瀬 直哉
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
2. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員の全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

出席状況、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 研究計画および研究経過発表
- 第6回 研究計画および研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 研究計画および研究経過発表
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし



講義コード (Course Code)	270235A0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理学専門演習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	臨床心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
2. 各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
3. 発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。

発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 修士論文経過発表
- 第4回 修士論文経過発表
- 第5回 修士論文経過発表
- 第6回 研究計画発表
- 第7回 研究計画発表
- 第8回 研究計画発表
- 第9回 研究計画発表
- 第10回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第11回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第12回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第13回 修士論文経過発表
- 第14回 修士論文経過発表
- 第15回 修士論文経過発表

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270236A0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理学専門演習 II
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	臨床心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
2. 各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
3. 発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。

発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究経過発表
- 第5回 研究経過発表
- 第6回 研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第10回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270237A0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学専門演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	臨床心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
2. 自分の研究上の課題や問題点を明確にする。
3. 発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
120時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 修士論文経過発表
- 第4回 修士論文経過発表
- 第5回 修士論文経過発表
- 第6回 研究計画発表
- 第7回 研究計画発表
- 第8回 研究計画発表
- 第9回 研究計画発表
- 第10回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第11回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第12回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第13回 修士論文経過発表
- 第14回 修士論文経過発表
- 第15回 修士論文経過発表

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270238A0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学専門演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	臨床心理学専攻必修

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
2. 自分の研究上の課題や問題点を明確にする。
3. 発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。

発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
120時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究経過発表
- 第5回 研究経過発表
- 第6回 研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270801N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊研究 A (認知機構) ヒトの認知と知覚と行動の密接な関係
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	廣瀬 直哉
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講 1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

ヒト以外の動物を含めて生物の行動を研究する場合の基本的な方法論を概観し、それぞれの方法論に特化された研究法を学習することで大学院生が何を対象にして研究をおこなうのかについて具体的な計画を立案する手順を理解する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

『認知』という研究領域はかなり包括的な概念としてイメージされていることが多いが実際には嘗て『知覚』『感覚』『記憶』『発達』『認識』等に代表される個別の領域で研究・蓄積された知識が基礎になっており、それらの研究領域に特有な実験手法が背景にあったし現在もある。それらの実験手法を研究目的に応じて使い分けるための基礎的な訓練を通して研究とは何かについて個々の事例に則して深く理解し習熟することをもつばらの課題とする。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

複数の代表的な実験研究を紹介し、それらの研究が隣接諸科学とどのように関連しているかを理解することでサイエンスとしての心理学が科学全体のなかで置かれた立場を理解しなければならないが、その為にくつつかの研究例を紹介し、更に具体的な実験手法に触れることをおこなう。このように実習や演習を部分的に導入することで研究の実際が多様な技術の習得と修練の累積が必要であることを理解するような教育の方法を実施する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読みこんでおくことが求められる。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

提出するレポートの総合的な評価によって成績を決定する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 生物科学が受け持つ領域 (1) 認知
- 第2回 生物科学が受け持つ領域 (2) 行動
- 第3回 生物科学の中における動物実験の意味
- 第4回 動物実験と分子生物学の接点
- 第5回 動物実験とヒトを対象にした研究の接点
- 第6回 ヒトを対象にした行動科学研究のレポーター  
(1) 知覚と行為
- 第7回 ヒトを対象にした行動科学研究のレポーター  
(2) カップリング
- 第8回 行動科学で用いる研究法 (1) 実験
- 第9回 行動科学で用いる研究法 (2) 観察
- 第10回 行動科学で用いる研究法 (3) 調査
- 第11回 認知と行動を決定する生物科学的要件 (1) 遺伝
- 第12回 認知と行動を決定する生物科学的要件 (2) 成熟
- 第13回 研究法の実例 (1) 量的研究の例
- 第14回 研究法の実例 (2) 質的研究の例
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

頻繁に報告書の作成を課す。

講義コード (Course Code)	270803N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊研究 C (学校心理学)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	上田 恵津子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講 1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

学校教育に関わる諸問題について考察することを通して、学校および学校教育のあり方を探究する問題意識を養う。

本科目では、特に、学習、パーソナリティ、人間関係に関する様々な知見を取り上げて論じる。具体的には、教授・学習法、学習の動機づけ、学習と自己効力感、パーソナリティの形成と発達、自己形成、進路選択・進路意識、自己と他者との諸問題など、学校における人間の営みを様々な角度から捉えて考察する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 学校心理学の諸相について理解を深める。
2. 学校教育に関わる諸問題を考察する。
3. 学校心理学に関する各自の問題意識を追究する。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講者各自の問題意識に基づいて専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

発表に際しては、論文を精読し、レジюмеを作成して、周到に準備すること。

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表と討論参加 (50%)、レポート (30%)、授業態度 (20%) を総合して評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学習に関する問題 (教授・学習法)
- 第3回 学習に関する問題 (動機づけ)
- 第4回 学習に関する問題 (自己効力感)
- 第5回 パーソナリティに関する問題 (パーソナリティ理論)
- 第6回 パーソナリティに関する問題 (パーソナリティ形成)
- 第7回 パーソナリティに関する問題 (自己認知)
- 第8回 人間関係に関する問題 (親子関係)
- 第9回 人間関係に関する問題 (友人関係)
- 第10回 人間関係に関する問題 (対人行動)
- 第11回 受講者の研究テーマに関連する問題 (学習)
- 第12回 受講者の研究テーマに関連する問題 (パーソナリティ)
- 第13回 受講者の研究テーマに関連する問題 (人間関係)
- 第14回 受講者の研究テーマに関連する問題 (学校教育)
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270805N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊研究 E (心理療法)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	伊藤 一美・田中 誉樹
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講1

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では、個人の内面の力動や変容に焦点を置く来談者中心療法や精神分析、個人の行動の変容に力点を置く行動療法や認知行動療法、集団のダイナミクスから治療を考えるシステム論的アプローチや家族療法など、臨床心理学における代表的な治療理論を取り上げ、それぞれが目的とする心的・行動的変容のメカニズムについて研究し、さらに、諸理論の特徴を有効に生かしつつ統合的に心理療法を活用していく方法を研究していく。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 各種の心理療法について、歴史的背景も含めて理論を学ぶ。
- (2) 心理療法の実際について、具体的事例を踏まえながら、技法とその実際の適用方法とを学ぶ。
- (3) 受講者が自身の心理療法スタイルを探索・熟考し、心理臨床の専門家としての資質と実践力を高める。
- (4) いずれの心理療法にも共通する倫理的姿勢や社会的責任について学び、身につける。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

心理療法に関するさまざまな文献について、創始者の原著やそれらの技法を適用した事例論文などを講読する。それらについての、受講者による発表と討論を中心とする。時に、実際の事例（ただし、プライバシーの保護などの倫理的配慮を十分加えた上で）と関連付けながら、実践に還元できるように授業を進めていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

担当事例についての振り返りと、学会や研究会での事例発表やその聴講、事例研究の文献に触れ、自身の担当するクライアントについてのアセスメントとそれに基づく治療方針についての省察を怠らないこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

受講者自身の自発的な学びと討論とを中心とするため、発表と討論 (70%)、適宜実施されるレポート等 (30%) によって、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 心理療法のひろがり
- 第2回 来談者中心療法的アプローチ
- 第3回 精神分析的アプローチ
- 第4回 認知・行動療法的アプローチ
- 第5回 システムや集団を対象としたアプローチ
- 第6回 実存的アプローチ
- 第7回 統合的心理療法
- 第8回 事例検討と事例研究の違いを理解する
- 第9回 理論と事例から学ぶ - 来談者中心療法を用いた事例から -
- 第10回 理論と事例から学ぶ - 精神分析的・実存的心理療法を用いた事例から -
- 第11回 理論と事例から学ぶ - 認知行動療法を用いた事例から -
- 第12回 理論と事例から学ぶ - 遊戯療法を用いた事例から -
- 第13回 理論と事例から学ぶ - 家族療法を用いた事例から -
- 第14回 理論と事例から学ぶ - 統合的アプローチを用いた事例から -
- 第15回 心理療法の実践における倫理と社会的責任

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

取り上げる内容として、時に具体的事例を扱う場合もあるため、受講者のケースに対する倫理的配慮については厳格さと真摯な姿勢を求める。

また、受講者自身の問題意識に沿って特定の理論や技法についてより深めていくなど、受講者の積極的関与を希望する。

講義コード (Course Code)	270831N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・上田 恵津子・ 尾崎 仁美・河瀬 雅紀・田中 誉樹・ 廣瀬 直哉・松島 るみ・向山 泰代・ 村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D1 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習 I は、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 演習 (課題の設定) (1)
- 第3回 演習 (課題の設定) (2)
- 第4回 演習 (課題の設定) (3)
- 第5回 演習 (課題の設定) (4)
- 第6回 演習 (課題の設定) (5)
- 第7回 演習 (課題の設定) (6)
- 第8回 3専攻による合同演習 (1)
- 第9回 3専攻による合同演習 (2)
- 第10回 3専攻による合同演習 (3)
- 第11回 3専攻による合同演習 (4)
- 第12回 3専攻による合同演習 (5)
- 第13回 経過発表 (1)
- 第14回 経過発表 (2)
- 第15回 経過発表 (3)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270832N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・上田 恵津子・ 尾崎 仁美・河瀬 雅紀・田中 誉樹・ 廣瀬 直哉・松島 るみ・向山 泰代・ 村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D1 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅱは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な議論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 経過発表 (1)
- 第2回 経過発表 (2)
- 第3回 経過発表 (3)
- 第4回 経過発表 (4)
- 第5回 経過発表 (5)
- 第6回 経過発表 (6)
- 第7回 3専攻による合同演習 (1)
- 第8回 3専攻による合同演習 (2)
- 第9回 3専攻による合同演習 (3)
- 第10回 3専攻による合同演習 (4)
- 第11回 経過発表 (7)
- 第12回 経過発表 (8)
- 第13回 3専攻による合同演習 (5)
- 第14回 3専攻による合同演習 (6)
- 第15回 3専攻による合同演習 (7)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270833N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・上田 恵津子・ 尾崎 仁美・河瀬 雅紀・田中 誉樹・ 廣瀬 直哉・松島 るみ・向山 泰代・ 村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D2 (前期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅲは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な議論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 演習 (課題の設定) (1)
- 第3回 演習 (課題の設定) (2)
- 第4回 演習 (課題の設定) (3)
- 第5回 演習 (課題の設定) (4)
- 第6回 演習 (課題の設定) (5)
- 第7回 演習 (課題の設定) (6)
- 第8回 3専攻による合同演習 (1)
- 第9回 3専攻による合同演習 (2)
- 第10回 3専攻による合同演習 (3)
- 第11回 3専攻による合同演習 (4)
- 第12回 3専攻による合同演習 (5)
- 第13回 経過発表 (1)
- 第14回 経過発表 (2)
- 第15回 経過発表 (3)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270834N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・上田 恵津子・ 尾崎 仁美・河瀬 雅紀・田中 誉樹・ 廣瀬 直哉・松島 るみ・向山 泰代・ 村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D2 (後期)
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標とする。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な議論を行うことを通じて、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 経過発表 (1)
- 第2回 経過発表 (2)
- 第3回 経過発表 (3)
- 第4回 経過発表 (4)
- 第5回 経過発表 (5)
- 第6回 経過発表 (6)
- 第7回 3専攻による合同演習 (1)
- 第8回 3専攻による合同演習 (2)
- 第9回 3専攻による合同演習 (3)
- 第10回 3専攻による合同演習 (4)
- 第11回 経過発表 (7)
- 第12回 経過発表 (8)
- 第13回 3専攻による合同演習 (5)
- 第14回 3専攻による合同演習 (6)
- 第15回 3専攻による合同演習 (7)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270835N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅰ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D1 (集中)
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

### 5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅰでは、主論文 (博士論文) についての研究テーマと研究計画の立案を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。

講義コード (Course Code)	270836N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D2 (集中)
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

### 5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅱでは、主論文 (博士論文) についての研究テーマと研究計画の立案そして方法論の確立を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。

講義コード (Course Code)	270837N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D3 (集中)
備 考 (Note)	

### 1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

### 2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

### 3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)  
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
60時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

### 5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅲでは、主論文 (博士論文) についてのデータの分析と論文の執筆を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかを理解し、研究目的に沿ってデータの分析を進め、論文執筆を指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。